



2021 年度

かながわ文化芸術振興計画 年次報告書 素案

2022 年 8 月



目 次

I	かながわ文化芸術振興計画について	1
1	かながわ文化芸術振興計画とは	
2	かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け	
3	重点施策の実施状況の概要	
II	重点施策の実施状況	
	重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用	5
	重点施策2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等	8
	重点施策3 国際文化交流の充実	11
	重点施策4 東京2020大会を契機とした施策	13
	重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備	16
III	基本的な施策の実施状況	
1	県民の文化芸術活動の充実	18
2	文化資源を活用した地域づくりの推進	22
3	文化芸術の振興を図るための環境整備	24
IV	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中の主な文化プログラム	
1	東京 2020 組織委員会と連携した文化プログラム	26
2	関係団体等と連携した文化プログラム	28
V	施策事業の実施状況一覧	29
VI	進行管理のための参考指標等	
1	総合計画「かながわグランドデザイン」における文化芸術の位置付け	57
2	県立文化施設の利用者数	61
3	文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度	63
4	県立文化施設の利用率（ホール・劇場等）	64
5	過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合	70
VII	年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）	73

・表紙上段: 東京 2020 NIPPON フェスティバル「カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021 Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～」

・表紙下段: 日本舞踊に学ぶ‘和’の作法

I かながわ文化芸術振興計画について

1 かながわ文化芸術振興計画とは

本県では、文化芸術振興基本法（現文化芸術基本法）の趣旨に則り、文化芸術の振興についての基本理念や施策の基本となる事項を明らかにした神奈川県文化芸術振興条例（以下「条例」という。）を2008（平成20）年7月に制定し、2019（平成31）年4月に改定しました。

また、同条例に基づき、文化芸術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術の振興に関する基本的な計画を定めることを目的として、かながわ文化芸術振興計画を2009（平成21）年3月に策定し、その後、2014（平成26）年3月及び2019（平成31）年3月に改定を行い、現行計画を策定しました。

この現行計画は、2019（令和元）年度から2023（令和5）年度までの5年間の計画期間としており、これまでの間の文化芸術を取り巻く状況の変化とこれまでの取組の実績と課題を踏まえ、今後取り組むべき「基本的な施策」及び「重点施策」を整理しました。

2 かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け

県はかながわ文化芸術振興計画（以下「計画」という。）について、2009（平成21）年3月に策定後、2014（平成26）年3月に改定（以下「第2期計画」という。）し、2014（平成26）～2018（平成30）年度の5か年間に取り組む「重点施策」及び「基本的な施策」を掲げ、取組を進めました。

なお、現行の計画（計画期間：2019（令和元）年度～2023（令和5）年度。以下「第3期計画」という。）は、2019（平成31）年3月に改定を行っています。

この年次報告は、それぞれの施策に係る2021（令和3）年度の実施状況について県文化芸術振興審議会に報告し、御意見を踏まえまとめたものです。

このうち、重点施策については概要を3のとおり整理しました。

資料の構成は、「重点施策の実施状況」（5～17ページ）、「基本的な施策の実施状況」（18～25ページ）で整理しています。

「Ⅱ 重点施策の実施状況」（5ページ）

計画の施策体系のうち、「重点施策」と位置付けている各施策の実施内容を記載しています。また、その効果、課題、今後の方向性について、記載しています。

「Ⅲ 基本的な施策の実施状況」（18ページ）

計画に掲げる「基本的な施策」に位置付けられている各事業の実施状況について、その概要を記載しています。

「Ⅳ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中の主な文化プログラム」 (26ページ)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）開催期間中に実施した主な文化プログラムを記載しています。

「Ⅴ 施策事業の実施状況一覧」（29ページ）

2021（令和3）年度に実施した施策の概要を一覧にしています。

「Ⅵ 進行管理のための参考指標等」（57ページ）

施設の利用者数、利用率など量的なもの、文化芸術に関する県民の意識など質的なもの両面から、それぞれ関連するデータを記載しています。

I かながわ文化芸術振興計画について

3 重点施策の実施状況の概要（詳細は5～17ページに記載しています。）

「重点施策」に位置付けた各事業の2021(令和3)年度の実施状況は次のとおりでした。

重点施策1：地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用



カナガワ リ・古典プロジェクト in 小田原

○県民が伝統文化の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典プロジェクトin小田原」などの地域の伝統文化を紹介する事業を実施した。

○各地域で継承されている伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成することを目的として「かながわ伝統文化こども歳時記」を実施した。

重点施策2：子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等



共生共創事業 小田原シニア劇団

○「ともいきアートサポート事業」では、県立青少年センター・スタジオHIKARIの交流スペースや神奈川県庁新庁舎内での作品展示のほか、県立の特別支援学校にアーティストを派遣し、ワークショップや創作作品の展示会を実施した。

○高齢者による「シニア劇団」の運営や「シニアダンス企画」の実施など、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる取組を推進した。

重点施策3：国際文化交流の充実



カナガワビエンナーレ国際児童画展

○KAAT神奈川芸術劇場において、国内外のプロフェッショナルが交流するYPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）を開催し、日本の舞台芸術を国内外に向けて発信した。

○次代を担う子どもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化を理解し、交流を深めるふれあいの場となることを目的として、「カナガワビエンナーレ国際児童画展」を開催した。

I かながわ文化芸術振興計画について

重点施策4：東京2020大会を契機とした施策



東京2020 NIPPON フェスティバル「ONE - Our New Episode - in KANAGAWA」

○東京2020組織委員会が主催する「東京2020 NIPPONフェスティバル」に参画し、本県ゆかりの文化芸術各分野の一流アーティストが「共生社会の実現に向けて」を切り口とした動画を作成し、本県の文化芸術の魅力を国内外に向け発信した。

○県内の文化芸術イベント情報を集約した冊子「Cultural Programs in Kanagawa 2021-2022」を、日英併記で県内市町村と連携して作成するなど、「オール神奈川」で神奈川県内の文化芸術の魅力を広く国内外に発信した。

重点施策5：文化芸術の振興を推進するための環境整備



KAAT 神奈川芸術劇場

○KAAT神奈川芸術劇場や近代文学館などの県立文化施設において、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

○アーティスト等が県庁前の日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所を路上からオンライン上に移し、文化芸術オールジャンルの動画コンテスト「バーチャル開放区」を実施した。

2021年度も前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や延期となった事業があったが、そうした状況下においても、アーティストや文化芸術活動団体の活動の継続や、県民が文化芸術に触れる機会を確保するため、オンライン上での創作活動の成果発表の場や鑑賞の機会の提供など、「新しい生活様式※」のもとでの文化芸術活動の維持に向けた取組を推進した。

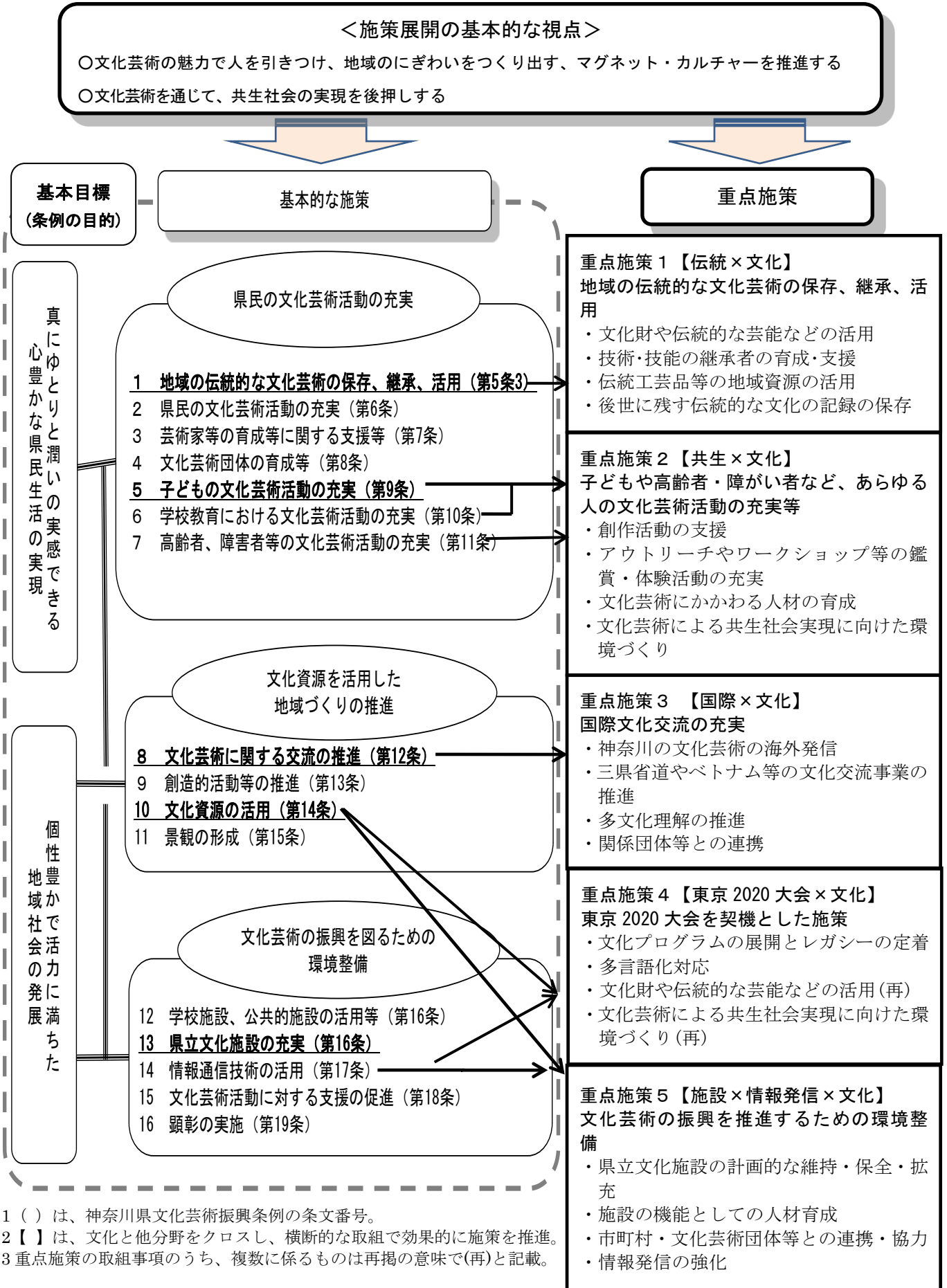
また、東京2020大会の機会を捉え、「共生社会の実現に向けて」をテーマに東京2020組織委員会が主催する「東京2020 NIPPON フェスティバル」に地方自治体として唯一参画した。東京2020大会が無観客開催になったことに伴い、中止ではなく動画配信に切り替えることなどにより、国内外に向けて本県の文化芸術の魅力を発信することができた。併せて、県内各地で開催される文化プログラムを「神奈川文化プログラム」として認証し発信する取組や、補助制度により、官民一体となったオール神奈川で文化プログラムの展開を図ったことで、文化芸術を通じた地域の活性化を推進することができた。

今後は、コロナ禍において大きく活動の制限を受けた伝統芸能をはじめ、本県の文化芸術を一層振興していくため、活動の場の提供や補助金等により、県内における文化芸術活動を支援するとともに、伝統芸能の普及振興や共生社会の実現、人材の育成を推進していく必要がある。さらに、東京2020大会の機会を捉えて実施した取組の成果を今後の事業に生かしていくため、市町村や関係団体等と引き続き連携し、年齢や障がいなどに関わらず誰もが県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しめるよう、文化芸術活動の裾野を広げる取組をオール神奈川で推進していく必要がある。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に取り入れた生活様式

I かながわ文化芸術振興計画について

<第3期計画（計画期間：2019年度～2023年度）の施策体系図> <施策体系図>



II 重点施策の実施状況

重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

1 施策の内容

(1) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信

市町村と連携しなら、県民が伝統芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」を2年ぶりに有観客で開催するとともに、日頃の稽古の様子や会場での演目を動画配信した。

また、昨年度はコロナ禍で中止した「かながわ民俗芸能祭」を無観客・オンライン配信で開催することで、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を醸成した。



カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原

(2) 伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援

伝統芸能についての理解と認識を深めるとともに、継承者の育成につながるよう、高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行う「相模人形芝居学校交流ワークショップ」を実施したほか、「人形浄瑠璃文楽」では文楽・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待し、青少年の伝統文化への理解を促進するとともに、継承、発展への機運を醸成した。

また、「かながわ伝統文化こども歳時記」は、開催時期を8月から2月に変更したことで、リアルで開催することが可能となり、伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化の体験プログラムを組み合わせた内容とし、子ども・青少年に対し、地域で継承されている伝統文化への理解を促進した。このほか、市町村と連携しながら、小・中学生を対象に日本舞踊等を体験できる「日本舞踊に学ぶ‘和’の作法」、能の歩き方や使用する楽器体験といった「能楽ワークショップ」により、伝統芸能の体験や観賞機会を提供した。



かながわ伝統文化こども歳時記

II 重点施策の実施状況

(3) 伝統工芸品等の地域資源の活用

ものづくりに必要な設備機器等の木製品製造事業者への貸出しや、新商品の試作等のための依頼加工・製作を実施し、工芸品を主とする木製品業者向けの支援を行った。

また、「工芸ヤングフォーラム」を実施し、木製品製造業に携わる若手工芸技術者を対象に、交流の場を提供した。

(4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存

新型コロナウイルス感染症の影響により、調査期間を3か年から4か年に変更したため、令和2年度より引き続き「吉浜の鹿島踊」をはじめとした県内に所在する「鹿島踊」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、当該芸能の特色を明らかにする調査を実施し、2021年度末に調査報告書を刊行した。

2015年度以降に県が実施した伝統芸能に係る事業について、報告書の整理を実施し、記録として後世に残していく取組を行った。

2 施策の効果

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、中止せざるを得ない事業があったものの、動画配信への切り替えや入場者数の制限などの新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとることで、講演やワークショップを開催し、さらに、日々の稽古の様子等の動画を制作し配信するなど、伝統芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解・認識を深めるとともに記録を保存することができた。

「かながわ伝統文化こども歳時記」では、ホール公演に加え、「片瀬こま」の長回しチャレンジなどの体験コーナーを設置したところ大変盛況であり、アンケートでも「日常の中で伝統芸能に触れる機会が減っているなかで、このようなイベントを開催いただきありがとうございます。6歳の子どもと一緒に楽しめました。」という御意見をいただくなど好評であった。また、「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」のアンケート結果では、「大変満足している」・「満足している」が84.0%、「伝統文化の持つ魅力・価値に大変興味を持った」が53.3%と、好評を得るとともに、本県ゆかりの伝統文化の魅力を発信できた。

3 今後の課題

人口減少の影響などにより、地域において伝統芸能の継承者がいなくなるという課題がある中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止せざるを得なかった事業もあり、これまでと比べて文化芸術に触れる機会が減少してしまっている。複合的な原因が重なって価値共有が難しくなってしまったことで、伝統文化が失われていくおそれがある。そのため、公演事業については若年者層の来場を増やすとともに、ワークショップについては、県内各地域で実施し、次世代を担う青少年の参加者をより増やすための取組が必要である。

II 重点施策の実施状況

4 今後の方向性

県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統芸能を知る機会を持ち、価値を知って大切に継承していけるような公演・ワークショップ等の事業や、伝統芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。

その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を進める。

また、次世代を担う青少年が文化財や伝統芸能に興味を持つような企画・広報を目指し、より幅広い世代に発信する取組を進める。特に、子どもに興味関心を持ってもらうため、公演事業においても、体験の要素を取り入れた事業を展開する。



相模人形芝居学校交流ワークショップ

重点施策2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等

1 施策の内容

(1) 創作活動の支援

全国公募による「神奈川県美術展」や、中高生を対象とした「神奈川県美術展中高生特別企画展」を2年ぶりに開催し、コロナ禍にあつて来場者は関係者に限定したものの、平面立体・工芸・書・写真といった様々な作品発表の機会の充実を図るとともに、東京2020大会期間に合わせて、展示期間を前倒しし、障がい者のある人たちのアート活動を中心とした「ともいきアート展」も行った。

また、青少年センターで実施している、未来のライブパフォーマンスを創造する若い才能の発掘と育成を目指す取組である「マグカルシアター」に採用された団体に対し、公演会場としてスタジオHIKARIやかながわアートホールの無料での貸出しや、舞台芸術活動を通じた青少年の健全育成を目的に「青少年ダンス発表会」、「中学校創作劇発表会」などを開催した。

(2) アウトリーチやワークショップ等の鑑賞・体験活動の充実

県立文化施設での子どもたちを対象とした公演として、KAAT神奈川芸術劇場における「KAATキッズプログラム」や県民ホール本館における「オープンシアター2021」、音楽堂における「子どもと大人の音楽堂」などを実施し、演劇や音楽、ダンスなど、様々な芸術作品をホールで鑑賞し、体験する機会を提供した。

また、公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団との共催により、県内の小学校にてワークショップによる音楽指導及びオーケストラの演奏を届ける音楽芸術体験事業「ゆめコンサート」を実施した。

さらに、ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）においては、県立の特別支援学校等にアーティスト等を派遣してワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会を実施した。



子どもと大人の音楽堂〈子ども編〉 ©青柳聡

(3) 文化芸術にかかわる人材の育成

青少年センターにおいて、マグカルシアターに出演する団体等の作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質的向上を図った。「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」では声楽、ダンス、演技、各分野の一流講師陣による実践的なレッスンを行い、これまでの活動の集大成として、青少年センターがある紅葉坂を題材とした新作ミュージカル作品の上演を目指す（新型コロナウイルス感染症の影響で公演は中止）など、舞台芸術のアーティストの育成を図った。

II 重点施策の実施状況

また、県民ホール本館では「舞台芸術講座」、KAAT 神奈川芸術劇場では「劇場運営インターン」を実施し、国際的に通用する真のプロフェッショナル人材の育成のための取組を推進したほか、KAAT 神奈川芸術劇場で県立神奈川総合高校舞台芸術科の生徒を対象とした舞台芸術研修を実施し、文化施設での業務全体を体験できる取組を実施した。

(4) 文化芸術による共生社会の実現に向けた環境づくり

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」において、シニア劇団の運営やシニアダンス企画を実施し、オンラインでのダンスレッスン等を開催した。このほか、高齢者や障がい者等が出演する演劇やダンス作品を動画配信した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作等）の作品展示の場を用意したほか、ライトセンターにおいて視覚障がい者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」では、障がいのある方が、身近な地域で芸術文化に触れることができるよう支援するため、相談支援事業やワークショップの実施、コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。

その他、舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業として、その集大成となる公演「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック 『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit. —』」を実施した。



オンラインを活用したシニアダンス企画のワークショップ

2 施策の効果

県立文化施設での子ども向け公演の開催、オンラインでのアウトリーチやワークショップ等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者等が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。

青少年に対する舞台芸術にかかわる人材の育成については、舞台への出演を通じて青少年の思考力やコミュニケーション能力などを養い、健全育成に寄与することができた。

「シニア劇団」やシニアダンス企画「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」の参加者へのアンケート結果では、「心や体が元気になったと感じた」と回答した方の割合が77.9%あり、高齢者の文化活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与することができた。

「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」で障がい者の文化芸術を支援するコーディネーター養成のための研修会や勉強会をオンラインで開催し、障がい者を対象とした、ダンスや音楽、美術のワークショップも一部オンラインで実施することで、コロナ禍においても感染症対策をしながら事業に取り組み、障がい者の文化芸術活動を支援する体制の充実に貢献した。

II 重点施策の実施状況

3 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約がある中でも、継続して文化芸術活動を行うことができるよう、引き続き場の提供や広報等による支援や普及を進める必要がある。

また、青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、趣味・趣向が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく必要がある。

共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、共生共創事業の実施地域に偏りが生じていることから、共生の理念の一層の浸透を目指し、文化芸術団体等による取組との連携を図ることで、県内全域での事業展開を推進し、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与する必要がある。

4 今後の方向性

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、他分野との連携も図りつつ創作活動の支援や発表の場の提供を広げていく取組を引き続き行っていくとともに、アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するなど、オンラインでの実施方法も検討しながら、県内全域での実施を目指す。

また、舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。



共生共創事業

重点施策3 国際文化交流の充実

1 施策の内容

(1) 神奈川の文化芸術の海外発信

KAAT 神奈川芸術劇場において、2021 年度から名称を T P A M (国際舞台芸術ミーティング in 横浜) から Y P A M (横浜国際舞台芸術ミーティング) に変更し、名実ともに神奈川県内での開催となった舞台芸術のプロフェッショナルが交流するイベントを、複数の文化芸術関連団体等と共同で開催し、舞台芸術の国際交流の拠点としての役割を發揮した。また、Y P A M 連携プログラムとしてタイ語アニメーション「hesheit」を上映するなど国際交流の推進を図った。

また、地球市民かながわプラザ等において、「第 21 回カナガワビエンナーレ国際児童画展」を開催し、絵画を通じて国際理解と国際交流の推進を図った。



Y P A M ヤン・ジェン「Jasmine+Town」 撮影：土田祐介

(2) 三県省道(※)やベトナム等の文化交流事業の推進

これまでの県とベトナムの交流や県内で努力を続けるベトナム人を紹介することにより、ベトナム人の文化や人柄を県民に知ってもらい、地域内における共生促進に寄与するため、「かながわ・ベトナム パネル展」を商業施設等において開催した。

また、三県省道では、相互に友好提携を締結している中国・遼寧省、韓国・京畿道とオンラインで会議を開催し、3 地域共通の課題について、情報を交換するなど、ネットワークの形成を図った。



かながわ・ベトナム パネル展

※相互に友好提携を結んでいる、神奈川県、中国・遼寧省(りょうねいしょう)、韓国・京畿道(キョンギド)の3地域のこと。

(3) 多文化理解の推進

多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザにおいて、展示学習やワークショップなどの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワー

II 重点施策の実施状況

ク事業等を実施した。また、多文化共生イベント「あーすフェスタかながわ 2021」については、NPO等の協力団体や外国籍県民等のボランティアと協力してオンラインで開催し、コメント機能や投票機能を活用した参加型企画により、多文化理解の周知促進を図った。

(4) 関係団体等との連携

(公財)かながわ国際交流財団が、国際交流や国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現を目的とした各種事業を展開しており、高校生等を対象に、日本と外国の異なる文化や多様な価値観等を知るための参加型セミナーをオンラインにより開催した。

また、大学生等を対象に、県内NPO等市民による多文化共生活動について学ぶセミナーを開催し、青少年が国際理解や課題を学ぶことにより、今後、主体的に学ぶきっかけを提供した。

2 施策の効果

Y P A M (横浜国際舞台芸術ミーティング)では、オンライン配信を含む公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換やネットワーク構築の場を提供できた。

多文化理解の推進については、イベントにより外国人や外国籍県民と県民との交流が促進され、また、学生向けのセミナーを開催することにより、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。

3 今後の課題

今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、ベトナム交流イベントの開催は叶わなかったが、これまで構築したネットワーク等を活用し、交流を継続していくとともに、ベトナム政府と締結した覚書に基づき、人材交流を促進する必要がある。

また、若い世代やより多くの外国籍県民等が参加・交流できる事業を実施し、多文化理解の推進に取り組む必要がある。

4 今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度もリアルでの国際交流事業は難しい状況にあったが、今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら、オンライン配信を活用し、神奈川発の文化芸術を海外に発信していくとともに、県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく。

また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民等に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。



あーすフェスタかながわ 2021

重点施策4 東京2020大会を契機とした施策

1 施策の内容

(1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着

県内各地の様々な文化イベントなど、277件を「神奈川文化プログラム」として認証し、神奈川県全体で一体感を高め、東京2020大会に向けた文化イベント等の機運醸成を図った。また、東京2020組織委員会が主催する東京2020大会公式文化プログラムである「東京2020NIPPON フェスティバル」の主催プログラムに地方自治体として唯一参画し、「カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021 Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～」を配信した。また、「東京2020 NIPPON フェスティバル」の共催プログラムとして「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台～」を配信した。



東京2020 NIPPON フェスティバル「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台～」

(2) 多言語化対応

「東京2020 NIPPON フェスティバル『カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021 Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～』」のホームページは日本語版と併せて英語版ホームページを作成した。また配信した動画では英語の字幕を設定した。「東京2020 NIPPON フェスティバル『静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台～』」の動画では英語、中国語の字幕を設定し、また、幕間に演出家・出演者による解説を加え、海外でも視聴し日本文化への理解を深めていただけるよう努めた。

県内の文化芸術イベント情報をカレンダー形式で掲載する情報誌「イベントカレンダー」や東京2020大会の機会を捉え本県の文化芸術の魅力をアピールする「イヤーズブック」を、日英併記で作成し、インターネット上でも掲載するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮しながら、適時適切な文化イベント情報の収集・発信を行った。



東京2020 NIPPON フェスティバル
「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台～」幕間
I had to take such things into consideration when deciding on positions and movements.

多言語情報紙「こんにちは神奈川」の発行に当たり、記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に

II 重点施策の実施状況

取りやすい紙面となるよう工夫をした。

また、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向け特集記事を作成し、多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。

(3) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信（重点施策1の再掲）

市町村と連携しながら、県民が伝統芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」を2年ぶりに有観客で開催するとともに、日頃の稽古の様子や会場での演目を動画配信した。

また、昨年度はコロナ禍で中止した「かながわ民俗芸能祭」を無観客・オンライン配信で開催することで、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を醸成した。

(4) 文化芸術による共生社会実現に向けた環境づくり（重点施策2の再掲）

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」において、シニア劇団の運営やシニアダンス企画を実施し、オンラインでのダンスレッスン等を開催した。このほか、高齢者や障がい者等が出演する演劇やダンス作品を動画配信した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作等）の作品展示の場を用意したほか、ライトセンターにおいて視覚障がい者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」では、障がいのある方が、身近な地域で芸術文化に触れることができるよう支援するため、相談支援事業やワークショップの実施、コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。

その他、舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業として、その集大成となる公演「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit. 一』」を実施した。

2 施策の効果

東京2020大会公式文化プログラムである「東京2020 NIPPON フェスティバル」のうち、東京2020組織委員会による主催プログラムに、地方公共団体で唯一参画し、「共生社会の実現に向けて」をテーマに、本県の文化芸術の魅力を国内外に向け発信し、共催プログラムと合わせて25,450回視聴されるなど、共生社会の理念の浸透に一定の効果があった。

「イヤーブック」や「イベントカレンダー」により東京2020大会を契機にした文化プログラムなどを積極的に発信するとともに、「マグカル・ドット・ネット」において、今後のインバウンド需要を喚起するため、通年で英語によるインターネット広告を行ったことから、より多くの方が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知に貢献するとともに、将来的な観光客の誘客に寄与することができた。

II 重点施策の実施状況

3 今後の課題

「神奈川文化プログラム」の認証は、コロナ禍の影響を受け、認証件数は277件と目標の60.2%に留まったものの、芸術文化団体等に対して一定の認知を得ることができた。今後は、各イベントと連携して相乗効果を図るなど、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。

また、東京2020大会の機会を捉え、官民一体となってオール神奈川で盛り上げてきた文化プログラムや文化芸術振興の取組をレガシーとして継承し、「共生社会」の理念の一層の浸透を図るとともに、誰もが文化芸術活動に参加し楽しめるよう文化芸術活動の裾野を広げる取組を推進する必要がある。

4 今後の方向性

東京2020大会終了後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、各地の文化芸術活動が盛り上がるよう文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京2020大会のレガシーとしてより充実したマグカル事業を展開していく。

その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。



イヤーブック

重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備

1 施策の内容

(1) 県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充

県民ホール本館では非常放送設備の改修工事、KAAT 神奈川芸術劇場ではホール吊物機構の改修工事、近代文学館ではエレベーターの改修工事など、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

また、青少年センターではホール天井等の改修工事に係る契約手続きや、舞台用エレベーターの改修工事に係る実施設計を行った。

(2) 施設の機能としての人材育成

県民ホール本館や KAAT 神奈川芸術劇場において、劇場体験インターンなどを展開し、各施設の特徴を生かした文化芸術に関する人材の育成を実施した。

また、青少年センターでは生徒と教員を対象とした「中・高等学校演劇講習会」等を実施し、舞台芸術創作の学習機会を提供した。



高等学校演劇講習会

(3) 市町村・文化芸術団体等との連携・協力

文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議文化プログラム推進部会を书面開催し、県と市町村の文化行政について情報共有を行い、連携を強化した。

また、県内の市町村や様々の文化芸術団体と協力し、「かながわ民俗芸能祭」や「共生共創事業」、プロのオーケストラによるアウトリーチなど、様々な事業をオンライン等、実施方法を模索しながら実施した。

(4) 情報発信の強化

県庁前の日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所をオンライン上に移し、文化芸術オールジャンルの動画コンテスト「バーチャル開放区」を実施した結果、572 件の応募があり、327, 518 回の総再生回数があったほか、映像だからこそ表現できた作品が応募されるなど、文化芸術を楽しむ場としての価値が認知された。



バーチャル開放区 入賞作品 1位「仲間」こすかのつっきー

II 重点施策の実施状況

県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する特集記事を掲載するとともに、SNS を利用し、各媒体のユーザーに合った情報を提供して情報発信の強化を行った。

情報誌については、県内の文化芸術イベント情報をカレンダー形式で掲載する「イベントカレンダー」を日英併記で作成し、情報発信を行った。

2 施策の効果

改修工事等を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために必要な整備を行うことができた。

学生を対象とした各種育成事業を実施し、文化芸術施設の現場に早いうちから触れることで、スキルアップやモチベーションの向上に寄与することができた。

また、市町村・文化芸術団体等との様々な事業や「バーチャル開放区」については、オンラインでの場の提供など「新しい生活様式」のもとで事業継続に取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化施設などを直接訪れることができなかった県民が、文化芸術に触れる機会を創出することができた。

3 今後の課題

県民ホール本館は開館から 47 年、音楽堂は 67 年が経ち、必要に応じて改修を行ってきた。全国的に劇場・音楽堂等の文化施設の老朽化が問題になっている中で、本県も県立施設の長寿命化等に向けて、必要な修繕や拡充を計画的に進めてきたが、これまで以上に積極的に実施していく必要がある。

今後の文化芸術の継承、発展のため、より魅力的な人材育成事業を充実させ文化芸術の担い手確保につながる取組や、市町村や文化芸術団体等との連携を生かしつつ、コロナ禍で停滞した文化芸術を振興していくための取組を推進する必要がある。

4 今後の方向性

県民ホール本館などの県立文化施設については、計画的な維持、保全、拡充に努め、ソフト面の環境整備については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施していく。

情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向けに多言語化翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネットによる広報を継続して展開していく。

また、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全・安心な文化芸術の鑑賞機会を提供していくとともに、東京 2020 大会を機に強化された市町村や文化芸術団体との連携を活用し、コロナ禍でその重要性が再認識された文化芸術活動を盛り上げ、地域のにぎわいにつなげていく。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

1 県民の文化芸術活動の充実

(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

【施策の方向性】

地域の伝統的な芸能の大切さについての理解、認識を深めるとともに、後継者の育成につながるよう、市町村と連携しながら伝統的な芸能の体験・鑑賞機会の提供、発表機会の確保などに取り組む。

文化財の保護を図るため、未指定文化財を調査し、指定等の保護措置を講ずるほか、文化財の活用・保護の普及啓発のため、展覧会や講座などを開催する。

【主な施策の内容】

重点施策1及び4に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して公募により補助金を交付し、支援を行った。
- ・ 指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。
- ・ 県立歴史博物館において、神奈川県文化と歴史に主眼を置いた資料の収集や収蔵資料の定期的な修繕を行った。

(2) 県民の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設での文化芸術に関する講座・講演会等の開催や、広報誌やホームページなどで文化芸術に関する情報提供を行うことにより、県民の文化芸術に対する関心や理解を深める。

県立文化施設での公演、展覧会などの鑑賞機会の提供や優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する文化芸術団体への支援により、県民の鑑賞機会の充実を図る。

県民が文化芸術活動（創作・練習・稽古・発表等）を行う際に利用できる文化施設を運営するとともに、県民が参加できる展覧会やコンクールなどの開催により、県民自らが行う文化芸術活動を支援する。

県内各地で開催される文化芸術の催しや文化芸術団体の活動情報など、県民が文化芸術の鑑賞や活動を行う際に必要とする情報を広報誌やホームページなどで提供する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川近代文学館や県立金沢文庫等の県立文化施設において、展覧会の開催に合わせて説明会や講演会を実施した。
- ・ 県民ホール本館や音楽堂等において、現代音楽やオペラ、バレエ、クラシック音楽コンサートといった様々なジャンルの舞台芸術の公演を実施し、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。
- ・ 「神奈川芸術プレス」や「季刊誌 神奈川芸術劇場 KAAT PAPER」を発行し、県民ホール本館、KAAT 神奈川芸術劇場及び音楽堂の公演情報や県内の文化情報等を周知した。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

(3) 芸術家等の育成等に関する支援等

【施策の方向性】

将来の活躍が期待される芸術家等の発掘や育成支援を実施し、また、文化施設で催される様々な公演事業を支える舞台技術者等の育成に取り組む。

県立文化施設などを活用し、芸術家等が創作・練習・稽古等に利用しやすい仕組みづくりを行うなど、創作のための環境の整備を図る。

芸術家等の創造的活動の成果を発表するための展覧会や公演事業などを開催するとともに、県立文化施設の主催事業などで将来の活躍が期待される芸術家等の積極的な登用を行う。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、また、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。
- ・ 次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図ることを目的とした、「フレッシュ・コンサート」や「かながわ音楽コンクール」を実施した。

(4) 文化芸術団体の育成等

【施策の方向性】

文化芸術団体の自主的な活動を支援することにより、文化芸術団体の多様な活動を促進するとともに、文化芸術団体との連携・協働に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 上限額を変更し、より多くの事業を採択できるよう工夫した「マグカル推進事業補助金」により、神奈川文化プログラムの核となる事業を実施する団体へ、支援を行った。
- ・ 県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して公募により補助金を交付し、支援を行った。
- ・ 文化芸術団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。
- ・ かながわ児童劇グループ交流会を実施し、地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供した。
- ・ マグカルシアター上演団体に代表される若手の舞台芸術団体のうち、将来的に鑑賞事業としてのクオリティに耐えられる作品を制作するステップアップのための公演の機会を提供するとともに、青少年が優れた舞台芸術作品に触れる機会を提供した。

(5) 子どもの文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設で子どもたちが様々な文化芸術を鑑賞する機会を提供する。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

子どもたちが自ら行う文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術を体験する機会の充実を図る。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ かながわアートホールにおいてコンサートや打楽器演奏、公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団の指導を経て、団員と共演する「ジュニア管弦オーケストラ」を実施した。
- ・ 藤野芸術の家において、気軽に参加できる常設事業や募集型の体験事業、季節限定体験事業を実施し、子どもから大人まで多くの人々が自ら陶芸・木工・ガラス工芸等の制作活動を通して、文化芸術に親しむ機会を提供した。
- ・ 神奈川近代文学館において子どもの長期休み期間に合わせて、映画の鑑賞会や紙芝居を行う「かなぶんキッズクラブ」を実施し、子どもたちが文学作品に触れる機会を提供した。
- ・ 県立近代美術館において、教材の無償提供、貸出を病院や学校に対して行い、学びの支援を実施した。
- ・ 公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内の特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。

(6) 学校教育における文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

小中学校などの学校教育における文化芸術に関する体験学習などの充実を県及び市町村の教育委員会と連携して図るとともに、芸術家等や文化芸術団体が学校教育の中で行う文化芸術活動に必要な協力や支援を実施する。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 中・高等学校を対象に、演劇の講習会・発表会を開催した。
- ・ 青少年の舞台表現のためのスキルアップクラスでは、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（演出、舞台美術、ダンス振付）を実施し、時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供した。
- ・ 高校ダンス部を対象とした「心技体+創ワークショップ」を実施し、ヒップホップ等の比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、ダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供した。
- ・ 「音楽堂ふれあいアウトリーチ」により、小学校で鑑賞と体験ワークショップを実施することで、文化施設を訪問しない児童にも文化芸術活動の機会を提供した。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

(7) 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

高齢者、障がい者、子育て中の保護者などが、文化芸術に親しみ自ら文化芸術活動を楽しめるよう、文化芸術団体と協力しながら、文化芸術の鑑賞機会の提供や自らが文化芸術活動を楽しむための取組を推進するとともに、文化施設のバリアフリー化や利用サービスの向上に努める。

【主な施策の内容】

重点施策2及び4に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内の特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。
- ・ KAAT 神奈川芸術劇場託児ルームを設定し、主催公演において、乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術鑑賞機会の提供に寄与した。
- ・ かながわアートホールにおいて、乳幼児・未就学児同伴可能な「ホームクリスマスコンサート」を有観客及びオンライン配信により実施し、子育て中の親子が上質な音楽を鑑賞する機会を提供した。

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

(1) 文化芸術に関する交流の推進

【施策の方向性】

国民文化祭等への参加や他県との交流事業の実施などにより、文化芸術の地域間交流を推進する。

文化芸術を介した国際交流事業の実施や県立文化施設での海外の作品の鑑賞機会の提供などにより、国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進する。

多文化共生イベントの開催や多文化理解を深めるための講座を実施するなど、多文化理解を推進する。

【主な施策の内容】

重点施策3に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県立歴史博物館において、埼玉県や東京都などの県外の博物館等の展覧会に収蔵資料の貸出しを行い、展覧会の充実に貢献するとともに、博物館同士のネットワークづくりを強化した。
- ・ 県立近代美術館において国内外の近現代美術の調査研究に基づく、巡回型の展覧会（「香月泰男」展、「奥谷博」展）を実施し、他県との文化芸術を介した交流に貢献した。
- ・ 県立金沢文庫において、特別展の実施にあたり、他の博物館や社寺などから文化財の借入れを行い、展示内容を充実させるとともに博物館以外の文化財保有施設とのネットワークを構築した。
- ・ 県高等学校総合文化祭の開催や全国高等学校総合文化祭への生徒派遣を通して、高校生の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化の促進を図った。
- ・ 文化芸術の地域間交流推進のため、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース作品等の公演を他府県で展開した。

(2) 創造的活動等の推進

【施策の方向性】

県立文化施設の活用や文化芸術団体との連携により、新しい文化芸術の創造的活動を推進するとともに、これらを国内外に発信する取組を実施する。

【主な施策の内容】

重点施策5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ KAAT 芸術劇場において、気鋭のアーティストを起用し、また国内外の優れた制作者との共同制作公演にも積極的に取り組み、施設の特性を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

(3) 文化資源の活用

【施策の方向性】

県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用方策を検討する。また、地域の活性化等に活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家、企業などとの連携により有効活用に努めるとともに、その魅力を広くPRするための情報発信に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 湘南邸園文化祭2021を開催し、相模湾沿岸地域一帯の邸宅・邸園等の価値を周知するとともに、保全活用の必要性について啓発を行った。
- ・ PRイベントやフォトコンテスト作品展、ジオツアー、ガイド養成講座等を実施し箱根ジオパークに対する地域の機運醸成及びジオパークとしての環境整備を行った。
- ・ 県立図書館・音楽堂が神奈川県指定重要文化財（建造物）に指定され、前川國男が手掛けたモダニズム建築の代表作としての価値が再認識された。
- ・ 「日本遺産」新規認定申請について、県内市町村等への周知や、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。
- ・ 「観光かながわNOW」において、Webサイト利用者の利便性向上及び誘客の促進のため、美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ（クリックابل）の掲載や、タイムリーなイベント情報の提供を行った。

(4) 景観の形成

【施策の方向性】

県内各地の自然景観、歴史的景観、都市景観などの良好な景観の形成に当たっては、文化的諸条件などに配慮し、魅力ある景観づくりに取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 地域の特性を踏まえた景観行政を推進するため、景観行政団体に移行し景観計画を策定することの必要性について、未移行団体に対して啓発を行った。
- ・ 文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県内市町村に周知した。

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

(1) 学校施設、公共的施設の活用等

【施策の方向性】

学校開放などの取組により、空き教室や休日等の学校施設を県民の文化芸術活動のために利用できるよう努める。また、文化施設以外の庁舎などの公共的施設についても、作品の展示などの利用ができるよう取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 県立学校の図書館、音楽室などの学習施設や、グラウンド・体育館などの体育施設を県民の学習や文化活動、スポーツ活動の場として提供した。

(2) 県立文化施設の充実

【施策の方向性】

県立文化施設では、文化芸術の鑑賞や活動、交流の場としての機能に加えて、施設の特性に応じて、文化芸術に関する人材の育成や教育普及活動に取り組む。

県立文化施設の機能を最大限に発揮させるため、効果的な事業の実施や効率的な施設運営等について、適切な検証を行う。

県立文化施設の文化芸術発信拠点としての機能を充実させるため、長寿命化や県民ニーズに対応した施設改修や、文化資源を収蔵するための施設整備に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として「美術制作ワークショップ」と「リーディングワークショップ」を開催し、インターンシップのプログラムの一環としても活用した。
- ・ 県立文化施設の指定管理者に対して、県の行政管理課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」等に基づき、協定書に定めた利用者満足度調査を実施した。
- ・ 県民ホール本館、KAAT 神奈川芸術劇場及び音楽堂の3館一体による効率的な運営が行われているかをチェックするため「神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会」を設置し、公募委員を含む委員により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について書面会議を開催した。

(3) 情報通信技術の活用

【施策の方向性】

文化芸術に関する情報や資料などを容易に入手できるよう、ホームページや電子メールを活用した情報提供を行うとともに、東京2020大会を契機とし、多言語による情報提供を推進する。

また、県立文化施設が保管・保有する公開資料を容易に利用できるよう、検索や閲覧に情報通信技術を活用するよう取り組む。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

県立文化施設の利用手続において、窓口を訪れる負担などを軽減するため、情報通信技術を活用し、自宅から利用予約が可能となるよう、利用者サービスの向上に取り組む。

県立文化施設に保存・保管されている文化芸術にかかわる資料について、デジタル化、データベース化を図り、利用者の利便性を高める取組を推進する。

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県立歴史博物館において、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、外出自粛が続く中、「おうちでかながわけんぱく」等のホームページを活用した情報発信を実施した。
- ・ 神奈川近代文学館や県立金沢文庫において、所蔵資料のデータベース化を実施し、利用者がPCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを公開した。
- ・ 県立近代美術館において、収蔵資料等をアーカイブ化し、インターネット上で公開した。
- ・ 施設予約システムにおいて、原則24時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図った。

(4) 文化芸術活動に対する支援の促進

【施策の方向性】

文化芸術の振興に寄与する寄附税制等の周知などにより、個人や企業からの寄附や支援が活発に行われるよう取り組む。また、文化芸術活動に参加するサポーターについて検討を行う。

【主な施策の内容】

- ・ かながわキンタロウ寄附金（ふるさと納税）を利用し、文化芸術に触れる機会が少ない方々に対して、オーケストラを鑑賞する機会を提供するための支援を実施した。
- ・ （公財）神奈川芸術文化財団が（公社）企業メセナ協議会に会員として参加し、情報収集を行った。

(5) 顕彰の実施

【施策の方向性】

文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体、また、文化芸術の振興に寄与した人や団体の顕彰を実施する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。

IV 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中の 主な文化プログラム

1 東京 2020 組織委員会と連携した文化プログラム

「共生社会の実現」を推進するとともに、将来的な本県への誘客を促進するため、東京 2020 大会の公式文化プログラムである「東京 2020 NIPPON フェスティバル」として、次の 2 事業を実施した。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、無観客でのオンライン配信に変更し、国内外に向けて本県の文化芸術の魅力を発信した。

(1) カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021 ～Our Glorious Future～KANAGAWA 2021～

「共生社会の実現に向けて」をテーマに、東京 2020 組織委員会による主催プログラムに地方公共団体として唯一参画し、本県にゆかりのある文化芸術各分野の一流のアーティストが、障がい者などととともに作り上げるダンスや演劇などによる文化プログラムを配信した。

- ・配信日 令和 3 年 8 月 16 日（月）から 9 月 10 日（金）にかけて、順次配信
- ・動画本数 22 本
- ・視聴回数 20,781 回

(ア) 全体紹介

- ・各部門ダイジェスト映像

(イ) ダンスのミライ（ディレクション：森山開次）

- ・LIVE BONE×大前光市 外 7 本

「1 人ひとり異なるからだ」をテーマに森山開次・ひびのこづえ・川瀬浩介による協働作品『LIVE BONE』シリーズとして、義足のダンサー・大前光市をゲストアーティストに招き、前川國男建築の代表作 神奈川県立音楽堂で制作した新作映像のほか、AR 森山開次、大前光市ソロパフォーマンス、海の中で共生する多様な生き物を色鮮やかに描くパフォーマンス「WONDER WATER」を順次公開した。スマートフォンからのアクセスで、森山開次の“キモかわ”ダンスを眼の前で楽しめる「AR 森山開次」も制作した。

(ウ) 演劇のミライ（総合ディレクション：多田淳之介）

- ・老いと共生『菅原直樹氏：老いとぼけと演劇～認知症の人と“いま、ここ”を楽しむ～』 外 3 本

多田淳之介総合演出による、自分や他人を知ることから共生社会の実現へ一歩踏み出すためのプロジェクト。共生へのヒントやきっかけとなる活動をされている方へのインタビューやワークショップのドキュメント映像、そして盆踊りをモチーフに、亡くなったヒト、失ったモノ、そして今いるわたしたちのこれからのためのセレモニー映像を制作した。

(エ) アートのミライ（キュレーション：藤川悠）

- ・「Culturing <0/Paper>cut」（岩崎秀雄） 外 4 本

前川國男の建築群を舞台に、人・生物・光・音・風など有形無形のもの創られた 5

組のアーティストの作品を取り上げた。人の居ない空間に佇む作品を通し、本来であれば迎える予定であった人間の存在に深く想いを馳せ、ささやかな存在と多様なものたちとの共生について考えを巡らせるひとときを創出した。

(オ) 音楽のミライ

- ・「楽しさを分かち合おう！」(サルサガムテープ)

多様性や共生社会を声高にアピールするのではなく、ライブ演奏を通して、サルサガムテープそのものが、多様性や共生社会を目の前で具現化した。自由なライブ空間の中で、楽しさを分かち合い、本来必要のなかった心の壁がゆっくり崩れていく心地よさを体験できる映像を配信した。尺八演奏家の大山貴善とのジョイント演奏も行った。

- ・「時をかける^{ヒビキ} 韻 ～奇蹟の尺八 三橋貴風～」

公演の前半は古の虚無僧の音楽から上方の地歌、そして武満徹ほかの現代の音楽、そして後半はギリシャの楽器ブズキ等とのコラボで、音楽の十字路を表現した。

(カ) 工芸のミライ

- ・「青・黄・黒・緑・赤 前田正博作陶 50 周年 色の風景展

同時開催 白石和宏・小林佐和子 神奈川の作家展」 外 1 本

2019 年第 68 回神奈川文化賞を受賞するなど、半世紀以上、神奈川・横浜を拠点に創作を続け、現代工芸界をリードする陶芸家 前田正博の華やかでありながら繊細、かつ重厚感のある作品を紹介した。同時に、神奈川を代表する陶芸家、白石和宏と小林佐和子のオンライン展覧会も実施した。

(2) 静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台～

鎌倉時代を題材とした日本の伝統芸能である「能楽」と西洋の伝統文化である「オペラ」の融合による創作舞台を、東京 2020 組織委員会との共催プログラム（全国で 32 件選定）として、無観客で配信した。

- ・配信日 令和 3 年 8 月 7 日（土）15 時～17 時ライブ配信
令和 3 年 8 月 20 日（金）からアーカイブ配信
- ・内 容 第 1 部 能「船弁慶」（前半（静御前と義経の別れ）のみ）
幕 間 出演者へのインタビュー及び作品解説
第 2 部 オペラ「静と義経」（名場面を抜粋）
- ・視聴回数 4,669 回

2 関係団体等と連携した文化プログラム

(1) 武道祭 2020 -UNIVERSAL BUDO FESTIVAL in YOKOHAMA 2020-

東京 2020 大会を契機とした日本文化発信のため、世界が認める文化の一つである「武道」を、世界の人々や青少年・子どもたちに発信できる事業として開催した。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、無観客でライブ配信により実施した。

- ・主 催 武道祭 2020 実行委員会
- ・配信日 令和 3 年 9 月 4 日 (土)
- ・ライブ配信再生回数：1,549 回 最大視聴者数：107 回

(2) 神奈川県美術展

新進作家から、各分野で創作活動に励む愛好家の方々まで全国から作品を募集し、県内最大規模となる美術展及び中高生特別企画展を開催した。

今年度は東京 2020 大会期間に合わせて展示期間を前倒しし、新たに障がいのある人たちのアート活動を中心とした「ともいきアート展」も初めて行った。

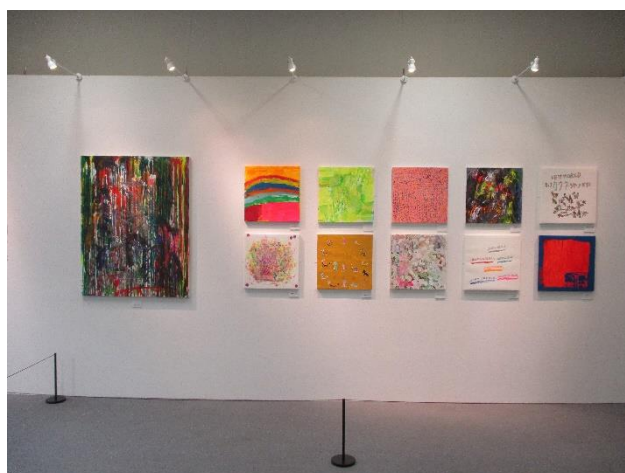
新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、ギャラリートーク（入賞者の講評）及び表彰式等を中止し、観覧は関係者に限定することとなったため、対応策として、審査委員によるギャラリートーク（令和 3 年 10 月 31 日まで）の動画配信、展覧会のオンライン展示を実施した。

- ・主 催 神奈川県美術展委員会、県、神奈川県民ホール、
- ・展示期間 令和 3 年 8 月 25 日 (水) ～ 9 月 19 日 (日)
- ・会 場 県民ホールギャラリー
- ・実 績 視聴回数 ギャラリートーク：961 回、オンライン展示：2,123 回

(3) 神奈川文化プログラム認証制度

東京 2020 大会を契機に、様々な実施主体が行う県内の文化イベント等について「神奈川の文化プログラム」として統一したマークの使用を認め、一体的に情報発信した。

- ・東京 2020 大会期間中の文化プログラムとして認証した件数 86 件



ともいきアートサポート

V 施策事業の実施状況一覧

1 県民の文化芸術活動の充実

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用							
ア 伝統的な芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供							
文化財や伝統的な芸能を活用した文化芸術の発信							
東京2020NIPPON フェスティバル「静、愛と死」～能とオペラの融合による創作舞台～	日本の伝統芸能と西洋の伝統文化を融合させた公演を東京2020大会公式文化プログラムとして大会組織委員会との共催で実施した。	トークショーや解説の挿入による分かりやすさの追求、また、無観客配信であったものの撮影手法の工夫による公演の雰囲気再現を行った。	視聴回数 4,669回	2021年8月7日ライブ配信 アーカイブ配信も実施	県立県民ホール	—	重点施策 1、4
「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」	小田原市を中心とした県西地域を舞台に、県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、民俗芸能団体の演目等の公演を実施。その映像や練習風景等の映像を配信した。	民俗芸能団体の若年層を中心としたインタビューを取り入れる等民俗芸能の次世代への継承に焦点を当て、公演の実施や映像制作を行った。	来場者数：1,443名 映像総再生数：20,549回	ホール公演：2022年1月23日 映像配信：2021年12月24日から随時配信	小田原三の丸ホール (小田原市民ホール)	民俗芸能団体の演目や練習風景の映像などを制作したことにより、アーカイブの要素として後世に残すための取組を実施することができた。	重点施策 1、4
伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援							
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のワークショップは中止となった。	多数の応募があったことから、午前・午後の2部制に変更し、より多くの方に参加してもらった。	41人	2021年7月22～23日	横須賀市文化会館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、27名(回答者数)から「とても満足・やや満足」との回答があった。	重点施策 1
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のワークショップは中止となった。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	160人	2021年12月11日	平塚中等教育学校	—	重点施策 1
能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	26人	2022年3月21日	県立青少年センター練習室	—	重点施策 1
県立文化施設での伝統的な芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保							
歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	—	718人	2021年6月25日、26日 全4公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケートでは、4公演を通過して「大変良かった」「良かった」を合わせると94.5%にのぼった。	重点施策 1、4
人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	青少年の参加者増を狙って、文楽・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待した(2校9人)。	754人	2021年10月17日 全2公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケート結果は、「大変良かった」84.1%、「良かった」13.6%で、感想欄にも「素晴らしい公演」、「堪能した」、「大満足」などの言葉をいただいた。	重点施策 1、4
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策 1、4
相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策 1、4
かながわ伝統芸能祭などの伝統芸能普及振興事業の実施							
かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露しており、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客・オンライン配信で開催した。	出演者及びスタッフのマスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。(演目中に限り、出演者はマスクを外している)	0人(無観客開催) 2022年3月31日現在、オンライン配信再生回数506回	収録日：2021年12月5日	はまぎんホールヴィアマーレ	—	重点施策 1、4
かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせたい内容とする中で、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	重点施策 1、4
文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保							
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」「高齢者枠」「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川県文化財団に一部委託し、専門的見地からの報告を行った。	要望団体数：88件 助成団体数：32件 助成金交付額：5,923千円	交付申請書の提出期限：2021年2月15日～2021年3月15日(電子申請) 審査会(Zoomによるオンライン開催)：2021年4月13日 交付決定通知書の送付：2021年5月14日～6月18日	—	—	重点施策 1、4
後世に残す伝統的な文化の記録の保存							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
民俗芸能調査事業費	「吉浜の鹿島踊」を初めとして、県内に所在する「鹿島踊」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、調査において当該芸能の特色を明らかにする。新型コロナウイルス感染症の影響により、3か年調査を4か年に変更し、2021年度末に調査報告書を刊行した。	調査員による現地調査及び関連文献の調査を実施した。	調査員13人ほか	現地調査2021年6月27日ほか 2回等 調査報告書刊行2022年3月24日	真鶴町真鶴、湯河原町門川ほか	—	重点施策1
伝統的な文化芸術保存ライブラリー	県で実施した伝統的な芸能について、映像及び報告書等の整理をし、後世に残していく取組を実施した。	2019年度から実施した取組であるが、2016年度分から収集した。	—	—	文化課内で紙媒体又はデータで保存	—	重点施策1
イ 文化財保護の充実等							
文化財の指定及び指定文化財に対する助成等の実施							
指定文化財保存修理等補助金	指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。	—	—	—	—	—	—
<ul style="list-style-type: none"> 有形文化財保存修理等(16件) 記念物等保存修理等(22件) 民俗文化財保存修理等(6件) 埋蔵文化財発掘調査等(17件) 合計61件 							
県立の博物館での文化財、伝統芸能等に関する資料の収集、保管、展示							
県立金沢文庫における文化財の管理	2万点を超える国宝・重要文化財をはじめとする文化財を適切に管理した。	日々の温湿度管理や収蔵庫内の整理等を行った。	—	—	県立金沢文庫	—	—
県立歴史博物館における資料の収集、修繕	神奈川県内の文化と歴史に主眼を置いた資料を収集した。また、収蔵資料の定期的な修繕を行った。	資料の収集について、購入は市場の動向を注視するとともに、寄贈コレクションを補充する関連資料を積極的収集を行った。また、部門毎にまとめた修繕希望資料のリストを集約し、優先順位をつけてた上で、順次修繕を行った。	—	—	県立歴史博物館	左衛門尉頼季見知状、横浜正金銀行関係資料、大正・昭和都市計画の3件214点を購入した。寄贈については、歴史資料は横浜市計量検査所旧蔵計量器など8件46点、美術資料は青木文庫資料1件4168点、民俗資料は道祖神の幟1件1点の、合計10件4225点を受け入れた。また、縄文土器 深鉢ほか、鈴木藤助日記、赤羽刀、国府台風景図屏風の12件14点の資料の修繕を実施した。	—
県ホームページ等による文化財に関する情報の提供							
指定文化財の所有・保持者に対する情報提供	指定文化財の所有・保持者に対する周知や神奈川県文化財保存活用大綱の掲載を行った。	—	ページビュー数：13,741件	—	—	—	—
ウ 伝統工芸品等の地域資源の活用							
工芸を主とする木製品業者向けにものづくり支援や技術情報の提供、連携・交流							
木製品ものづくり支援事業①	ものづくりに必要な設備機器等を木製品製造業者に貸し出した。	工芸に関する加工、塗装、加飾技術を有する職員が相談に乗り、助言を行った。	機器利用件数：732件	通年	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	重点施策1
木製品ものづくり支援事業②	木製品製造業者からの依頼を受け、新商品の試作等のための加工・製作を行った。	工芸に関する加工、塗装、加飾技術を有する職員が相談に乗り、助言を行った。	依頼加工・試作等件数：31件	通年	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	重点施策1
工芸ヤングフォーラム	小田原・箱根地域の木製品製造業に携わる若手工芸技術者を対象に、交流の場を提供した。	木工技術、産地の歴史等、幅広い知見があり、事業者支援の経験の有する専門家を指導講師として招いた。	述べ参加者数：122人	年9回開催	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	重点施策1
(2) 県民の文化芸術活動の充実							
ア 文化芸術に対する関心、理解を深めるための普及啓発							
県立文化施設での文化芸術に関する講座、講演会等の開催							
県立近代文学館における講演会	神奈川県近代文学館のホール等の会場を利用して、企画展や特別展に即した内容の講演会を開催した。	第一線で活躍する作家や研究者を招いて講演会を実施することができた。	1,040人	企画展等に合わせて9回実施	神奈川県近代文学館	会場での質疑応答などを通じ読書意欲の増進を図ることができた。質問は事前に要旨を配って記入いただき回収し、感染対策を徹底した。	—
県立金沢文庫における講座、講演会等の開催	特別講演会、月例講座、解説講座、社会教育施設公開講座等を開催した。	展示会の開催に合わせたものや、地域史に関わるものを中心に実施し、横浜市金沢区とも連携した。	特別講座：2回、78人 月例講座：7回、312人 解説講座：4回、138人 社会教育施設公開講座：4回、111人	特別講座：2021年5月8日他 月例講座：2021年6月20日他 解説講座：2021年7月18日他 社会教育施設公開講座：2022年1月8日他	県立金沢文庫	—	—
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	63人	2021年8月10日、11日	—	—	—
中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：20人（教員のみ） 高校生：363人	中学校：2021年9月19日 高等学校：2021年7月30日、31日	青少年センター	—	—
舞台芸術講座	演奏と共に音楽や楽器のレクチャーを行った。	クラシック音楽史上、あまり光の当てられてこなかった女性作曲家をテーマに採用して実施した。	204人	2021年9月25日	県民ホール本館	—	—
県民ホールにおける芸術文化普及事業	子供も対象としたバレエ・オペラの上演	県西部の文化施設に出張して子ども向けのワークショップ付きコンサート（オペラ「カルメン」などを題材にした上演）を実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	223人	①2021年12月18日 ②2021年12月24日	寒川町民センターホール、秦野市文化会館	—	—

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（演出、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	—	①演出編31人 ②ダンス編27人 ③舞台美術編17人	①演出編 2022年1月10日 ②ダンス編 2022年3月13日 ③舞台美術編 2022年3月29日	①演出編：青少年センター スタジオHIKARI ②ダンス編：県立スポーツセンター ③舞台美術編：青少年センター紅葉坂ホール	—	
心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	25人	2022年3月20日	青少年センター練習室	アンケートの結果は、大変良かった96%、良かった4%で、受講者の満足度も高く、大きな影響を与えたものと思われる。	
広報誌、ホームページによる普及啓発の実施							
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV（ページビュー）数414,764	通年	インターネット上	—	
県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、誕生日日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供した。	ホームページアクセス数（公式noteを含む）：192,549件 上記のうち、蔵書検索アクセス数：53,447件 動画コンテンツ視聴数：計7,066件	通年	神奈川近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の音声公開など新たにコンテンツを公開した。	
イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎月特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数340,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、劇場、ホテル等で配布	—	
季刊誌 神奈川芸術劇場 KAA T PAPER発行	新芸術監督のディレクションに沿って、新たな広報誌として内容を一新し、劇場や演劇の魅力を伝える特集や芸術監督の対談、レビューなどを掲載した。	KAA Tを知らない方にも、興味を持って手に取ってもらえるように、タブロイド判とし、駅や県有施設などKAA T以外でも配布を行った。	各号5万部発行	年2回発行 秋号：8月27日、 冬号：12月11日	KAA T神奈川芸術劇場ほか	ホームページにも内容を掲載している	
神奈川芸術プレス発行	冊子を発行・配布することで、公演情報の周知、県内の文化情報等を掲載した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、県内文化施設の閉館、イベント等の中止・延期が相次ぐ状況を踏まえ、2回に変更した。	年間3万4千部	年2回発行（2022年1月、3月発行）	—	—	
県立金沢文庫における普及啓発の実施	金沢文庫で開催する展覧会や関連する講座等のイベントについて、金沢文庫HPや地域の情報誌、美術館・博物館関係の雑誌、テレビ番組等で展覧会の紹介を行った。	各雑誌に掲載された展覧会の紹介記事では展覧会の目玉となる作品を紹介し、展覧会の魅力やみどころを伝えられるよう発信した。また、テレビ番組で金沢文庫が取り上げられ、知名度を高めることができた。	—	—	—	HP閲覧件数：320,239件 テレビ東京「アド街ック天国」（2021年7月30日放送）	
県立近代美術館における普及啓発の実施	広報誌『たいせつな風景』を発行し、美術館活動の周知に努めた。また、近代美術館ウェブサイトを通して、開催する展覧会の情報を広く県民に発信した。	2021年度の広報誌についても、中止した講座の講師に原稿を依頼した。また、ウェブサイトについては、展覧会開催前に代表的な出品作品の画像を含む情報を提供した。	—	—	—	広報紙：1回（2022年3月11日発行） ウェブサイト展覧会詳細ページ：展覧会開幕に合わせて、年3回程度更新	
イ 鑑賞機会の充実							
県立文化施設での公演事業の実施							
青少年センターでの公演事業の実施	青少年センターにおける演劇・ダンス発表会やマグカルシアター公演など、主催・共催・後援による公演等を実施した。	施設運営担当と連携し、利用日程の調整や当日運営を行った。	27,753人	通年 369公演	青少年センター紅葉坂ホール、スタジオHIKARI等	—	
県民ホール本館での公演事業の実施	「C×C作曲家が作曲家を訪ねる旅」など県民ホール本館における主催・共催公演を実施した。	専門家の助言や業界ガイドラインに基づいた感染症対策を講じた上で施設運営担当と連携し実施した。	32,233人 （オンライン配信視聴者2,775）	通年 37公演6展覧会 （うち、共催等21公演、オンライン配信4回）	県民ホール本館ほか	新任のオルガンアドバイザーの元、オルガンシリーズ全体の刷新を図った。	
神奈川芸術劇場等での公演事業の実施	新たに芸術監督に就任した長塚圭史氏のもと、プレシーズン、「冒」をテーマに掲げメインシーズンとプログラムにリズムをつくり、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。	国内外の優れたアーティストと協力し、施設の特徴を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	97,025人 （オンライン配信視聴者1,693）	通年 303公演1展覧会 オンライン配信6回 （うち、共催等91公演、オンライン配信3回）	KAA T神奈川芸術劇場ほか	SPACとの共同招聘である「Le Tambour de soie 綾の鼓」では実力あるアーティストが新たな創作に取り組む公共劇場間の協働の機会となった。	
音楽堂での公演事業の実施	音楽堂のブランドイメージ構築に対応して、オペラプロジェクトやヘリテージ・コンサートなど、各種プログラムを実施した。	音楽堂初登場の演奏家や日本初演作品等に重点を置き、全国的にも注目される、レベルの高い公演・企画の実施に留意した。	15,995人 （オンライン配信視聴者数5,752）	通年 10事業41公演 （うち、共催等3事業30公演、オンライン配信2回）	音楽堂	新型コロナウイルス感染症対応として日程変更・収容人数限定等と併せて、オンライン発信を取り入れるなど音楽文化の発信に努めた。	
DVD鑑賞会（かながわアートホール）	月に一度、ホールにて、かながわアートホールが所蔵する音源、映像を上演する事業を実施する。	毎回好評である副館長による映画解説を実施するとともに、副館長をモデルにしたゆるキャラを作成し、動員を図る。	4月 139人 11月 109人 12月 98人 1月 126人 2月 91人 3月 151人	2021年4月3日、11月17日、12月22日、2022年1月15日、2月13日、3月5日	かながわアートホール	—	

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
野外コンサート (かながわアートホール)	アートホール前広場に音楽を溢れさせたいという目的で正面玄関横のテラスをステージとして、コンサートを実施した。	季節の良い春と秋に数回程度実施した。	4月 入場者：170人 ライブ：42回 アーカイブ：1,438回 5月 ①ライブ：45回 アーカイブ：1,028回 ②ライブ：60回 アーカイブ：745回 6月 ライブ：45回 アーカイブ：1,227回 10月 ライブ：105回 アーカイブ：2,836回 11月 入場者：100回 ライブ：13回 アーカイブ：569回	2021年4月17日、5月16日、5月30日、6月5日、10月30日、11月3日	かながわアートホール	—	
(再) 歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	—	718人	2021年6月25日、26日 全4公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケートでは、4公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると94.5%にのぼった。	
(再) 人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	青少年の参加者増を狙って、文楽・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待した(2校9人)。	754人	2021年10月17日 全2公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケート結果は、「大変良かった」84.1%、「良かった」13.6%で、感想欄にも「素晴らしい公演」、「堪能した」、「大満足」などの言葉をいただいた。	
ロシア国立モスクワ・クラシック・バレエ『くるみ割り人形』	海外の文化芸術の県民への鑑賞機会の提供のために海外のバレエ公演を実施した。	—	2,201人	2021年11月27日	県民ホール本館	—	
クリスマス音楽会2021「アドヴェント・コンサート」	毎年実施しているクリスマス音楽会を開催した。	新型コロナウイルス感染症の影響により「メサイア」全曲特演奏会が中止となったため、代替案として実施できた。	1,051人	2021年12月10日～12月12日	音楽堂	関連企画として合唱講座も開催	
ホームクリスマスコンサート	子育て支援事業として、子育て中の親子を対象としたランチタイムコンサートの内容を一部変更して実施した。	乳幼児・未就学児の同伴を可能とし、気兼ねなく親子で楽しめるコンサートを実施した。	観客数：100人 視聴者数 ライブ：15回 アーカイブ：444回	2021年12月11日	かながわアートホール	—	
(再) かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせる内容とすることで、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイトエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	
県内巡演企画カナガワツアープロジェクト「冒険者たち」	KAAT神奈川芸術劇場で創作した作品「冒険者たち」を県内各地の劇場にて巡回公演した。(新型コロナウイルス感染症の影響により一部の公演は中止となった。)	観劇体験のない方でも、気軽に観劇していただけるような題材や広報ビジュアル、上演内容を立案した。	1,498人	2023年2月19日～3月19日	—	各地での上演後に、芸術監督によるアフタートークを実施した。	
神奈川フィル・カジュアルコンサート	神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ修了公演の第二部として、神奈川フィルによるカジュアルコンサートを実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客ライブ配信で実施した。	観客数(ジュニオケと同一)：198人 視聴者数 ライブ：65回 アーカイブ：1,264回	2022年3月27日	かながわアートホール	—	
(再) かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	
(再) 相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	
県立近代美術館での美術作品の展覧会の開催・普及活動の実施							
県立近代美術館における展覧会の開催、普及活動事業の実施	「空間の中のフォルム」展をはじめ、葉山館では4つの企画展と3つのコレクション展を開催し、鎌倉別館では3つのコレクション展を実施した。また、展覧会に関連した館長リポートなどを展開した。	展覧会については、情操教育に資するため、バランスの取れた企画を実施した。また、教育普及活動については、来館者における鑑賞機会の充実を目的として、多様な形態の活動を実践した。	入館者数：73,993人 教育普及活動(ギャラリートーク等)：1回、2人	展覧会：2021年4月24日～2021年9月5日他 教育普及活動：2021年6月19日他	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館	—	
県立近代美術館における展覧会記念講演会等事業の開催 葉山町での共催による講座の実施	企画展「フィリアー今道子」等に関連した記念講演会等をオンラインで公開した。また、学芸員による連続講座として「近代美術館入門講座」を開催した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制で実施した。	展覧会関連講演会：2回、40人 近代美術館講座：1回、14人	展覧会関連講演会等：2021年12月18日、2022年1月15日 近代美術館講座：2021年7月2日	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館 葉山町福祉文化会館	—	
県立の博物館での文化芸術に関する資料等の展示、展覧会の開催・普及活動の実施							
県立歴史博物館における資料の展示	常設展では、各テーマごとに年間を通して展示替えを行った。	展示替えに際しては、小規模なテーマ展「トピック展示」を展開するなどの工夫を行った。	常設展入館者数：12,751人	通年 展示替えは資料整理休館日を中心に実施。	県立歴史博物館	年間を通じ1,435件の資料の展示替えを行った。	

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
県立歴史博物館における特別展の実施	特別展「錦絵にみる明治時代」、「十王図」、「早雲寺」、コレクション展「運動のすすめ」、「赤星直忠と神奈川県立博物館」、「帰源院文書からみた戦国時代」を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	特別展「錦絵にみる明治時代」4,122人、「十王図」2,863人、「早雲寺」7,154人	特別展「錦絵にみる明治時代」2021年4月29日～6月20日、「十王図」2021年7月17日～8月29日、「早雲寺」2021年10月16日～12月5日、コレクション展「運動のすすめ」2021年6月26日～9月12日、「赤星直忠と神奈川県立博物館」2022年1月8日～2月27日、「帰源院文書からみた戦国時代」2022年3月5日～4月10日	県立歴史博物館	—	
県立歴史博物館における各種講座等の開催	県民の生涯学習支援のための特別展関連講座・講演会・体験教室・子ども向け講座等各種催し物を開催した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講座を開催できないケースもあったが、県民の生涯学習の機会を確保するため可能な限り延長等の対応に努めた。開催できた講座等は通常時より定員を少なくし受講者の間隔をあけて密にならないよう工夫するなど、感染防止対策に万全を期して運営した。	一般向け講座他：66回、1,554人 オンデマンドによる講座配信：1回、視聴回数332回 子ども向け催し物：1回、9人 ミュージアムコンサート：1回、34人 県内学校向け学芸員の出張講座：13回、1,381人	特別展「錦絵にみる明治時代」講演会：2021年5月9日 他	県立歴史博物館等	—	
県立金沢文庫における展覧会の開催	特別展「よみがえる中世のアーカイブズ」や特別展「密教相承」、企画展「江戸時代の称名寺」等の展覧会を6回実施した。	金沢文庫が管理する文化財を中心に、それと関連する外部の文化財の借用を行い、魅力ある展覧会を行った。	入館者数：25,632人	特別展「よみがえる中世のアーカイブズ」：2021年10月1日～11月28日 他	県立金沢文庫	—	
県立近代文学館での文学資料に関する展示、展覧会の開催・普及活動の実施							
県立近代文学館におけるギャラリートーク	企画展等に合わせて展示説明会を開催した。	展覧会の内容を資料画像等を用いて解説し、観覧者に対してより深い理解を促した。	389人	企画展等に合わせて計24回実施	神奈川近代文学館	観覧者が、展示担当者へ直接質問する場ともなり、観覧者の展示理解に役立った。	
県立近代文学館における朗読会、上映会等	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、朗読会や上映会等のイベントを実施した。	新たな客層を獲得するため、著名な俳優の出演や文学の枠を超えたイベントなどを実施した。	1,362人	企画展等に合わせて13回実施	神奈川近代文学館	文学以外の分野のファン層が文学館に足を運んだ。	
特別展・企画展	各作家の所蔵資料等を活用した特別展・企画展を実施した。 ①特別展「創刊101年記念展永遠に「新青年」なるもの—ミステリー・ファッション・スポーツ—」 ②企画展「収蔵コレクション展20「生誕90年三浦哲郎展—星を語り、たれをもうらまず—」」 ③スポット展示・収蔵コレクション展19「生誕100年金達寿展」 ④企画展「佐藤さとる展—『コロボックル物語』とともに—」 ⑤特別展「樋口一葉展—わが詩は人の命となりぬべき—」	所蔵資料等を活用し、作家の魅力が伝わる展示を行った。	21,200人 ①4,434人 ②、③2,219人 ④7,900人 ⑤6,647人	①2021年4月1日～5月16日 ②、③5月22日～7月18日 ④7月22日～9月26日 ⑤10月2日～11月28日	神奈川近代文学館	展覧会を機に新たな資料が寄贈された。他分野とのコラボレーションが集客につながった。	
かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせ等）	子どもの長期休み期間に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会を実施した。	例年実施していた夏休み期間のイベントは定員を50%に減らし開催した。	286人	①紙芝居：2022年8月11日 ②子ども映画会：2022年8月25日、26日 ③読み聞かせ：2022年8月21日 ④ブックトーク：2022年8月21日	神奈川近代文学館	紙芝居のオンライン公開では昨年度から累計890件の視聴があった。	
文化芸術団体との連携による鑑賞機会の提供							
神奈川芸術劇場（KAAT）での企画制作事業の実施	KAAT神奈川芸術劇場プロデュース作品等を他府県で上演した。（新型コロナウイルス感染症の影響により一部の公演は中止となった。）	KAAT神奈川芸術劇場の作品を各地で上演した。	26,708人	通年 3 演目29公演	まつもと市民芸術館ほか	—	
舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業	青少年センターの青少年サポート課とホール運営課が連携して実施してきた「演劇活用青少年支援事業」の集大成となる公演（「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit. —』」）を実施した。	—	128人	2021年7月17日、18日 全2公演	青少年センタースタジオHIKARI	各回とも満席近く観客が入った。	
第37回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2021年8月22日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月3日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：1,173名 鑑賞者数：延べ880名 （クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：880名）	①クリスタルコンサート：2021年8月22日 ②トップコンサート：2021年10月3日 コンクール全体は2021年3月26日～10月31日	①クリスタルコンサート：横浜市青葉区民文化センター「フィリアホール」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	
巡回オペラの実施	子ども対象としたバレエ・オペラを上演した。	県西部の文化施設に出張して子ども向けのワークショップ付きコンサート（オペラ「カルメン」などを題材にした上演）を実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	223人	①12月18日 ②12月24日	寒川町民センターホール、秦野市文化会館	—	
第16回フレッシュ・コンサート	次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図った。	—	308人	2022年1月15日	音楽堂	—	

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」	小田原市を中心とした県西地域を舞台に、県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、民俗芸能団体の演目等の公演を実施。その映像や練習風景等の映像を配信した。	民俗芸能団体の若年層を中心としたインタビューを取り入れる等民俗芸能の次世代への継承に焦点を当て、公演の実施や映像制作を行った。	来場者数：1,443名 映像総再生数：20,549回	ホール公演：2022年1月23日 映像配信：2021年12月24日から随時配信	小田原三の丸ホール（小田原市民ホール）	民俗芸能団体の演目や練習風景の映像などを制作したことにより、アーカイブの要素として後世に残すための取組を実施することができた。	
(再) 県内巡演企画「カナガワツアープロジェクト「冒険者たち」	KAAT神奈川芸術劇場で創作した作品「冒険者たち」を県内各地の劇場にて巡回公演した。（新型コロナウイルス感染症の影響により一部の公演は中止となった。）	観劇体験のない方でも、気軽に観劇していただけるような題材や広報ビジュアル、上演内容を立案した。	1,498人	2023年2月19日～3月19日	—	各地での上演後に、芸術監督によるアフタートークを実施した。	
ウ 県民の文化芸術活動や発表機会の支援							
県立文化施設での練習・発表等の活動の場の提供							
マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演会場としてかながわアートホールを新規で追加した。	6,083名	2021年4月～2022年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	
2021年度マグカル・パフォーマンス・アカデミー	マグカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンをを行う。	常任の講師に加え、特別講師を迎えレッスンをを行った。通常とは違った内容のレッスンをを行うことで、生徒のモチベーションの向上を図った。	214人	練習日数：82日（週2日（原則、火曜日と木曜日）） 成果発表会：2021年4月10日（公開ゲネプロ2公演）、11日（2公演） 本公演：2022年3月19日～21日に3公演実施の予定が、出演者に新型コロナウイルス感染者が確認されたため中止	県立青少年センター	—	
青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	296名	2021年5月～8月	青少年センター	演劇経験のない青少年が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	
中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。	—	6校（ビデオ審査）	2021年9月20日	青少年センター	—	
青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	各学校(団体)における日頃の取組みの成果を発表する場を提供するという「発表会」の本来の趣旨に鑑み、講師による講評を行わないこととした。	722人	2021年10月31日	青少年センター紅葉坂ホール	—	
中・高等学校演劇発表会	中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	中学生：805人 高校生：449人	中学校：2021年12月4日、5日 高等学校：2021年11月13日、14日	青少年センター紅葉坂ホール	—	
マグカル・ハイスクール・演劇フェスタ	県高校演劇発表会にて最優秀賞等高い評価を得た作品を上演する。	関東大会出場に向けて、県大会からの舞台装置の変更・見直しなど、作品のブラッシュアップに向けた相談に乗った。	177名	2021年12月19日	青少年センター紅葉坂ホール	全国大会で神奈川県の出場校が最優秀賞を受賞するなど、着実に実績が上がっている。	
かながわ短編演劇アワード2022	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：39団体 短編戯曲：134作品 【来場者数】 本戦：174人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）40人 22席飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：13人	本戦：2022年3月26日～27日 22世紀飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：2022年1月9日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	
かながわ児童劇グループ交流会（かながわ人形劇フェスティバル）	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、映像配信事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	249人	2022年2月26日、27日 全4公演	青少年センター	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。	
神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ2022（第5期生）	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演する。感染症対策のため、弦楽器のみで規模を縮小して実施した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習やそれぞれの合奏練習を行った。	受講者数：10人 観客数：198人 視聴者数 ライブ：60回 アーカイブ：938回	2022年3月27日	かながわアートホール	—	
県美術展の開催							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
第56回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図るため、公募美術展を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため展覧会は鑑賞を関係者に限定し、表彰式、ギャラリートークは中止とした。また、今年度より障がい者の文化芸術の鑑賞及び創作活動の機会創出のため、ともいきアートサポート事業の一環としてともいきアート展を開催した。	展覧会は鑑賞を関係者に限定し、表彰式、ギャラリートークは中止としたため、オンラインでの展示やギャラリートークを実施した。	応募点数：1,316点 応募人数：864名 入選者数：319名 入賞者数：41名 入場者数：1,773名 来場者数 ・1期展 642人 ・2期展 901人 ・厚木展 230人 オンライン展示再生回数 ・平面 551回 ・立体 259回 ・工芸 289回 ・書 206回 ・写真 277回 ・ともいきアート 262回 ・ギャラリートーク 961回	応募作品搬入：【工芸・書・写真部門】2021年6月26日、27日 【平面立体部門】2021年7月3日、4日 展覧会：2021年8月25日～9月19日（うち2日休・開催24日間）	神奈川県民ホール ギャラリー	—	
文化芸術団体の創作・発表等の活動への助成等による支援							
マグカルシアター出演団体等の上演作品制作支援事業	マグカルシアターに出演が決定した団体等を対象に、演劇資料室や稽古場の提供を通して作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質的向上を図った。	—	研修室利用者 142団体 1,173人	通年	青少年センター	—	
(再) 神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」「高齢者枠」「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川県文化芸術文化財団に一部委託し、専門的見地からの報告を行った。	要望団体数：88件 助成団体数：32件 助成金交付額：5,923千円 (参加者数から移動)	交付申請書の提出期限：2021年2月15日～2021年3月15日（電子申請） 審査会（Zoomによるオンライン開催）：2021年4月13日 交付決定通知書の送付：2021年5月14日～6月18日	—	—	
マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	—	—	—	—	—	
バーチャル開放区	県庁前日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所を路上からオンライン上に移して、文化芸術オールジャンルの動画コンテンツ「バーチャル開放区」を実施した。	—	応募件数：572件 視聴結果 《HP/PV数》 808,840回 《再生数》 327,518回 (PV数・再生数いずれも視聴期間：2021年7月9日～2022年1月14日)	—	インターネット上	—	
伝統的な芸能、舞台芸術作品等の公演などへの共催等による支援							
(再) 県民ホール本館での公演事業の実施	「C×C作曲家が作曲家を訪ねる旅」など県民ホール本館における主催・共催公演を実施した。	専門家の助言や業界ガイドラインに基づいた感染症対策を講じた上で施設運営担当と連携し実施した。	32,233人 (オンライン配信視聴者2,775)	通年 37公演6展覧会 (うち、共催等21公演、オンライン配信4回)	県民ホール本館ほか	新任のオルガンアドバイザーの元、オルガンシリーズ全体の刷新を図った。	
(再) 神奈川県芸術劇場等での公演事業の実施	新たに芸術監督に就任した長塚圭史氏のもと、プレシーズン、「冒」をテーマに掲げメインシーズンとプログラムにリズムをつくり、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。	国内外の優れたアーティストと協力し、施設の特性を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	97,025人 (オンライン配信視聴者1,693)	通年 303公演1展覧会 オンライン配信6回 (うち、共催等91公演、オンライン配信3回)	KAAT神奈川県芸術劇場ほか	SPACとの共同招聘である「Le Tambour de soie 綾の鼓」では実力あるアーティストが新たな創作に取り組み公共劇場間の協働の機会となった。	
(再) 音楽堂での公演事業の実施	音楽堂のブランドイメージ構築に対応して、オペラプロジェクトやヘリテージ・コンサートなど、各種プログラムを実施した。	音楽堂初登場の演奏家や日本初演作品等に重点を置き、全国的にも注目される、レベルの高い公演・企画の実施に留意した。	15,995人 (オンライン配信視聴者数5,752)	通年 10事業41公演 (うち、共催等3事業30公演、オンライン配信2回)	音楽堂	新型コロナウイルス感染症対応として日程変更・収容人数限定等と併せて、オンライン発信を取り入れるなど音楽文化の発信に努めた。	
(再) かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露しており、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客・オンライン配信で開催した。	出演者及びスタッフのマスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。(演目中に限り、出演者はマスクを外している)	0人(無観客開催) 2022年3月31日現在、オンライン配信再生回数506回	収録日：2021年12月5日	はまぎんホールヴィアマール	—	
エ 文化芸術活動に関する情報の提供							
文化芸術に関する広報誌の発行							
(再) イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎号特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数 340,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、劇場、ホテル等で配布	—	
(再) 季刊誌 神奈川県芸術劇場 KAAT PAPER発行	新芸術監督のディレクションに沿って、新たな広報誌として内容を一新し、劇場や演劇の魅力伝える特集や芸術監督の対談、レビューなどを掲載した。	KAATを知らない方にも、興味を持って手に取ってもらえるように、タブロイド判とし、駅や県有施設などKAAT以外でも配布を行った。	各号5万部発行	年2回発行 秋号：8月27日、 冬号：12月11日	KAAT神奈川県芸術劇場ほか	ホームページにも内容を掲載している	
(再) 神奈川県芸術プレス発行	冊子を発行・配布することで、公演情報の周知、県内の文化情報等を掲載した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、県内文化施設の閉館、イベント等の中止・延期が相次ぐ状況を踏まえ、2回に変更した。	年間3万4千部	年2回発行(2022年1月、3月発行)	—	—	
ホームページ、SNS、ポータルサイトによる公演情報、文化芸術活動のための情報の提供							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV（ページビュー）数414,764	通年	インターネット上	—	
(再) 県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供している。	ホームページアクセス数（公式noteを含む）：192,549件 上記のうち、蔵書検索アクセス数：53,447件 動画コンテンツ視聴数：計7,066件	通年	神奈川近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の音声公開など新たにコンテンツを公開した。	
県立金沢文庫における情報提供の実施	金沢文庫で開催する展覧会や講座などのイベントについて、金沢文庫HPやTwitterで広報をおこなった。	展覧会の目玉となる作品や金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の作品紹介を定期的にTwitterで紹介し、展覧会や金沢文庫の保管する資料の魅力伝えるよう発信した。	HP閲覧件数：320,239件 Twitter発信件数：287件	—	—	—	
県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	プレスリリースのメール配信数：7回 Twitter発信数：414回	—	—	—	
県立歴史博物館における情報提供の実施	HP（Twitter含む）を活用した情報提供や刊行物、マスメディア（紙・電波媒体、ネット）による情報発信を行った。	新聞等のマスメディアへの露出機会を増やすために、きめ細やかな情報提供に努めた。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、外出自粛が続く中、「おうちでかながわけんぱく」等のオンラインでの情報発信に努めた。	653件 【内訳】 ・HP（Twitter含む）：401件 ・特別展等チラシ・ポスター：12件 その他：236件（新聞：101、雑誌：15、テレビ：7、ラジオ：6、WEB：98、その他：9） ・催し物のご案内：1件 ・博物館だより：3件	—	—	—	
(3) 芸術家等の育成等に関する支援等							
A 芸術家や文化芸術を支える活動を行う者の育成							
神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施							
神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川県に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。2001年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縮小開催とし、関係者のみの参加とした。	縮小開催のため、一般観覧者なし	2021年11月3日	神奈川県庁本庁舎3階大会議場	受賞者6人（文化賞：4人、未来賞：2人）	
舞台技術者等の文化芸術を支える者の研修等による育成支援							
室内オペラ・制作広報体験インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として「美術制作ワークショップ」と「リーディングワークショップ」を開催。インターンシップのプログラムの一環としても活用した。	3人	2021年9月26日～11月14日	音楽堂	—	重点施策2
昭和音楽大学寄付講座	昭和音楽大学と連携し、劇場職員による講義を実施した。	音楽芸術運営学科の「芸術文化と社会」、「芸術運営論」の講義を実施した。	20人	2021年11月2日 2021年11月9日	昭和音楽大学	—	重点施策2
劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	4人	2021年11月25日～2022年1月11日	県民ホール本館	—	重点施策2
KAAT+YNU(横浜国立大学)教育普及講座	「芝居の大学 公開オンライン講座 第二期—移動型公共劇場はいかにして可能か—」をオンラインにより実施した。	2021年度に新設した社会連携ポータル事業に位置付けた。	視聴者数：70人	2022年1月25日、2月9日	—	—	重点施策2
2021年度インターン劇場運営(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、県内巡回事業を中心としたプログラムとし、KAATだけにとどまらない新しい文化事業の在り方を学ぶ内容とした。	5人	2022年2月6日～3月25日	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策2
大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が木管楽器、金管楽器等を案内する形での人材養成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材養成プログラムを実施した。	20人	2022年2月27日	県民ホール本館	—	重点施策2
新進芸術家等の育成支援の検討							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 第37回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2021年8月22日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月3日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：1,173名 鑑賞者数：延べ880名 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：880名)	①クリスタルコンサート：2021年8月22日 ②トップコンサート：2021年10月3日 コンクール全体は2021年3月26日～10月31日	①クリスタルコンサート：横浜市青葉区民文化センター「フィリアホール」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	重点施策2
創作環境と劇場の未来を考え、劇場の創造活動の核を育てていく取組「カイハツ」	劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、クリエイションのアイデアをカイハツするプロジェクトとして、2021年度より開始した。	企画・人材カイハツ、創作プロセスカイハツ、戯曲カイハツの3柱を設け、創作環境と劇場の未来を考える企画とした。	114人	2021年9月7日～2022年3月31日 8企画	KAAT神奈川芸術劇場	(劇場ホームページにおいて、この取組と実施内容について広報をおこなう。6月現在、準備中)	重点施策2
イ 創作のための環境の整備 県立文化施設の練習・稽古等での活用							
(再) マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演会場としてかながわアートホールを新規で追加した。	6,083名	2021年4月～2022年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	重点施策2
新進芸術家の創作環境支援の検討							
プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	219人	通年 2021年4月29日～2022年3月13日(4回)	県民ホール本館等	—	重点施策2
ウ 創造的活動の成果を発表する機会の確保 県美術展の開催							
(再) 第56回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図るため、公募美術展を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため展覧会は鑑賞を関係者に限定し、表彰式、ギャラリートークは中止とした。また、今年度より障がい者の文化芸術の鑑賞及び創作活動の機会創出のため、ともいきアートサポート事業の一環としてともいきアート展を開催した。	展覧会は鑑賞を関係者に限定し、表彰式、ギャラリートークは中止としたため、オンラインでの展示やギャラリートークを実施した。	応募点数：1,316点 応募人数：864名 入選者数：319名 入賞者数：41名 入場者数：1,773名 来場者数 ・1期展 642人 ・2期展 901人 ・厚木展 230人 オンライン展示再生回数 ・平面 551回 ・立体 259回 ・工芸 289回 ・書 206回 ・写真 277回 ・ともいきアート 262回 ・ギャラリートーク 961回	応募作品搬入：【工芸・書・写真部門】2021年6月26日、27日 【平面立体部門】2021年7月3日、4日 展覧会：2021年8月25日～9月19日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホール ギャラリー	—	重点施策2
文化芸術団体との連携による新進芸術家を起用した演奏会等の開催							
(再) 第16回フレッシュ・コンサート	次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図った。	—	308人	2022年1月15日	音楽堂	—	重点施策2
県立文化施設主催事業における新進芸術家の積極的登用							
(再) プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	219人	通年 2021年4月29日～2022年3月13日(4回)	県民ホール本館等	—	重点施策2
新進芸術家の発表機会支援の検討							
(再) マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	—	—	—	—	—	重点施策2
(4) 文化芸術団体の育成等 文化芸術団体への助成等による支援							
マグカル推進事業補助金	神奈川県文化プログラムの核となる事業を実施する団体から企画案を公募し、補助金を交付した。	補助の上限額を300万円から100万円に引き下げ、より多くの事業を採択できるようにした。	要望団体数：80件 助成団体数：16件 採択額：11,571千円 参加者数：11,675名 オンライン視聴者数：3,129名	1次募集：2021年2月15日～3月15日募集、4月30日交付決定 2次募集：2021年4月30日～5月21日募集、7月20日交付決定	—	—	—
(再) 神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」「高齢者枠」「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川芸術文化財団に一部委託し、専門的見地からの報告を行った。	要望団体数：88件 助成団体数：32件 助成金交付額：5,923千円	交付申請書の提出期限：2021年2月15日～2021年3月15日(電子申請) 審査会(ZOOMによるオンライン開催)：2021年4月13日 交付決定通知書の送付：2021年5月14日～6月18日	—	—	—
文化芸術団体の活動に対する後援							
文化芸術団体の活動に対する後援	文化芸術団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。	—	後援名義の使用承認実績：117件	—	—	—	—

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。		神奈川文化プログラム認証制度： 認証件数277件		県内全域		
県実施事業等における文化芸術団体との連携・協働の推進							
共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者や高齢者等が参加する演劇の舞台公演等を含む良質な内容の舞台公演等を実施した。	コロナ禍という制約の中で、動画配信の手法を活用することにより、多くの人々に自宅にいながら文化芸術の魅力を楽しんでいただきつつ共生社会の理念を普及した。	4764人 再生回数：58,210回 公演回数：48回	2021年4月～2022年3月	オンライン		重点施策5
(再) 2021年度マダカル・パフォーマンス・アカデミー	マダカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師を迎えレッスンを行った。通常とは違った内容のレッスンをを行うことで、生徒のモチベーションの向上を図った。	214人	練習日数：82日（週2日（原則、火曜日と木曜日）） 成果発表会：2021年4月10日（公開ゲネプロ2公演）、11日（2公演） 本公演：2022年3月19日～21日に3公演実施の予定が、出演者に新型コロナウイルス感染者が確認されたため中止	県立青少年センター		重点施策5
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	296名	2021年5月～8月	青少年センター	演劇経験のない青少年が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策5
(再) 歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。		718人	2021年6月25日、26日 全4公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケートでは、4公演を通過して「大変良かった」「良かった」を合わせると94.5%にのぼった。	重点施策5
(再) 舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業	青少年センターの青少年サポート課とホール運営課が連携して実施してきた「演劇活用青少年支援事業」の集大成となる公演（「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit.—』」）を実施した。		128人	2021年7月17日、18日 全2公演	青少年センタースタジオHIKARI	各回とも満席近く観客が入った。	重点施策5
(再) 日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のワークショップは中止となった。	多数の応募があったことから、午前・午後の2部制に変更し、より多くの方に参加してもらった。	41人	2021年7月22～23日	横須賀市文化会館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、27名（回答者数）から「とても満足・やや満足」との回答があった。	重点施策5
(再) 人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	青少年の参加者増を狙って、文楽・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待した（2校9人）。	754人	2021年10月17日 全2公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケート結果は、「大変良かった」84.1%、「良かった」13.6%で、感想欄にも「素晴らしい公演」、「堪能した」、「大満足」などの言葉をいただいた。	重点施策5
(再) 相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のワークショップは中止となった。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	160人	2021年12月11日	平塚中等教育学校		重点施策5
マダカルシアター ステップアップ公演事業	マダカルシアター上演団体に代表される若手の舞台芸術団体のうち、将来的に鑑賞事業としてのクオリティに耐えられる作品を制作するステップアップのための公演の機会を提供するとともに、青少年が優れた舞台芸術作品（趣向「パンとバラで退屈を飾って、わたしが明日も生きることが耐える。」）に触れる機会を提供した。		124人 配信視聴者210人	2021年12月24日～26日 全4公演	青少年センタースタジオHIKARI		重点施策5
(再) 「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」	小田原市を中心とした県西地域を舞台に、県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、民俗芸能団体の演目等の公演を実施。その映像や練習風景等の映像を配信した。	民俗芸能団体の若年層を中心としたインタビューを取り入れる等民俗芸能の次世代への継承に焦点を当て、公演の実施や映像制作を行った。	来場者数：1,443名 映像総再生数：20,549回	ホール公演：2022年1月23日 映像配信：2021年12月24日から随時配信	小田原三の丸ホール（小田原市民ホール）	民俗芸能団体の演目や練習風景の映像などを制作したことにより、アーカイブの要素として後世に残すための取組を実施することができた。	重点施策5
(再) かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせたい内容とすることで、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	重点施策5

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	26人	2022年3月21日	県立青少年センター練習室	—	重点施策5
(再) かながわ短編演劇アワード2022	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：39団体 短編戯曲：134作品 【来場者数】 本戦：174人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）40人 22席飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：13人	本戦：2022年3月26日～27日 22世紀飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：2022年1月9日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔杯選抜大会（県内高校生杯選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	重点施策5
(再) 相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策5
文化芸術団体相互の連携の推進							
(再) かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露しており、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客・オンライン配信で開催した。	出演者及びスタッフのマスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。（演目中に限り、出演者はマスクを外している。）	0人（無観客開催） 2022年3月31日現在、オンライン配信再生回数506回	収録日：2021年12月5日	はまぎんホールヴィアマール	—	重点施策5
(再) かながわ児童劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、映像配信事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	249人	2022年2月26日、27日 全4公演	青少年センター	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。	重点施策5
(再) かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策5
(5) 子どもの文化芸術活動の充実							
ア文化芸術の鑑賞機会の提供							
学校等と連携したアウトリーチの展開							
神奈川フィル学校出張コンサート	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2021年5月～6月 (26回実施、1回中止)	県内の特別支援学校、小学校、中学校	—	重点施策2
音楽堂アウトリーチ事業	アウトリーチ（1事業6企画6回）	新型コロナウイルス対応として一部オンライン配信により実施した。 新機軸として教員向けのアウトリーチにも取り組んだ。	349人 (オンライン視聴者数11)	2021年10月8日～2022年2月1日	座間市立東原小学校ほか	厚木市の財団、相模原市の財団等訪問した現地の公立文化施設指定管理者との連携関係も構築できた。	重点施策2
県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施							
オープンシアター2021	県民ホールにて、ホールを身近に感じてもらう取組として、オープンシアターを2年ぶりに開催した。	バックステージツアーや無料屋外コンサート等も実施した。	2,153人	2021年5月26日～6月5日	県民ホール本館	—	重点施策2
県立近代美術館における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面形式のワークショップ等を中止した代わりに、教材の無償提供、貸出を行った。	対面形式ではなく非参集での学びの支援を提供した。	教材無償提供：4件221個 貸出：5件39個	教材無償提供：2021年6月、2022年3月27日他 貸出：2021年9月19日～10月10日	教材の提供：国立病院機構横浜医療センター他 貸出：三浦市立三浦小学校他	—	重点施策2
(再) 歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	—	718人	2021年6月25日、26日 全4公演	青少年センター紅葉坂ホール	アンケートでは、4公演を通過して「大変良かった」「良かった」を合わせると94.5%にのぼった。	重点施策2
青少年芸術劇場	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供して舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むとともに、県民に鑑賞する機会を提供し、舞台芸術の普及を図ることを目的に、演劇及び舞踊の鑑賞会（Organ Works「WOLF」）を実施した。	—	オープンリハーサル34人 +本番228人	2021年7月2日～7月4日 全5公演	青少年センタースタジオHIKARI	公演に先立つ関連企画として「オープンリハーサル」を開催し、ダンスに取り組み青少年に創作の現場を見てもらう機会が実現できた。	重点施策2
KAATキッズプログラム2021「クノテクテクマナツノボウケン」	コンテンポラリーダンスと現代美術の表現の協働によってつくるキッズプログラムを実施した。	開演前に、お面をつくるワークショップと簡単なダンスのインストラクションをおこない、観客が上演中にそのお面をつけて一緒に踊って参加できるようにした。	1,068人	2021年7月12日～19日	KAAT神奈川芸術劇場	継続して取り組んでいるKAAT EXHIBITONにおける現代美術へのアプローチをキッズプログラムに活用した。	重点施策2
県立歴史博物館における子どもたちを対象とした鑑賞事業等の実施	子ども向け催し物1本を開催するとともに、近隣9館と共同企画した夏休み子ども向けイベント「ミュージアムミッション」をWEB上で開催した。また、子ども向けサイト「おうちでかながわけんぱく」に継続的にコンテンツを追加した。	新型コロナウイルス感染防止対策として、「ミュージアムミッション」ではミュージアムを実際に訪れることに替えて、特設サイトを開設し共催館に関するクイズをWEB上で出題する形式で開催した。また、「おうちでかながわけんぱく」に継続的にコンテンツを追加した。	【参加者】 子ども向け催し物：9人 【閲覧者】 ミュージアムミッション：3,660人（実施期間中）	ミュージアムミッション 2021年7月21日～8月31日他	県立歴史博物館	—	重点施策2

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
「子どもと大人の音楽堂<子ども編>」	夏休みの子供向け音楽体験企画	2021年度よりオープンシアターと夏休みの子ども向けコンサートを組み換えて夏の<子ども編>春の<大人編>の2回公演で構成する事業とし<子ども編>は年齢制限なしのコンサートとした。	509人	2021年7月29日～30日	音楽堂	29日にミニコンサートつき子ども版建築見学ツアーも実施した。	重点施策2
「子どもたちの音楽芸術体験事業」神奈川フィル・ゆめコンサート	神奈川フィルによる実演指導やオーケストラとの共演を通じ、本物の芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を育むことを目的として実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により本公演が全て中止となった。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらワークショップ行った。	ワークショップ：749人	ワークショップ：2021年11月30日、12月1日、12月3日	ワークショップ：平塚市立金目小学校、海老名市立上星小学校、松田町立松田小学校	—	重点施策2
(再) ホームクリスマスコンサート	子育て支援事業として、子育て中の親子を対象としたランチタイムコンサートの内容を一部変更して実施した。	乳幼児・未就学児の同伴を可能とし、気兼ねなく親子で楽しめるコンサートを実施した。	観客数：100人 視聴者数 ライブ：15回 アーカイブ：444回	2021年12月11日	かながわアートホール	—	重点施策2
子どものためのワークショップ付きコンサート	子供も対象としたバレエ・オペラを上演した。	県西部の文化施設に出張して子ども向けのワークショップ付きコンサート（オペラ「カルメン」などを題材にした上演）を実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	223人	①2021年12月18日 ②2021年12月24日	寒川町民センターホール、秦野市文化会館	—	重点施策2
(再) かながわ児童劇グループ交流会（かながわ人形劇フェスティバル）	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、映像配信事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	249人	2022年2月26日、27日 全4公演	青少年センター	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。	重点施策2
「子どもと大人の音楽堂<大人編>」	家族で楽しめる建物ツアーやライブ	2021年度よりオープンシアターと夏休みの子ども向けコンサートを組み換えて夏の<子ども編>春の<大人編>の2回公演で構成する事業とし<大人編>は音楽堂全体を活用して実施した。	405人	2022年3月18日～19日	音楽堂	—	重点施策2
(再) 神奈川フィル・カジュアルコンサート	神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ修了公演の第二部として、神奈川フィルによるカジュアルコンサートを実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客ライブ配信で実施した。	観客数(ジュニオケと同一)：198人 視聴者数 ライブ：65回 アーカイブ：1,264回	2022年3月27日	かながわアートホール	—	重点施策2
県立金沢文庫における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	小学校高学年を対象に、称名寺と金沢文庫についての学習事業を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	—	—	—	—	—	重点施策2
文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施							
かなフィルランド・夏休みファミリーコンサート	神奈川フィルによるコンサートや打楽器演奏。	子どもにも親しみやすい選曲や、楽器紹介などを実施し、ファミリーで音楽・芸術に親しみ、アートホールに親しんでもらった。	(無観客実施) 視聴者数 ライブ：117回 アーカイブ：2,723回	2021年8月22日	かながわアートホール	—	重点施策2
(再) 巡回オペラの実施	子供も対象としたバレエ・オペラを上演した。	県西部の文化施設に出張して子ども向けのワークショップ付きコンサート（オペラ「カルメン」などを題材にした上演）を実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	223人	①12月18日 ②12月24日	寒川町民センターホール、秦野市文化会館	—	重点施策2
(再) 神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ2022（第5期生）	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演する。感染症対策のため、弦楽器のみで規模を縮小して実施した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習やそれぞれの合奏練習を行った。	受講者数：10人 観客数：198人 視聴者数 ライブ：60回 アーカイブ：938回	2022年3月27日	かながわアートホール	—	重点施策2
神奈川フィルハーモニー管弦楽団公開リハーサル	アートホールで行う神奈川フィルのリハーサルを無料公開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策2
県立近代文学館での児童文学を題材とした展覧会等の実施							
企画展「佐藤さとる展—『コロボックル物語』とともに—」	デビュー作『だれも知らない小さな国』（1959年）から始まる「コロボックル物語」シリーズを半世紀にわたり書き続けた、佐藤さとる（1928—2017）の企画展。佐藤家をはじめとする方々から寄贈された（佐藤さとる文庫）資料や、無二のコンビである画家・村上勉が描いた「コロボックル物語」シリーズ、「おおきなきがほしい」「かぜにももらったゆめ」の挿絵原画など、約450点の資料によりその作品世界を展覧した。	県内の小学校、図書館への広報に力を入れた。会期中横浜国立図書館で開催したパネル展「コロボックル物語」によって相乗効果が得られた。	7,900人	2021年7月22日～9月26日	神奈川近代文学館	自主事業でポストカードを製作し、好評を得た。	—

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
ギャラリートーク「佐藤さとの展—『コロボックル物語』とともに—」	企画展「佐藤さとの展—『コロボックル物語』とともに—」に即した内容の展示説明会を実施した。		78人	企画展「佐藤さとの展—『コロボックル物語』とともに—」会期中の金曜日に計3回。	神奈川近代文学館	観覧者が、展示担当者へ直接質問する場もなった。	
朗読コンサート「佐藤さとの世界」	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、企画展「佐藤さとの展—『コロボックル物語』とともに—」に即した内容の朗読コンサートを開催した。	親子で楽しめるように、絵本の投影を行い、演目、演出にも工夫を凝らした。	89人	2021年9月11日	神奈川近代文学館	朗読コンサート後、多くの参加者が展覧会場にも入場してくれた。	
イ文化芸術活動の体験機会の充実							
子どもを対象とした公募美術展開催等の創作活動の支援							
第56回神奈川県美術展中高生特別企画展	青少年の作品発表の機会の提供、創作活動の支援及び県美術展の活性化を図るため、県美術展と併催し、公募美術展を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、表彰式は中止し、展覧会は関係者のみの入場に限定した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	応募点数：376点 応募人数：282名 入選者数：88名 入賞者数：18名 来場者数 1543人 オンライン展示再生回数 279回	応募作品搬入：2021年6月26日、27日 展覧会：2021年8月25日～9月19日（うち2日休・開催24日間）	神奈川県庁ホール ギャラリー	—	重点施策2
文化芸術団体との連携・協働による子どもたちの文化芸術活動の推進							
(再) 2021年度マダカル・パフォーミング・アカデミー	マダカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンをを行う。	常任の講師に加え、特別講師を迎えレッスンをを行った。通常とは違った内容のレッスンを行うことで、生徒のモチベーションの向上を図った。	214人	練習日数：82日（週2日（原則、火曜日と木曜日）） 成果発表会：2021年4月10日（公開ゲネプロ2公演）、11日（2公演） 本公演：2022年3月19日～21日に3公演実施の予定が、出演者に新型コロナウイルス感染者が確認されたため中止	県立青少年センター	—	重点施策2
(再) 子どものためのワークショップ付コンサート	子どもを対象としたバレエ・オペラを上演した。	県西部の文化施設に出張して子ども向けのワークショップ付きコンサート（オペラ「カルメン」などを題材にした上演）を実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	223人	①2021年12月18日 ②2021年12月24日	寒川町民センター ホール、秦野市文化会館	—	重点施策2
青少年センター、藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供							
藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供	【体験事業】 多くの方が気軽に陶芸やガラス工芸などの芸術体験を親しむための常設事業、募集型の体験事業や季節限定体験事業を実施した。 【活動支援事業】 地域と連携して、絵画や写真等の展示・芸術活動発表の場を提供した。なお、地元講師を迎えた工芸講座並びに藤野村歌舞伎公演は、新型コロナウイルスの影響により中止したが、藤野席書き大会は、感染対策を講じて実施した。	【体験事業】 体験事業では、季節に合った期間限定メニューの実施のほか、新たな体験メニューを実施するなど、何回でも新たな体験を楽しめる工夫を行った。 【活動支援事業】 活動支援事業では、地域人材や資源を活用し、地域の障害者施設入居者の作品展示の協力と展示についてのサポートを実施した。	【体験事業】 体験事業合計 23,716人 木工体験 8,065人 陶芸体験 4,550人 ガラス工芸等 11,101人 【活動支援事業】 活動支援事業合計 369人 絵画等展示 369人	【体験事業】 通年 【活動支援事業】 通年 絵画等展示 通年	藤野芸術の家	体験活動事業において、夏休みに自由研究に適した教室「ガリレオ温度計作り」と「ひょうたんスピーカー作り」を実施した。	重点施策2
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	296名	2021年5月～8月	青少年センター	演劇経験のない青少年が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策2
(再) 青少年芸術劇場	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供して舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むとともに、県民に鑑賞する機会を提供し、舞台芸術の普及を図ることを目的に、演劇及び舞踊の鑑賞会（Organ Works「WOLF」）を実施した。	—	オープンリハーサル34人 +本番228人	2021年7月2日～7月4日 全5公演	青少年センタースタジオHIKARI	公演に先立つ関連企画として「オープンリハーサル」を開催し、ダンスに取り組む青少年に創作の現場を見てもらう機会が実現できた。	重点施策2
伝統芸能ワークショップの実施							
(再) 日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のワークショップは中止となった。	多数の応募があったことから、午前・午後の2部制に変更し、より多くの方に参加してもらった。	41人	2021年7月22～23日	横須賀市文化会館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、27名（回答者数）から「とても満足・やや満足」との回答があった。	重点施策2
(再) 相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のワークショップは中止となった。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	160人	2021年12月11日	平塚中等教育学校	—	重点施策2
(再) 能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	26人	2022年3月21日	県立青少年センター練習室	—	重点施策2
県立近代文学館での子どもたちが読書に親しむための事業の実施							
(再) かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせ等）	子どもの長期休み期間に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会を実施した。	例年実施していた夏休み期間のイベントは定員を50%に減らし開催した。	286人	①紙芝居：2021年8月11日 ②子ども映画会：2021年8月25日、26日 ③読み聞かせ：2021年8月21日 ④ブックトーク：2021年8月21日	神奈川近代文学館	紙芝居のオンライン公開では昨年度から累計890件の視聴があった。	重点施策2
子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせた内容とすることで、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	重点施策2
(6) 学校教育における文化芸術活動の充実							
文化芸術団体との連携による音楽体験事業等の実施							
(再) 神奈川フィル学校出張コンサート	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2021年5月～6月 (26回実施、1回中止)	県内の特別支援学校、小学校、中学校	—	重点施策2
(再) 「子どもたちの音楽芸術体験事業」神奈川フィル・ゆめコンサート	神奈川フィルによる実演指導やオーケストラとの共演を通じ、本物の芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を育むことを目的として実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により本公演が全て中止となった。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらワークショップを行った。	ワークショップ：749人	ワークショップ：2021年11月30日、12月1日、12月3日	ワークショップ：平塚市立金目小学校、海老名市立上星小学校、松田町立松田小学校	—	重点施策2
かながわ伝統芸能祭などの伝統芸能普及振興事業の実施							
(再) 日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のワークショップは中止となった。	多数の応募があったことから、午前・午後の2部制に変更し、より多くの方に参加してもらった。	41人	2021年7月22～23日	横須賀市文化会館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、27名(回答者数)から「とても満足・やや満足」との回答があった。	重点施策2
(再) かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露しており、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客・オンライン配信で開催した。	出演者及びスタッフのマスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。(演目中に限り、出演者はマスクを外している。)	0人(無観客開催) 2022年3月31日現在、オンライン配信再生回数506回	収録日：2021年12月5日	はまぎんホールヴィアマール	—	重点施策2
(再) 相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のワークショップは中止となった。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	160人	2021年12月11日	平塚中等教育学校	—	重点施策2
(再) かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせた内容とすることで、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	重点施策2
文化芸術による子供の育成事業(文化庁事業)の県内での展開							
文化芸術による子供育成推進事業	子どもたちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、ワークショップ等を実施することにより、子供たちの豊かな想像力やコミュニケーション能力等を養い、文化芸術に対する知識および教養の向上を図った。	一方的に公演を行うだけでなく、児童・生徒と共演したり、実技指導をするなど、児童・生徒が芸術体験できるような工夫している。	巡回公演事業：27校実施 派遣事業：34校中34件実施 子供 夢・アート・アカデミー：1校実施	2021年6月～2022年2月	各学校の教室・体育館など	—	重点施策2
文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力総合事業—<学校申請方式>	文化庁「文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力総合事業—<学校申請方式>」による芸術家と連携した授業を実施するもの。	—	1校が応募したが、不採択となった。	—	—	—	重点施策2
中学・高校文化部活動の充実・支援の実施							
(再) 中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：20人(教員のみ) 高校生：363人	中学校：2021年9月19日 高等学校：2021年7月30日、31日	青少年センター	—	—
(再) 青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	63人	2021年8月10日、11日	—	—	—
(再) 中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。	—	6校(ビデオ審査)	2021年9月20日	青少年センター	—	—

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
文化部活動指導者研修講座の実施	文化部の部活動インストラクターを対象とした研修講座を実施した。	講座を受講し、1年以上の指導実績があり、校長が認めれば、部活動の校外の活動について単独引率を可能としている。	文化部部活動インストラクター8名	2021年10月4日～11月5日	机上研修	—	
(再) 青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	各学校(団体)における日頃の取組みの成果を発表する場を提供するという「発表会」の本来の趣旨に鑑み、講師による講評を行わないこととした。	722人	2021年10月31日	青少年センター紅葉坂ホール	—	
(再) 中・高等学校演劇発表会	中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	中学生：805人 高校生：449人	中学校：2021年12月4日、5日 高等学校：2021年11月13日、14日	青少年センター紅葉坂ホール	—	
(再) 青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム(演出、ダンス振付、舞台美術)を実施した。	—	①演出編31人 ②ダンス編27人 ③舞台美術編17人	①演出編 2022年1月10日 ②ダンス編 2022年3月13日 ③舞台美術編 2022年3月29日	①演出編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：県立スポーツセンター ③舞台美術編：青少年センター紅葉坂ホール	—	
演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	79人(中学校) 22人(高等学校)	中学校：2022年1月15日、3月24日 高等学校：2022年3月23日	県内3会場	中学校：講師による講習や、他校との練習ができたことで、日頃の学内活動では得られないものがあつたという意見が多かった。 高等学校：講座の内容について、参加者全員から「とてもよい」または「よい」と高評価を得た。	
(再) 心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	25人	2022年3月20日	青少年センター練習室	アンケートの結果は、大変良かった96%、良かった4%で、受講者の満足度も高く、大きな影響を与えたものと思われる。	
横浜美術館「中高生プログラム」の周知	中学生、高校生が本物の美術作品、普段なかなか会うことのできないアーティストや専門家との出会いを通して、美術のいろいろな魅力を体験することができる長期のプログラムを高校生等に周知するもの。	—	令和3年度は開催中止。	2023年まで改修による休館のため、事業を中止している。	—	—	
全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	—	—	—	—	—	
県中学・高等学校総合文化祭の開催							
県高等学校総合文化祭の開催	県高等学校総合文化祭において、高校生等の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	文芸部門の応募作品点数は13,391点 図書部門の参加校は15校 上記以外の部門の参加生徒総数は8,045名 (一部オンライン開催)	2021年10月23日～2022年1月16日(一部Web開催)	県内各所	—	
県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成							
生徒を対象とした舞台芸術研修	神奈川総合高校1年生を対象に、校外学習としてKAAT内の施設開設や芸術監督との質疑応答等を実施した。	施設見学や芸術監督から直に話を聞くことで文化施設での業務全体を体験できるようにした。	29人	2021年6月28日	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策2
県立高校における舞台芸術に関する学科の新設と支援	県立高校改革実施計画(Ⅱ期)に基づき、県立神奈川総合高校に舞台芸術科を設置。2021年4月に一期生が入学した。	アドバイザーボードを設置し、神奈川総合高等学校舞台芸術科の取組について継続的に支援を受ける仕組みを構築し、第1回目となる協議会を開催した。	協議会構成アドバイザーボード構成員3名、神奈川総合高等学校4名、高校教育課3名、計10名	2022年3月25日	神奈川総合高等学校	神奈川総合高校多目的ホール改修工事請負契約締結	重点施策2
芸術家等や文化芸術団体と連携した教育の実施							
(再) 大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が木管楽器、金管楽器等を案内する形での人材養成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材養成プログラムを実施した。	20人	2022年2月27日	県民ホール本館	—	重点施策2
学校と文化施設との連携の推進							
国立劇場「親子で楽しむ歌舞伎教室」の周知	(本県の取組) ・政令市を除く市町村教育委員会を通じて、公立小・中学校等にチラシを周知した。(イベントには直接関与していない。) (イベント内容) ・歌舞伎俳優が、歌舞伎の魅力や芝居の見どころなどを紹介 ・歌舞伎の鑑賞	—	—	2021年7月20日～26日	国立劇場	—	重点施策2

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 音楽堂アウトリーチ事業	アウトリーチ (1事業6企画6回)	新型コロナウイルス対応として一部オンライン配信により実施した。 新機軸として教員向けのアウトリーチにも取り組んだ。	349人 (オンライン視聴者数11)	2021年10月8日～2022年2月1日	座間市立東原小学校ほか	厚木市の財団、相模原市の財団等訪問した現地の公立文化施設指定管理者との連携関係も構築できた。	重点施策2
(7) 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実 美術展など高齢者を対象とした文化芸術事業の実施							
かながわシニア美術展	県内在住で1963年4月1日以前生まれ (2022年3月31日時点で59歳以上の者) のアマチュアを対象に、日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の5部門で作品を公募し、入選作品を展示するとともに、優秀作品の表彰を行った。	過去出品者や神奈川県老人クラブ連合会をはじめ、県内の高齢者団体へ募集要項や開催通知を配布し、周知に努めた。 作品の搬入時間を指定する、観覧を関係者のみに限るなど、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で実施した。	応募者数：251名 出品者数：241名 入選者数：241名 延べ来場者数：486名	2021年9月23日～9月25日 (作品展示期間)	神奈川県民ホールギャラリー	—	重点施策2、4
県立施設における文化芸術活動の場の提供などによる障がい者の自主的な活動の支援							
ライトセンター普及啓発事業	神奈川県ライトセンターにおいて、視覚障害者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供した。	機関紙「ライトセンターだより」やホームページによる情報提供などで広い周知を行った。	143名	月1回～月3回(クラブ活動により異なる)	神奈川県ライトセンター	毎年啓発活動として実施している『ライトセンターフェスティバル&「あい・あい」ひろば2021』、「ライトセンター音楽祭」は新型コロナウイルス拡大防止のため中止とした。	重点施策2、4
神奈川県障害者社会参加推進センター事業 (文化・芸術祭の開催) (県委託事業)	障がい当事者の文化的活動 (絵画、工作、ダンス、合唱等) の発表を行う場を用意し、社会参加の推進を図った。	新型コロナウイルスの影響により舞台発表は中止としたが、感染症対策を行いながら作品展示のみを行った。	70名	2021年12月11日 (土)、12日 (日)	茅ヶ崎市民文化会館小ホール及び展示室	—	重点施策2、4
障がい者芸術文化活動普及支援事業	「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」を設置し、相談支援事業やワークショップの実施・コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。	コーディネーター養成のための研修会や勉強会をオンラインで開催し、多くの方に気軽に見てもらえるように工夫した。また、ワークショップの実施も一部オンラインで実施し、感染症対策をしながら事業に取り組んだ。	相談件数：133件 研修等参加者数：延べ141人 (全4回) ワークショップ実施事業参加者数：延べ141人 (5箇所13回) 事業成果発表：延べ31名 (全2回)	相談：平日11時～17時 研修：①2022年1月7日～1月17日 ②2022年2月25日～3月7日 ③2022年3月11日 ④2022年1月25日、3月7日 (すべてオンライン配信) ワークショップ実施事業：13回 (10月から3月まで、一部オンライン配信) 事業成果発表：2022年3月11日～3月31日 (オンライン配信)	相談：神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター 研修：オンライン配信 ワークショップ実施事業：障害福祉サービス事業所 事業成果発表：オンライン配信	—	重点施策2、4
特別支援学校、障がい者施設、高齢者施設等での県立文化施設や文化芸術団体によるアウトリーチの実施							
(再) 神奈川県立音楽堂出張コンサート	公益財団法人神奈川県立音楽堂が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2021年5月～6月 (26回実施、1回中止)	県内の特別支援学校、小学校、中学校	—	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (常設展示)	県立青少年センター・スタジオHIKARIの「交流スペース」に通年で、障がいのあるアーティストなどの作品の常設展示を行った。	・3か月をごとにアート3団体の作品を入れ替えて展示した。 ・県のためより7月号企画画で広く県民に広報周知を図った。	第1期展 来場者数4,067人、ワライン 811ビュー、動画 142回再生 第2期展 3,843人、ワライン 597ビュー動画 制作済 第3期展 1,766人、ワライン 388ビュー、動画 制作済	第1期展 2021年6月10日～8月15日 第2期展 2021年8月31日～12月5日 第3期展 2021年12月8日～2022年3月6日	県立青少年センター・スタジオHIKARIの「交流スペース」	—	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (巡回展示)	神奈川県庁新庁舎1階ロビーで障がいのあるアーティストなどの作品の展示を行った。	常設展示で青少年センター展示されていない団体の作品の展示を実施し、障がい者のアート作品の発表機会の創出を行った。	①1,112人 ②371人	①2021年7月1日～15日 ②2021年9月13日～30日	神奈川県庁新庁舎1階ロビー	—	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (創作×地域展示)	県立小田原養護学校小中学部にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会をギャラリーで開催した。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、展示会は関係者以外非公開とし、オンラインにより配信した。	ワークショップ計3日間12人 来場者150人	ワークショップ 2021年7月19日、2022年1月12日、1月26日	県立小田原養護学校	—	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (巡回展示)	神奈川県民ホールギャラリー1階第5展示室で障がいのあるアーティストなどの作品の展示を行った。	常設展示で青少年センター展示されていない団体の作品の展示を実施し、障がい者のアート作品の発表機会の創出を行った。	来場者数 642人 動画再生数 207回	2021年8月25日～9月5日 オンライン視聴開始 2021年8月31日～	神奈川県民ホールギャラリー1階第5展示室	—	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (創作×地域展示)	県立麻生養護学校にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会をギャラリーで開催した。	コロナ禍で対面の展示を行うことができなかったが、ネットを使って360°VRで実際のギャラリースペースでの展示を体験できるように工夫をした。	ワークショップ計3日間延べ25人参加 展示会参加者数27人	ワークショップ 2021年9月3日、9月17日、9月24日計3日 展示会 2022年2月18日～25日	ワークショップ 県立麻生養護学校 展示会 ギャラリーFLAT	県のためより7月号の特集記事の中で紹介した	重点施策2、4
(再) 音楽堂アウトリーチ事業	アウトリーチ (1事業6企画6回)	新型コロナウイルス対応として一部オンライン配信により実施した。 新機軸として教員向けのアウトリーチにも取り組んだ。	349人 (オンライン視聴者数11)	2021年10月8日～2022年2月1日	座間市立東原小学校ほか	厚木市の財団、相模原市の財団等訪問した現地の公立文化施設指定管理者との連携関係も構築できた。	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業 (創作×地域展示)	県立平塚盲学校小学部にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会を大学の博物館スペースで開催した。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン展示も同時開催した。 ・学芸員を目指す大学生が実習として授業でアシスタントとして参加した。	ワークショップ計3日間延べ24人参加 展示会来館者数1,895人	ワークショップ 2021年10月14日、10月28日、2022年1月20日計3日 展示会 2022年3月1日～31日	ワークショップ 県立平塚盲学校 展示会 東海大学松前記念館	県のためより7月号の特集記事の中で紹介した	重点施策2、4

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）	県立伊勢原養護学校伊志田分教室にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会を大学の博物館スペースで開催した。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン展示も同時開催した。 ・学芸員を目指す大学生が実習として授業でアシスタントとして参加した。	ワークショップ計3日間 延べ29人参加 展示会 来館者数 1,895人	ワークショップ 2021年10月25日、11月15日、11月29日 展示会 2022年3月1日～31日	東海大学松前記念館	県のたより7月号の特集記事の中で紹介した	重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（リース支援事業）	障害福祉サービス事業所の作品を知事執務室でリース展示した。	2～3か月ごとに展示替えを行った。	—	2022年2月～	知事執務室	—	重点施策 2、4
県立文化施設での託児サービス等の実施							
託児サービスの実施	県民ホール及びKAAT 神奈川芸術劇場にて託児ルームを設置し、運用した。	乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術の鑑賞機会の提供に寄与するため、主催公演において、託児ルームを設置した。	県民ホール本館：15人 KAAT神奈川芸術劇場：50人	県民ホール本館：主催公演10回（8演目） KAAT神奈川芸術劇場：主催公演 46回（12演目）	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場	—	
文化芸術を通じた共生社会の実現に向けた取組の検討							
（再）共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者や高齢者等が参加する演劇の舞台公演等を含む良質な内容の舞台公演等を実施した。	コロナ禍という制約の中で、動画配信の手法を活用することにより、多くの人々に自宅にいながら文化芸術の魅力を楽しんでいただきつつ共生社会の理念を普及した。	4764人 再生回数：58,210回 公演回数：48回	2021年4月～2022年3月	オンライン	—	重点施策 2、4
鑑賞サポート事業	芸術文化がより多くの人の心に届くよう、その間にある障壁を、さまざまな鑑賞サポートの実施や、鑑賞携帯のあり方を工夫して解消していく。	2021年度に新設した社会連携ポータル課に集約し、鑑賞サポートの研究や知見の集積によりより効果的に実施していく体制を整えた。	19人（申込があり把握できている人数）	2021年5月～2022年3月（8回）	県民ホール本館等	—	重点施策 2、4
（再）オープンシアター2021	県民ホールにて、ホールを身近に感じてもらう取組として、オープンシアターを2年ぶりに開催した。	バックステージツアーや無料屋外コンサート等も実施	2,153人	2021年5月26日～6月5日	県民ホール本館	—	重点施策 2、4
（再）舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業	青少年センターの青少年サポート課とホール運営課が連携して実施してきた「演劇活用青少年支援事業」の集大成となる公演（「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit.一』」）を実施した。	—	128人	2021年7月17日、18日 全2公演	青少年センタースタジオHIKARI	各回とも満席近く観客が入った。	重点施策 2、4
東京2020 NIPPON フェスティバル「カガヤク ミライ ガミエル カナガワ 2021 Our Glorious Future ～ KANAGAWA 2021～」	「共生社会の実現に向けて」をテーマに東京2020大会公式文化プログラムを大会組織委員会と共同で主催した。	無観客配信となったが、作品の説明、ドローン撮影、ARプログラムを用いて質の高い映像作品とした。	視聴者数 20,781名	2021年8月11日から15日を中心に撮影 8月16日以降順次配信	横浜市西区紅葉ヶ丘文化ゾーン（県立音楽堂、県立青少年センターほか）、県立県民ホール	—	重点施策 2、4

V 施策事業の実施状況

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 文化芸術に関する交流の推進							
ア 地域間交流の推進							
他県との文化芸術を介した交流の推進							
(再) 神奈川芸術劇場(KAAT)での企画制作事業の実施	KAAT神奈川芸術劇場プロデュース作品等を他府県で上演した。(新型コロナウイルス感染症の影響により一部の公演は中止となった。)	KAAT神奈川芸術劇場の作品を各地で上演した。	26,708人	通年 3 演目29公演	まつもと市民芸術館ほか	—	
県立近代美術館における巡回展の実施	国内外の近現代美術の調査研究に基づく、巡回型の展覧会(「香月泰男」展、「奥谷博」展)を実施した。	—	入館者数 「香月泰男」展：9,622名、「奥谷博」展：4,093名(3月末時点)	「香月泰男」展：2021年9月18日～11月14日、「奥谷博」展：2021年2月12日～4月3日(臨時休館期間を含む)	近代美術館	—	
県立金沢文庫における文化財の貸出、借入れ	金沢文庫での特別展の実施にあたり、他の博物館や社寺などから資料の借入れを行った。	—	—	—	—	他の博物館や社寺などからの借入れ：113点	
県立歴史博物館における収蔵資料の貸出	県外の博物館等の展覧会への収蔵資料の貸出を行った。	貸出先における展示環境等の把握に努め、より良い形で公開ができるよう貸出先と調整を行った。	—	—	—	貸出資料点数：134点(埼玉県立嵐山史跡の博物館、足立区立郷土博物館、府中市美術館など10館の博物館・美術館等)。	
国民文化祭への県内文化芸術団体の参加促進							
国民文化祭	国民文化祭の開催県である宮崎県、和歌山県と連携し、参加団体へ国民文化祭の開催及び参加を周知した。なお、宮崎県は2020年度の開催県であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2021年度に延期していた。	チラシやパンフレットの配架や県内市町村への周知を行い、参加者・来場者への広報に協力した。	—	各イベントによる	宮崎県内 和歌山県内	—	
全国高等学校総合文化祭への参加							
全国高等学校総合文化祭への参加	全国高等学校総合文化祭への生徒派遣を通して、相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	全国高等学校総合文化祭・和歌山大会(開会式・専門部門26部門各会場、閉会式参加生徒数：延べ約425名)	2021年7月31日～8月6日	和歌山県内各所(開会式：和歌山ビッグホエール)	—	
県高等学校総合文化祭の開催							
(再) 県高等学校総合文化祭の開催	県高等学校総合文化祭において、高校生等の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	文芸部門の応募作品点数は13,391点 図書部門の参加校は15校 上記以外の部門の参加生徒総数は8,045名(一部オンライン開催)	2021年10月23日～2022年1月16日(一部Web開催)	県内各所	—	
イ 国際文化交流の推進							
神奈川の文化芸術の海外発信							
ポーランド国立美術館で開催された日本の前衛芸術展への企画協力および作品貸出	国際交流基金とワルシャワのザヘンタ国立美術館主催した「集団と個の狭間で—1950年代と1960年代の日本前衛美術」展に企画協力した。	県立近代美術館の所蔵品の特徴を生かして、左記展覧会に16点の作品を出品し、展覧会図録に職員2名が寄稿した。	入場者：39,667人	2021年11月25日～2022年3月13日	ワルシャワのザヘンタ国立美術館	職員2名が企画委員を務めた。	重点施策 3
(再) ロシア国立モスクワ・クラシク・バレエ『くるみ割り人形』	海外の文化芸術の県民への鑑賞機会の提供のために海外のバレエ公演を実施した。	—	2,201人	2021年11月27日	県民ホール本館	—	重点施策 3
横浜国際舞台芸術ミーティング2021(YPAM2021)	舞台芸術に係るプロフェッショナルが公演・ディスカッション・ワークショップ等の多彩なプログラムを通じて、情報交換・相互学習・ネットワークの構築の場を提供した。	横浜市や地域のステークホルダーとの共同を進め、多様な表現を実現し社会をみつめる機会を県民に提供した。	1,742人	2021年12月9日～19日	KAAT神奈川芸術劇場ほか	障がい者が主要な構成者である劇団態変の作品を三部作一挙上演をおこない、共生に基づく多様な表現を提示した。	重点施策 3
キエフ・バレエ「白鳥の湖」	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	—	—	—	県民ホール本館	—	重点施策 3
第30回「インターナショナル・オルガン・フェスティバル・イン・ジャパン横浜公演」	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	—	—	—	県民ホール本館	—	重点施策 3
三県省道やベトナム等との文化交流事業の推進							
ベトナム文化等交流事業	「ベトナムフェスタin神奈川」や「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI」といったイベントは、2020年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったものの、これまでの本県とベトナムとの交流や県内で努力を続けるベトナム人を紹介することにより、ベトナム人の文化や人柄を県民に知ってもらい、地域内における共生促進に寄与するため、「かながわ・ベトナム パネル展」を開催した。	県と包括連携協定を締結しているイオン(株)、首都高速道路(株)、中日本高速道路(株)と連携することにより、多様な方々に対してベトナムとの交流等について周知することができた。	—	①2021年10月14日(木)～17日(日) ②2021年11月28日(土)～29日(日) ③2022年1月14日(土)～15日(日) ④2022年3月7日(月)～11日(金)	①イオンスタイル東戸塚 ②首都高速道路・大黒PA ③東名高速道路・EXPASA海老名 ④神奈川県庁新庁舎	—	重点施策 3

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
友好県省道交流会議	相互に友好提携関係にある神奈川県、中国・遼寧省、韓国・京畿道の三地域の代表が一堂に会し、共通の課題について情報を交換し、具体的な取組などについて話し合う。	三地域共通の課題として、都市再生を取り上げ、各地域の取組発表や意見交換を実施した。	神奈川県2名、遼寧省3名、京畿道2名	2021年10月28日	オンライン開催（遼寧省主催）	「都市再生」における交流と協力をさらに強化すること、相互協力の強化及び共同発展のために取り組むことを確認するため、今後合意書を締結予定	重点施策3
三県省道スポーツ交流事業	神奈川県、中国・遼寧省、韓国・京畿道の青少年によるスポーツの親善試合や交流事業実施のため、神奈川県選手団を京畿道に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	重点施策3
国際児童画展の開催							
かながわビエンナーレ国際児童画展	次代を担う子どもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化を理解し、交流を深めるふれあいの場となることを目的として、昭和56年（1981年）から隔年で開催している（応募資格：満4歳以上15歳以下。テーマは自由。）。	広く世界各地から作品を募集し、また受賞作品の地球市民かながわプラザでの展覧会や巡回展等を行った。	①第21回カナガワビエンナーレ国際児童画展 2,560人 ②第21回カナガワビエンナーレ国際児童画展巡回展（県内11会場）4,203人	①2021年7月6日～8月22日 ②2021年9月21日～2022年3月6日	地球市民かながわプラザ等	—	—
アーティストインレジデンス							
2021年度は実施しませんでした。							
ウ 多文化理解の推進							
「あーすフェスタかながわ」など多文化理解を推進するためのイベントの実施							
(再) 共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者や高齢者等が参加する演劇の舞台公演等を含む良質な内容の舞台公演等を実施した。	コロナ禍という制約の中で、動画配信の手法を活用することにより、多くの人々に自宅にいながら文化芸術の魅力を楽しんでいただきつつ共生社会の理念を普及した。	4764人 再生回数：58,210回 公演回数：48回	2021年4月～2022年3月	オンライン	—	重点施策3
あーすフェスタかながわ2021	多様な国籍文化や民俗の違いを理解し、認め合うことのできる多文化共生社会の実現をめざし、「あーすフェスタかながわ2021」をオンラインで実施した。	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、完全オンラインでの開催とした。ZOOMウェビナーを使用し、コメント機能や投票機能を活用し参加型のイベントとした。	延303名	2021年10月17日	オンライン	アンケートの結果、96%の人が「たのしかった」「まあまあたのしかった」と回答している。	重点施策3
地球市民かながわプラザ等での多文化理解を推進するための講座等の実施							
地球市民かながわプラザ指定管理事業（学習センター事業 情報・相談センター事業 サポート・ネットワーク事業）	多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザにおいて、展示学習などの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施した。	指定管理により、子どもから大人まで幅広い年齢層にプラザの理念や趣旨を魅力的に伝え、家族連れや友達同士で楽しく遊べるプログラムを実施する展示学習事業や大人も対象とした企画展及び関連イベントをバランスよく実施し、また校外学習の受入れ等を行った。	228,572人	2021年4月1日～2022年3月31日	地球市民かながわプラザ	アンケートの結果、98.2%の人が「満足」「どちらかといえば満足」と回答している。	重点施策3
かながわ国際交流財団との連携による留学生との交流を図る取組の推進							
高等学校等多文化理解推進事業	青少年世代が多様な文化や言語を持つ人たちとより密接にかかわり共生してゆくため、多文化共生について学ばせ、講演会等を実施した。	講演だけではなく、ワークショップなど、より理解を深められる手法を検討し実施している。	15校（3,211名）	2021年5月～2022年1月	県内高校（15校）	—	重点施策3
青少年国際交流セミナー等開催事業①	①多文化共生社会を担う青少年時代に自発的、主体的な学びの場を提供するためのセミナーを開催した。 ②日本と外国の異なる文化や多様な価値観等を知るための参加型セミナーを実施した。	コロナ禍でも実施可能なオンライン形式でフィールドワークを実施し、県内の文化的な背景を伝えた。	①延54人 ②延29人	①2021年12月18日、12月19日 ②2021年7月17日、11月20日	オンライン	—	重点施策3
青少年国際交流セミナー等開催事業②	多文化共生社会の実現をけん引できるリーダー的人材育成のため、大学生や若手社会人等を対象に、市民による多文化共生活動への理解を深めるためのセミナーを実施した。	コロナ禍でも実施可能な「オンライン」による開催とした。	延19人	2021年3月10日、3月19日	オンライン	—	重点施策3
(2) 創造的活動等の推進							
県立文化施設における新たな舞台芸術作品等の創造・発信							
神奈川芸術劇場における新たな舞台芸術作品の創造や新作公演の実施	新たな舞台芸術作品の創造や新作公演を実施した。（新型コロナウイルス感染症の影響により一部の公演は中止となった。）	気鋭のアーティストを起用し、また国内外の優れた制作者との共同制作公演にも積極的に取り組み、施設の特性を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	16,596人 再生回数：5,947回	通年 75公演 オンライン配信4回	KAAT神奈川芸術劇場	—	—
(再) かながわ短編演劇アワード2022	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：39団体 短編戯曲：134作品 【来場者数】 本戦：174人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）40人 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：13人	本戦：2022年3月26日～27日 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2022年1月9日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	—

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
文化芸術団体や民間企業・芸術系大学との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造							
舞台芸術の創作活動を通してコミュニケーション力の向上を図る青少年支援事業	青少年センターの青少年サポート課とホール運営課が連携して実施してきた「演劇活用青少年支援事業」の集大成となる公演（「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education V—Teens Revenge Edit.一』」）を実施した。	—	128人	2021年7月17日、18日 全2公演	青少年センタースタジオHIKARI	各回とも満席近く観客が入った。	重点施策5
新進芸術家等への支援の検討							
(再) 第37回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2021年8月22日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月3日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：1,173名 鑑賞者数：延べ880名 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：880名)	①クリスタルコンサート：2021年8月22日 ②トップコンサート：2021年10月3日 コンクール全体は2021年3月26日～10月31日	①クリスタルコンサート：横浜市青葉区民文化センター「フィリアホール」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	—
(再) 創作環境と劇場の未来を考え、劇場の創造活動の核を育てていく取組「カイハツ」	劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、クリエイションのアイディアをカイハツするプロジェクトとして、2021年度より開始した。	企画・人材カイハツ、創作プロセスカイハツ、戯曲カイハツの3柱を設け、創作環境と劇場の未来を考える企画とした。	114人	2021年9月7日～2022年3月31日 8企画	KAAT神奈川芸術劇場	(劇場ホームページにおいて、この取組と実施内容について広報をおこなう。6月現在、準備中)	—
(3) 文化資源の活用							
ア 文化芸術事業の発信力の強化							
神奈川発のコンテンツの創出							
(再) 共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者や高齢者等が参加する演劇の舞台公演等を含む良質な内容の舞台公演等を実施した。	コロナ禍という制約の中で、動画配信の手法を活用することにより、多くの人々に自宅にいながら文化芸術の魅力を楽しんでいただきつつ共生社会の理念を普及した。	4764人 再生回数：58,210回 公演回数：48回	2021年4月～2022年3月	オンライン	—	—
「マグカル」の全県展開							
(再) マグカル推進事業補助金	神奈川文化プログラムの核となる事業を実施する団体から企画案を公募し、補助金を交付した。	補助の上限額を300万円から100万円に引き下げ、より多くの事業を採択できるようにした。	要望団体数：80件 助成団体数：16件 採択額：11,571千円 参加者数：11,675名 オンライン視聴者数：3,129名	1次募集：2021年2月15日～3月15日 募集、4月30日交付決定 2次募集：2021年4月30日～5月21日 募集、7月20日交付決定	—	—	—
(再) バーチャル開放区	県庁前日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所を路上からオンライン上に移して、文化芸術オールジャンルの動画コンテンツ「バーチャル開放区」を実施した。	—	応募件数：572件 視聴結果 《HP/PV数》 808,840回 《再生数》 327,518回 (PV数・再生数いずれも視聴期間：2021年7月9日～2022年1月14日)	—	インターネット上	—	—
(再) 神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川文化プログラムとして認証した。	—	神奈川文化プログラム認証制度： 認証件数277件	—	県内全域	—	—
(再) マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	—	—	—	—	—	—
舞台芸術にかかわる人材の育成							
(再) プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	219人	通年 2021年4月29日～2022年3月13日(4回)	県民ホール本館等	—	重点施策5
(再) マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演会場としてかながわアートホールを新規で追加した。	6,083名	2021年4月～2022年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	重点施策5
(再) 2021年度マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー	マグカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンをを行う。	常任の講師に加え、特別講師を迎えレッスンを行った。通常とは違った内容のレッスンをを行うことで、生徒のモチベーションの向上を図った。	214人	練習日数：82日(週2日(原則、火曜日と木曜日)) 成果発表会：2021年4月10日(公開ゲネプロ2公演)、11日(2公演) 本公演：2022年3月19日～21日に3公演実施の予定が、出演者に新型コロナウイルス感染者が確認されたため中止	県立青少年センター	—	重点施策5
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	296名	2021年5月～8月	青少年センター	演劇経験のない青少年が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策5

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	63人	2021年8月10日、11日	—	—	重点施策5
(再) 室内オペラ・制作広報体験インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として「美術制作ワークショップ」と「リーディングワークショップ」を開催。インターンシップのプログラムの一環としても活用した。	3人	2021年9月26日～11月14日	音楽堂	—	重点施策5
(再) 昭和音楽大学寄付講座	昭和音楽大学と連携し、劇場職員による講義を実施した。	音楽芸術運営学科の「芸術文化と社会」、「芸術運営論」の講義を実施した。	20人	2021年11月2日 2021年11月9日	昭和音楽大学	—	重点施策5
(再) 劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	4人	2021年11月25日～2022年1月11日	県民ホール本館	—	重点施策5
(再) マグカル・ハイスクール・演劇フェスタ	県高校演劇発表会にて最優秀賞等高い評価を得た作品を上演した。	関東大会出場に向けて、県大会からの舞台装置の変更・見直しなど、作品のブラッシュアップに向けた相談に乗った。	177名	2021年12月19日	青少年センター紅葉坂ホール	全国大会で神奈川県の出場校が最優秀賞を受賞するなど、着実に実績が上がっている。	重点施策5
(再) かながわ短編演劇アワード2022	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：39団体 短編戯曲：134作品 【来場者数】 本戦：174人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）40人 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：13人	本戦：2022年3月26日～27日 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2022年1月9日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	重点施策5
(再) 青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（演出、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	—	①演出編31人 ②ダンス編27人 ③舞台美術編17人	①演出編 2022年1月10日 ②ダンス編 2022年3月13日 ③舞台美術編 2022年3月29日	①演出編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：県立スポーツセンター ③舞台美術編：青少年センター紅葉坂ホール	—	重点施策5
(再) 演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	79人(中学校) 22人(高等学校)	中学校：2022年1月15日、3月24日 高等学校：2022年3月23日	県内3会場	中学校：講師による講習や、他校との練習ができたことで、日頃の学内活動では得られないものがあつたという意見が多かった。 高等学校：講座の内容について、参加者全員から「とてもよい」または「よい」と高評価を得た。	重点施策5
(再) KAAT+YNU(横浜国立大学)教育普及講座	「芝居の大学 公開オンライン講座 第二期—移動型公共劇場はいかにして可能か—」をオンラインにより実施した。	2021年度に新設した社会連携ポータル事業に位置付けた。	視聴者数：70人	2022年1月25日、2月9日	—	—	重点施策5
(再) 2021年度インターン劇場運営(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、県内巡回事業を中心としたプログラムとし、KAATだけにとどまらない新しい文化事業の在り方を学ぶ内容とした。	5人	2022年2月6日～3月25日	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策5
(再) 大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が木管楽器、金管楽器等を案内する形での人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	20人	2022年2月27日	県民ホール本館	—	重点施策5
(再) 心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	25人	2022年3月20日	青少年センター練習室	アンケートの結果は、大変良かった96%、良かった4%で、受講者の満足度も高く、大きな影響を与えたものと思われる。	重点施策5
(再) 県立高校における舞台芸術に関する学科の新設と支援	県立高校改革実施計画(二期)に基づき、県立神奈川総合高校に舞台芸術科を設置。2021年4月に一期生が入学した。	アドバイザーボードを設置し、神奈川総合高等学校舞台芸術科の取組について継続的に支援を受ける仕組みを構築し、第1回目となる協議会を開催した。	協議会構成アドバイザーボード構成員3名、神奈川総合高等学校4名、高校教育課3名、計10名	2022年3月25日	神奈川総合高等学校	神奈川総合高校多目的ホール改修工事請負契約締結	重点施策5
(再) 全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	—	—	—	—	—	重点施策5

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
文化プログラムの展開とレガシーづくり							
伊勢原聖火リレー盛り上げ独自イベント事業	大山詣りの伝統的な文化である「布招き」を、聖火を歓迎する五輪特別仕様デザインしたもので装飾演出を行う。	市民及び来訪者に広くアピールするため、聖火リレーのルートである大山こま参道と市の玄関口である伊勢原駅構内に装飾演出を行った。	市内小学生5000名	2021年6月21日～7月30日	伊勢原駅構内及び大山こま参道	—	重点施策4
(再)東京2020NIPPONフェスティバル「静、愛と死」～能とオペラの融合による創作舞台～	日本の伝統芸能と西洋の伝統文化を融合させた公演を東京2020大会公式文化プログラムとして大会組織委員会との共催で実施した。	トークショーや解説の挿入による分かりやすさの追求、また、無観客配信であったものの撮影手法の工夫による公演の雰囲気再現を行った。	視聴回数4,669回	2021年8月7日ライブ配信アーカイブ配信も実施	県立県民ホール	—	重点施策4
(再)東京2020NIPPONフェスティバル「カガヤクミライガミエルカナガワ2021 Our Glorious Future～KANAGAWA 2021～」	「共生社会の実現に向けて」をテーマに東京2020大会公式文化プログラムを大会組織委員会とともに主催した。	無観客配信となったが、作品の説明、ドローン撮影、AR作品等を用いて質の高い映像作品とした。	視聴回数20,781回	2021年8月11日から15日を中心に撮影8月16日以降順次配信	横浜市西区紅葉ヶ丘文化ゾーン(県立音楽堂、県立青少年センターほか)、県立県民ホール	—	重点施策4
武道祭	世界が認める文化のひとつである「武道」を発信する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集客は行わず、関係者のみによる演武と文化パフォーマンスを実施し、動画配信した。	参加者数278名 生配信視聴者数1,549名 アーカイブ視聴者数3,242名	2021年9月4日	横浜武道館	—	重点施策4
真鶴町 謎解きさんぽ -石の彫刻を巡る旅-	町の名産・本小松石を使った彫刻をテーマにした謎解きイベントを開催する。	個人のスマートフォンを使ってイベントに参加できる形態を取った。	参加アカウント数:252件	2021年11月1日～12月20日	真鶴町内	—	重点施策4
イ文化資源を活用した地域の活性化							
相模湾沿岸地域一帯に残る邸宅・定演や歴史的建造物を保全・活用した地域づくりの推進							
湘南邸園文化祭2021	9月～12月にかけて相模湾沿岸の13市町の邸園等において、25の市民団体等により47のイベントを実施した。	—	延べ約9,300人	2021年9月5日～12月12日	相模湾沿岸地域一帯の邸宅・邸園等	—	
県西地域の豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産などを活用した箱根ジオパーク等の取組の推進							
箱根ジオパーク推進協議会事業	<ul style="list-style-type: none"> 防災講演会の開催 PRイベントの実施 ガイド養成講座の開催実施 サポーター講座の開催 ジオツアーの実施 小中学校等での教育活動 ジオパーク特産品の開発 サインの整備 フォトコンテスト作品展の開催 	<ul style="list-style-type: none"> サイン整備事業において、多言語版ページを作成した。 ガイド養成講座においてコロナ禍により研修会を開催できなため、動画作成としHPおよびDVDで配付した。 ジオツアーはオンラインで実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> サポーター講座(第一回:11名 第二回:9名 第三回:15名) ジオツアー(山編:21名 海編:27名) 小中学校での教育活動(27名) 	通年	通年	—	
「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進							
「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進	世界遺産登録を目指す「鎌倉」の構成資産について、適切な保存管理と積極的な公開活用を図るため、県費補助金による助成を行った。なお例年実施している「鎌倉」世界遺産に係る文化財保護ポスター事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。	—	—	—	—	—	
「日本遺産」の新たな認定の推進と活用による地域活性化							
「日本遺産」に関する情報提供及び支援	「日本遺産」の新規認定申請について、県内市町村等に周知を行った。また、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。	—	—	—	—	「日本遺産」の「候補地域」の募集について、県内市町村等に周知を行った。また、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。	
地域に伝承されてきた文化等の発掘・発信・体験の促進							
(再)県立歴史博物館における特別展の実施	特別展「錦絵にみる明治時代」、「十王図」、「早雲寺」、コレクション展「運動のすすめ」、「赤星直忠と神奈川県立博物館」、「帰源院文書からみた戦国時代」を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	特別展「錦絵にみる明治時代」4,122人、「十王図」2,863人、「早雲寺」7,154人	特別展「錦絵にみる明治時代」2021年4月29日～6月20日、「十王図」2021年7月17日～8月29日、「早雲寺」2021年10月16日～12月5日、コレクション展「運動のすすめ」2021年6月26日～9月12日、「赤星直忠と神奈川県立博物館」2022年1月8日～2月27日、「帰源院文書からみた戦国時代」2022年3月5日～4月10日	県立歴史博物館	—	

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 民俗芸能調査事業費	「吉浜の鹿島踊」を初めとして、県内に所在する「鹿島踊」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とする。調査において当該芸能の特色を明らかにする。新型コロナウイルス感染症の影響により、3か年調査を4か年に変更し、2021年度末に調査報告書を刊行した。	調査員による現地調査及び関連文献の調査	調査員13人ほか	現地調査2021年6月27日ほか 2回等 調査報告書刊行2022年3月24日	真鶴町真鶴、湯河原町門川ほか	—	
(再) 日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のワークショップは中止となった。	多数の応募があったことから、午前・午後の2部制に変更し、より多くの方に参加してもらった。	41人	2021年7月22～23日	横須賀市文化会館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、27名(回答者数)から「とても満足・やや満足」との回答があった。	
(再) 相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のワークショップは中止となった。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	160人	2021年12月11日	平塚中等教育学校	—	
(再) 「カナガワリ・古典プロジェクト in 小田原」	小田原市を中心とした県西地域を舞台に、県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、民俗芸能団体の演目等の公演を実施。その映像や練習風景等の映像を配信した。	民俗芸能団体の若年層を中心としたインタビューを取り入れる等民俗芸能の次世代への継承に焦点を当て、公演の実施や映像制作を行った。	来場者数：1,443名 映像総再生数：20,549回	ホール公演：2022年1月23日 映像配信：2021年12月24日から随時配信	小田原三の丸ホール (小田原市民ホール)	民俗芸能団体の演目や練習風景の映像などを制作したことにより、アーカイブの要素として後世に残すための取組を実施することができた。	
(再) かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者の方を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	主体となる伝統芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化全体に間口を広げることで、その体験プログラムも組み合わせる内容とすることで、子どもや親子3世代が気軽に来場し、事業の参加を通じたコミュニケーションを図る工夫を行った。	【第1部】247人、【第2部】185人、【体験コーナー】220人	2022年2月11日	青少年センター紅葉坂ホール・ホワイエ	コロナ禍にもかかわらず、募集定員の2倍以上となる1,084名もの観覧申込があった。	
(再) 能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	26人	2022年3月21日	県立青少年センター練習室	—	
(再) かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—	
県立文化施設の地域の賑わい創出等への活用							
前川建築見学ツアー	ボランティアグループbridgeと協働し、音楽堂の見学ツアーを定期的に実施した。	主催公演とあわせた開催とすることや、フルコース、無料のショートコースを設けるなど参加しやすい形式を取り入れた。	291人	2021年5月1日、7月31日、11月27日、2022年3月20日	音楽堂	—	
音楽堂、県立青少年センター、県立図書館、横浜音楽堂、横浜市民ギャラリーの5館の連携事業	2020年度に「紅葉ヶ丘公立文化施設5館連携会議」を設立し、5館合同イベントを開催した。	「紅葉ヶ丘まいらさんぼマップ」の紹介に使えるチラシ、クリアファイルを5館共同で製作した。	100人(音楽堂コーナー参加者数)	2022年1月23日	音楽堂、横浜音楽堂(2会場)	年間をととして「紅葉ヶ丘まいらさん」公式SNS等で連携して5館及び地域の魅力を発信した。	
ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信							
観光かながわNOW情報発信事業	ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信した。	美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ(クリックカブル)を掲載する。トップページにて、イベント情報を発信する他、文化芸術イベントの公演情報等の詳細を発信する「マグカル・ドット・ネット」と「観光かながわNOW」をリンクさせる。	—	通年	—	—	
無形民俗文化財及び民俗行事等の情報提供	神奈川県無形民俗文化財及び民俗行事等の開催日時の掲載を行った。	—	ページビュー数：5,182件	—	—	「民俗芸能記録保存調査(鹿島踊り)」の調査を行うことができた。	

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
地域の製品の普及、伝統的工芸品の製品フェア開催など文化資源の普及、育成							
関東ブロック伝統的工芸品展2021	関東甲信越静地区の伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：6,500人	2021年10月23日、24日	東京国際フォーラム（ロビーギャラリー2）	—	
伝統的工芸品展WAZA2022	大消費地での全国伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：100,470人	2022年2月17日から23日まで	東武百貨店池袋店	—	
フィルムコミッション活動支援事業の推進							
フィルムコミッション活動支援事業	神奈川ロケーションサポートデスクの設置（制作会社からの問い合わせに対して、お薦めロケ地のPRや、フィルムコミッションの紹介、市町村との調整などの機能を担う。）	公益社団法人神奈川県観光協会の実施する各種観光プロモーション事業と効果的かつ一体的に実施するため、2018年4月から同協会に神奈川ロケーションサポートデスク事業を移管。	神奈川ロケーションサポートデスクへの問い合わせ件数…235件 4月…17件 5月…30件 6月…21件 7月…17件 8月…16件 9月…26件 10月…22件 11月…24件 12月…7件 1月…23件 2月…21件 3月…11件	通年	(公社) 神奈川県観光協会	—	
各市町村における文化活動の情報交換・連携							
神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会	文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした会議を開催するもの。	県からの一方的な発信にならないよう、参加した全市町村からそれぞれの文化政策について発言をしていただき、情報共有を行っている。	90名	2021年7月20日	書面開催	—	重点施策 5
(4) 景観の形成							
「神奈川景観づくり基本方針」に基づく魅力ある景観づくりの推進							
景観計画策定等に係る意見交換会	神奈川景観づくり基本方針では、景観づくりを推進する上で市町村の役割の重要性から「全ての市町村が景観行政団体となるよう支援する」旨を定めており、未移行団体の町と意見交換を実施した。	—	7町1村	2022年3月17日～3月24日	WEB開催（ZOOM）	—	
文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討							
文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討	文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知した。	—	—	—	—	文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知した。	

V 施策事業の実施状況

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 学校施設、公共的施設の活用等							
学校施設、公共的施設の文化芸術活動の練習、稽古、発表の場としての活用							
県立学校施設開放事業	県立学校の図書室・音楽室などの学習施設や、グラウンド・体育館などの体育施設を県民の学習・文化活動やスポーツ活動の場として提供した。	地域住民が利用しやすいよう、土曜日又は日曜日のいずれか半日以上を原則開放日として設定している。	学習施設：開放校数23校、利用人数840人 体育施設：開放校数150校、利用人数103,048人	通年	各県立学校	—	
(再) マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	—	—	—	—	—	
(2) 県立文化施設の充実							
ア 県立文化施設の機能の充実							
県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充							
神奈川近代文学館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	神奈川近代文学館	乗用エレベータ、空調関連設備、通信設備などの修繕・工事を実施した。	重点施策5
県民ホール本館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	県民ホール本館	非常放送設備改修工事など、33件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
KAAT神奈川芸術劇場の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	KAAT神奈川芸術劇場	ホール吊物機構改修工事など、40件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
県立音楽堂の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	音楽堂	外壁漏水対策工事など、13件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
青少年センターホール天井等改修工事	青少年センターホール天井等の改修工事に係る契約手続きを行った。 また、舞台用エレベーターの改修工事に係る実施設計を行った。	—	—	(天井工事、人用エレベーター工事の契約期間) 2022年2月7日 ～2023年1月4日 (舞台用エレベーター実施設計契約期間) 2021年6月4日～2022年2月18日	—	—	重点施策5
施設の機能としての人材育成							
(再) プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	219人	通年 2021年4月29日～2022年3月13日(4回)	県民ホール本館等	—	重点施策5
(再) 2021年度マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー	マグカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師を迎えレッスンを行った。通常とは違った内容のレッスンを行うことで、生徒のモチベーションの向上を図った。	214人	練習日数：82日(週2日(原則、火曜日と木曜日)) 成果発表会： 2021年4月10日(公開ゲネプロ2公演)、11日(2公演) 本公演：2022年3月19日～21日に3公演実施の予定が、出演者に新型コロナウイルス感染者が確認されたため中止	県立青少年センター	—	重点施策5
(再) 青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	63人	2021年8月10日、11日	—	—	重点施策5
(再) 中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：20人(教員のみ) 高校生：363人	中学校：2021年9月19日 高等学校：2021年7月30日、31日	青少年センター	—	重点施策5
(再) 室内オペラ・制作広報体験インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として「美術制作ワークショップ」と「リーディングワークショップ」を開催。インターンシップのプログラムの一環としても活用した。	3人	2021年9月26日～11月14日	音楽堂	—	重点施策5
(再) 劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	4人	2021年11月25日～2022年1月11日	県民ホール本館	—	重点施策5
(再) 青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム(演出、ダンス振付、舞台美術)を実施した。	—	①演出編31人 ②ダンス編27人 ③舞台美術編17人	①演出編 2022年1月10日 ②ダンス編 2022年3月13日 ③舞台美術編 2022年3月29日	①演出編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：県立スポーツセンター ③舞台美術編：青少年センター紅葉坂ホール	—	重点施策5

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) KAAT+YNU(横浜国立大学)教育普及講座	「芝居の大学 公開オンライン講座 第二期—移動型公共劇場はいかにして可能か—」をオンラインにより実施した。	2021年度に新設した社会連携ポータル事業に位置付けた。	視聴者数：70人	2022年1月25日、2月9日	—	—	重点施策5
(再) 2021年度インターン劇場運営(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、県内巡回事業を中心としたプログラムとし、KAATだけにとどまらない新しい文化事業の在り方を学ぶ内容とした。	5人	2022年2月6日～3月25日	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策5
(再) 大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が木管楽器、金管楽器等を案内する形での人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	20人	2022年2月27日	県民ホール本館	—	重点施策5
(再) 心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	25人	2022年3月20日	青少年センター練習室	アンケートの結果は、大変良かった96%、良かった4%で、受講者の満足度も高く、大きな影響を与えたものと思われる。	重点施策5
イ 運営方法の点検等							
施設利用者を対象としたアンケート調査の実施							
利用者満足度調査	来館者・貸館利用者・ホームページ閲覧者等を対象に満足度調査を実施した。	調査回答数を増加させるために、実施期間を1カ月程度から2カ月程度に拡大した。	—	2021年12月1日～2022年1月31日	—	—	
施設運営会議等による施設運営や実施事業の点検・検証							
神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会	3館一体による効率的な運営が行われているか、チェックするため、公募委員を含む6名により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について年1回会議を開催した。	前年度の実施状況を踏まえ、委員とのやり取りを2回に増やし、より委員の意見が反映できる形とした。	—	2021年10月1日～12月2日 モニタリング：10公演(のべ32回)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により書面会議とした	—	
施設運営全般についてのモニタリングの実施							
行政によるモニタリング(月報、事業報告書、モニタリング結果報告、指定管理業務総括調査)	指定管理者に対して、県の行政課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」等に基づくモニタリングを実施した。	—	—	月例報告書の確認：毎月 モニタリング結果報告書作成：年1回	—	—	
(3) 情報通信技術の活用							
ア 情報の発信							
ホームページ、SNS、ポータルサイト、電子メールを活用した文化芸術情報の提供の強化							
(再) 観光かながわNOW情報発信事業	ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報を発信した。	美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ(クリックابل)を掲載する。トップページにて、イベント情報を発信する他、文化芸術イベントの公演情報等の詳細を発信する「マグカル・ドット・ネット」と「観光かながわNOW」をリンクさせる。	—	通年	—	—	重点施策5
外国語観光情報ウェブサイト多言語化・運用管理等業務	外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip —Kanagawa Travel Info—」から、文化課の「Magcul.net」にリンクを設置している。	「Tokyo Day Trip」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	—	通年	—	—	重点施策5
(再) マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV(ページビュー)数414,764	通年	インターネット上	—	重点施策5
(再) 県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供している。	ホームページアクセス数(公式noteを含む)：192,549件 上記のうち、蔵書検索アクセス数：53,447件 動画コンテンツ視聴数：計7,066件	通年	神奈川近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の音声公開など新たにコンテンツを公開した。	重点施策5
(再) 県立金沢文庫における情報提供の実施	金沢文庫で開催する展覧会や講座などのイベントについて、金沢文庫HPやTwitterで広報をおこなった。	展覧会の目玉となる作品や金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の作品紹介を定期的にTwitterで紹介し、展覧会や金沢文庫の保管する資料の魅力を伝えるよう発信した。	HP閲覧件数：320,239件 Twitter発信件数：287件	—	—	—	重点施策5
(再) 県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	プレスリリースのメール配信数：7回 Twitter発信数：414回	—	—	—	重点施策5

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 県立歴史博物館における情報提供の実施	HP (Twitter含む) を活用した情報提供や刊行物、マスメディア (紙・電波媒体、ネット) による情報発信を行った。	新聞等のマスメディアへの露出機会を増やすために、きめ細やかな情報提供に努めた。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、外出自粛が続く中、「おうちでかながわけんぱく」等のオンラインでの情報発信に努めた。	653件 【内訳】 ・HP (Twitter含む) : 401件 ・特別展等チラシ・ポスター: 12件 その他: 236件 (新聞: 101、雑誌: 15、テレビ: 7、ラジオ: 6、WEB: 98、その他: 9) ・催し物のご案内: 1件 ・博物館だより: 3件	—	—	—	重点施策5
保存資料等の検索・閲覧等に関する情報通信技術の活用							
県立金沢文庫における「国宝 金沢文庫文書データベース」の公開	金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の画像を、PCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを公開した。	古文書の表と裏の両面を高精細画像で公開し、画像どおりの行取りで活字化した本文を表示した。	アクセス件数: 51,083件	—	—	—	重点施策5
イ 利便性の向上							
施設利用予約システムの運用							
施設予約システムの運用	公共施設利用予約の共同運営を実現するための神奈川県電子自治体共同運営サービスを県と市町村が共同して提供する。	原則24時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図る。	2021年度利用件数 1,075,807件 (県のみ) (内訳) ・抽選申込数 909,595件 内希望調整申込件数 4,495件 ・予約申込数 166,212件	通年	—	—	
ウ 文化芸術にかかわる資料、作品、情報等の保存							
県立文化施設における収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進							
県立近代文学館における所蔵資料のデータベース化	所蔵資料 (図書、雑誌、特別資料) のデータベース化は、利用者の利便性向上のために重要であることから、当年度もインターネット公開を進めた。	独自の入力項目等により、近代文学の専門館としてのデータ水準を維持している。	特別資料検索利用登録者: 125人 (累計2,506人)	通年	神奈川近代文学館	本年度の図書、雑誌、特別資料を合わせた電算化入力件数は19,920冊 (件) となり、累計は1,266,194冊 (件) となった。特別資料 (原稿、自筆資料、書簡など) に関しては、新たに8,079件のデータがインターネットで検索可能となった。	
県立近代美術館における収蔵資料等のアーカイブ事業	開館以来の活動により蓄積された貴重な記録資料の整理・保存並びに提供ができる環境を整備した。	アーカイブ化した資料はインターネット上で公開を行っている。	公開件数: 1,546件	—	—	—	
県立歴史博物館における博物館情報システムデータ整備	収蔵資料のデータベース化を推進した。	—	登録件数: 8,956件	—	—	—	
エ 東京2020大会を契機とした取組							
多言語による情報提供							
(再) 外国語観光情報ウェブサイト多言語化・運用管理業務	外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip —Kanagawa Travel Info—」から、文化課の「Magcul.net」にリンクを設置している。	「Tokyo Day Trip」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	—	通年	—	—	重点施策4、5
(再) イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎号特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数 340,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、劇場、ホテル等で配布	—	重点施策4、5
外国籍県民情報提供推進事業	①多言語情報紙「こんにちは神奈川県」の作成 ②多言語による県民情報提供	記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に取りやすい紙面の作成をしている。	6言語 (日本語併記) 1回当たり20,300部発行 A4版4ページ。	①8月、11月、3月の年3回の発行 ②年間随時	①県機関、市町村、都道府県、国際関係協会・センター、医療機関等約800箇所 ②ホームページ上	—	重点施策4、5
(再) 東京2020NIPPONフェスティバル「静、愛と死」～能とオペラの融合による創作舞台～	日本の伝統芸能と西洋の伝統文化を融合させた公演を東京2020大会公式文化プログラムとして大会組織委員会との共催で実施した。	トークショーや解説の挿入による分かりやすさの追求、また、無観客配信であったものの撮影手法の工夫による公演の雰囲気再現を行った。	視聴回数 4,669回	2021年8月7日ライブ配信 アーカイブ配信も実施	県立県民ホール	—	重点施策4、5
(再) 東京2020NIPPONフェスティバル「カガヤクミライガミエルカナガワ2021 Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～」	「共生社会の実現に向けて」をテーマに東京2020大会公式文化プログラムを大会組織委員会とともに主催した。	無観客配信となったが、作品の説明、ドローン撮影、AR作品等を用いて質の高い映像作品とした。	視聴回数 20,781回	2021年8月11日から15日を中心に撮影 8月16日以降順次配信	横浜市西区紅葉ヶ丘文化ゾーン (県立音楽堂、県立青少年センターほか)、県立県民ホール	—	重点施策4、5
(4) 文化芸術活動に対する支援の促進							
寄附税制等に関する周知							
かながわキタロウ寄附金 (ふるさと納税)	県のふるさと納税及びかながわキタロウブックキフの寄附メニューに文化事業のメニューとして「あらゆる人が文化芸術に触れ笑顔になれる社会を！」を掲載し、寄附を募った。	—	130人、2団体	通年	—	寄附総額 8,263,365円	
文化芸術団体への寄附の促進							

V 施策事業の実施状況

令和3年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
神奈川芸術文化財団への寄附の促進	神奈川芸術文化財団HPに掲載するほか、賛助会員やその他法人・団体への寄附依頼時にパンフレットにて周知した。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、寄付件数・総額に多大な影響があったが、主催事業の中止時等においては、チケット料金を払い戻さず寄付していただく制度の活用を進め、多くの個人の方から支援をいただいた。	賛助会員数 法人：38社 個人：15名	通年	—	個別協賛：4件 その他寄付：2件 広告協力：2社 チケット買入協賛：1社 チケット料金払い戻し時における寄付：16件	
神奈川近代文学館への寄附の促進	神奈川近代文学館「友の会」は、近代文学館を積極的に利用していただく方に向けて、入館料無料、行事や刊行物の会員価格割引、会員限定行事の開催など、さまざまな事業を行った。	—	会員数：848人	—	—	会員数は新型コロナウイルス感染症に伴う休館等の影響で減少した。	
神奈川近代文学館への寄附の促進	「神奈川近代文学館を支援する会」は、法人、団体、事業主または個人を対象に近代文学館の広報や支援に協力いただくとともに寄付による税額控除を行っている。	—	会員数：105人(127口)	—	—	会員による支援によって、近代文学館の事業が充実するとともに、広報活動を幅広く行うことができた。	
メセナ企業等に関する情報の提供							
(再) マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度 PV（ページビュー）数 414,764	通年	インターネット上	—	
企業メセナ協議会の相談窓口	「助成認定制度」の相談窓口として周知や積極的な活用を促進した。	県民ホールの入り口でのプレートを設置やパンフレットの設置等を行った。	—	通年	—	公益財団法人企業メセナ協議会の準会員として、報告会等に参加し、情報収集を行う。また、財団音楽事業部長兼音楽堂館長がメセナ協議会の研修会の企画委員として参画している。	
メセナ企業と芸術家とを結びつける方策の検討							
2021年度は実施しませんでした。							
(5) 顕彰の実施							
神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施							
(再) 神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川県に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。2021年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縮小開催とし、関係者のみの参加とした。	縮小開催のため、一般観覧者なし	2021年11月3日	神奈川県庁本庁舎3階大会議場	受賞者6人 (文化賞：4人、未来賞：2人)	

VI 進行管理のための参考指標等

1 総合計画「かながわグランドデザイン」における文化芸術の位置付け

総合計画は、県政運営の総合的・基本的指針として、神奈川の将来のあるべきすがたを描き、それに向けて県がどのような政策を展開するのか、県民の皆さんにお示しするものです。

県では、2012年に「かながわグランドデザイン基本構想」及び「かながわグランドデザイン実施計画」を策定するとともに、2015年には「かながわグランドデザイン第2期実施計画」を策定し、様々な課題への対応を着実に進めてきました。

そして、2018年度に「第2期実施計画」が最終年度を迎えたことから、2025年を年次目標とした「基本構想」の実現に向けて、2019～2022年度の4年間に取り組む政策を示した「第3期実施計画」を策定しました。

第3期実施計画においては、5つの「めざすべき姿」を掲げ、重点施策を分野横断的にとりまとめた23のプロジェクトなどに着実に取り組むこととしています。文化芸術は「ひとのチカラを最大限に生かす神奈川」の実現を目指す柱Ⅳ「ひとのチカラ」のプロジェクト15「文化芸術～文化芸術の魅力で人を引きつけ、心豊かで活力ある地域の実現～」として位置付けられています。

また、超高齢社会や人口減少社会への対応など非常に大きな課題を乗り越えるために、プロジェクトをさらに複合的に実施する取組を「神奈川の戦略」として8つの戦略をまとめており、神奈川の戦略6「マグネット・カルチャーの推進」として、文化芸術だけでなく各関連分野が有機的な連携を図りながら、「マグカル」の取組を推進することとしています。

なお、総合計画を補完する個別計画として「かながわ文化芸術振興計画」が位置付けられています。

プロジェクト15 文化芸術～文化芸術の魅力で人を引きつけ、心豊かで活力ある地域の実現～

文化芸術により真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活と、活力に満ちた地域づくりの実現が求められています。特に、東京2020大会に向け、伝統芸能を含む文化芸術により地域のにぎわいを創出するとともに、その成果をレガシーとして、大会後もコミュニティの再生・活性化に生かしていくことが必要です。そこで、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグカル（マグネット・カルチャー）の取組のさらなる展開を図るとともに、笑いがあふれる社会の実現を後押しします。また、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで、あらゆる人の文化芸術活動の充実を図ることで、共生社会づくりに寄与するとともに、心豊かな県民生活の実現に向けて取り組みます。

指標

○ 県文化芸術事業参加者数

2018年度	1,514,142人
2019年度	1,590,900人
2020年度	470,453人
2021年度	846,262人
2022年度(目標値)	1,694,000人

○ 神奈川県民ホール、神奈川芸術劇場、県立音楽堂、かながわアートホール及び神奈川近代文学館の利用者満足度

2018年度	97%
2019年度	97%
2020年度	97%
2021年度	95%
2022年度(目標値)	97%

VI 進行管理のための参考指標等

具体的な取組

A 県民の文化芸術活動の充実

- 県内各地域の伝統的な文化芸術を次代に継承していくため、市町村との連携による地域の伝統芸能の発表の場を設け、県内外に発信していくとともに、技術・技能の継承者の育成に取り組みます。
- 年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで、あらゆる人が文化芸術に親しめるよう、鑑賞・参加機会を確保するとともに、年齢や障がいなどで異なる鑑賞・参加の手法などを整理し、文化芸術を通じた共生社会実現の環境づくりを進めます。
- 神奈川の文化芸術の将来を担う人材を輩出するため、県立施設などにおいて、あらゆる人を対象とした鑑賞事業、体験事業を実施していきます。特に、県立青少年センターではマグカルシアターなどの取組を軸として舞台芸術の裾野を広げるとともに、神奈川芸術劇場では国際的に通用する人材を育成する取組を推進します。

KPI（重要業績評価指標）※1	年度	目標値	実績値	進捗率
① 伝統芸能の体験・ワークショップ等の回数(回)	2018		12	
	2019	13	12	92.3%
	2020	13	1	7.6%
	2021	14	3	21.4%
	2022	14	—	—
② 共生共創事業の公演等の参加者数(人)	2018		2,532	
	2019	5,000	6,947	138.9%
	2020	5,400	4,267	79.0%
	2021	5,700	4,764	83.5%
	2022	6,000	—	—
③ マグカルシアター等参加者数(人)	2018		6,572	
	2019	10,000	7,252	72.5%
	2020	10,200	2,912	28.5%
	2021	10,400	6,083	58.4%
	2022	10,500	—	—

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業が中止等となったことで、実績値が目標値を下回った。

VI 進行管理のための参考指標等

B 文化資源を活用した地域づくりの推進

- 文化資源を活用した地域づくりを進めるため、文化芸術の魅力を発信する文化プログラムについて、官民一体となったオール神奈川による展開と定着を図ります。特に東京2020大会を契機に、インバウンドも意識した展開を図り、その後もレガシーとして地域の継続的な活性化につなげます。
- 県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用を進めます。また、地域の活性化などに活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家などとの連携により有効活用を図ります。

KPI(重要業績評価指標)	年度	目標値	実績値	進捗率
① 神奈川文化プログラム認証件数(件) ※2	2018		425	
	2019	430	497	115.6%
	2020	460	486	105.6%
	2021	460	277	60.2%
	2022	460	—	—
② 県文化芸術振興審議会が選定した質の高い文化芸術活動を行う非営利活動団体数(団体) ※3	2018		36	
	2019	37	38	102.7%
	2020	38	41	107.8%
	2021	39	50	128.2%
	2022	40	—	—

VI 進行管理のための参考指標等

C 文化芸術の振興を図るための環境整備

- 地域からの持続的な文化芸術の振興が図られるよう、市町村との会議による情報交換や、市町村や文化芸術団体と協力した事業の実施や人材育成の支援に取り組みます。
- 県内外にマグカルのファンが広がるよう、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」による情報発信や「イベントカレンダー」の発行など、県内各地の文化芸術イベント情報の掲載に加え多言語対応を行うなど、積極的な情報発信を推進します。

KPI(重要業績評価指標)	年度	目標値	実績値	進捗率
① 県立文化施設で育成した文化芸術を担う人材数(計画期間中の累計)(人)	2018		—	
	2019	145	85	58.6%
	2020	290	282	97.2%
	2021	435	556	127.8%
	2022	580	—	—
② 「マグカル・ドット・ネット」のページビュー数(PV)	2018		357,231	
	2019	364,600	398,712	109.4%
	2020	372,200	307,480	82.6%
	2021	379,800	414,764	109.2%
	2022	387,400	—	—

SDGsとの関係について

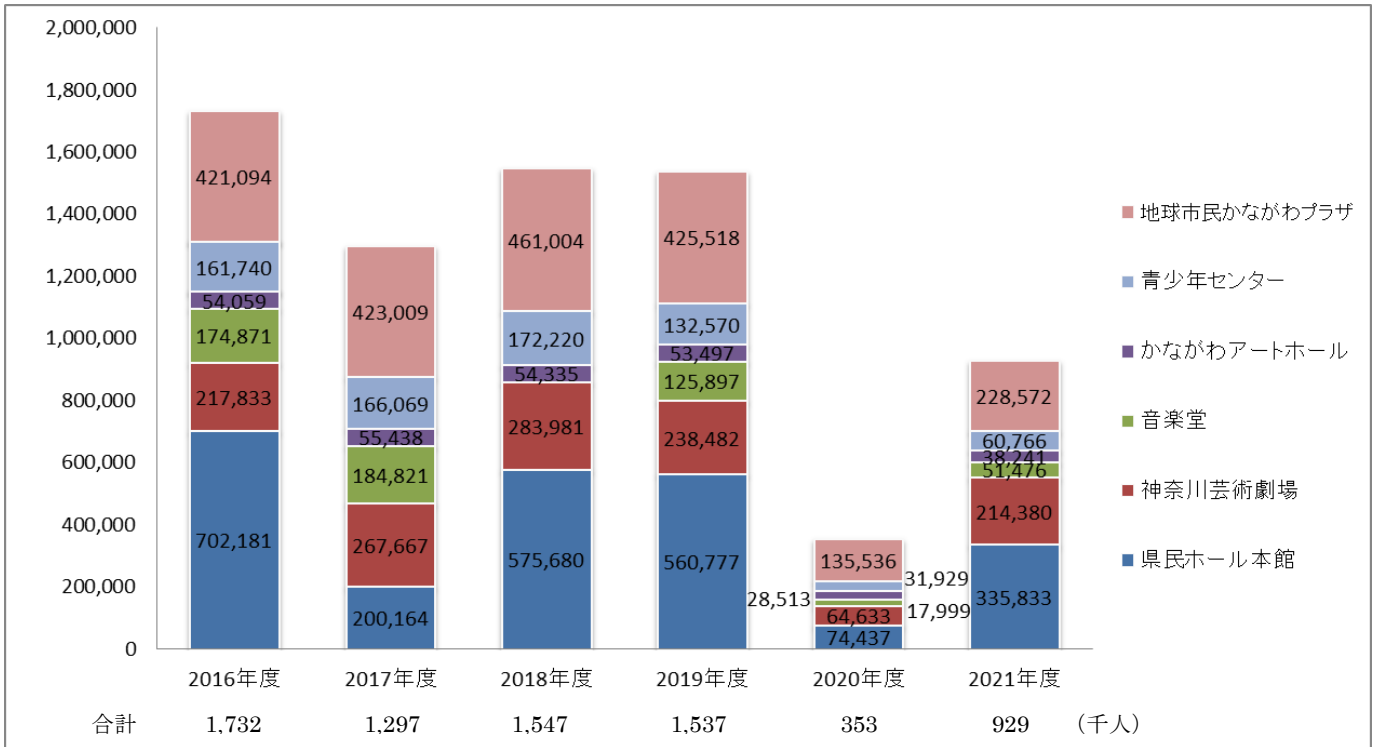
「第3期実施計画」では23のプロジェクトとSDGsの17のゴールとの関連を分析し、整理しています。プロジェクト15「文化芸術」は、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール4「質の高い教育をみんなに」、ゴール8「働きがいも経済成長も」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連しています。



VI 進行管理のための参考指標等

2 県立文化施設の利用者数

(1) ホール・劇場等



○休館期間

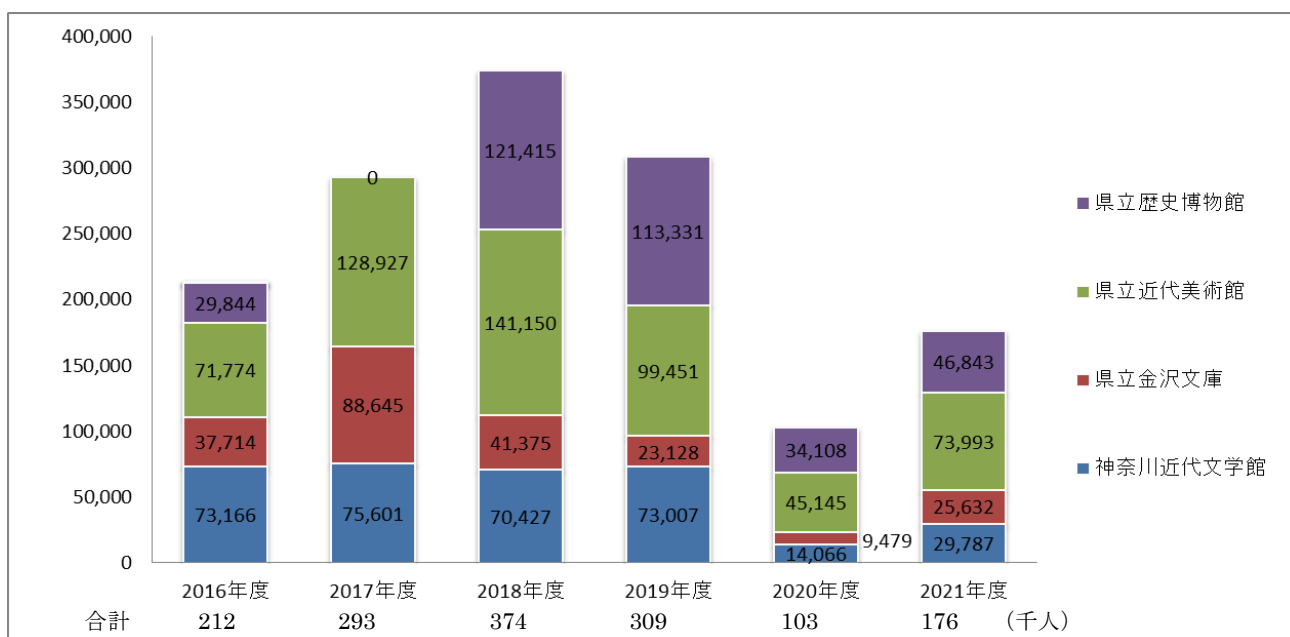
県民ホール本館：2013年12月2日から2014年9月30日、
2017年7月3日から2018年3月31日、
2018年4月1日から5月31日（大ホールのみ）
音楽堂：2018年4月1日から2019年5月31日

【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る休館期間】

県民ホール本館：2020年4月7日から8月31日
2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
KAAT 神奈川芸術劇場：2020年4月7日から7月13日
2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
音楽堂：2020年4月7日から8月31日
2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
かながわアートホール：2020年4月13日から6月19日
2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
青少年センター：2020年4月7日から8月31日
2021年1月8日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
地球市民かながわプラザ：2020年4月9日から5月31日
2021年1月9日から10月25日（既に予約済みのものは除く）

VI 進行管理のための参考指標等

(2) 美術館・博物館等



※県立近代美術館：葉山館、鎌倉別館のこと

○休館期間等

県立金沢文庫：2019年11月18日から2020年3月26日

県立近代美術館

鎌倉別館：2016年2月1日から7月29日、

2016年12月26日から2017年3月31日

2017年9月4日から2019年10月11日

2020年7月6日から2021年9月30日

葉山館：2020年1月から6月（展示休止）

県立歴史博物館：2016年6月1日から2018年4月27日

神奈川県近代文学館：2021年12月1日から2022年3月31日

【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る休館期間】

神奈川県近代文学館：2020年3月4日から6月12日

2021年1月12日から3月19日

2021年3月20日から10月24日（事前予約した方に限り入館可能）

県立金沢文庫、県立近代美術館、県立歴史博物館：

2020年3月4日から6月8日

2021年1月12日から3月21日

2021年3月26日から10月25日（事前予約した方に限り入館可能）

2022年1月21日から3月21日（事前予約した方に限り入館可能）

VI 進行管理のための参考指標等

3 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度

(1) 全県

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

質問項目	年度	生活重要度		生活満足度	
		重要	重要でない	満たされている	満たされていない
文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	2021	49.9%	14.9%	20.2%	24.0%
	2020	51.3%	12.2%	21.3%	22.0%
	2019	48.4%	14.4%	26.4%	19.5%
自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	2021	76.4%	3.3%	21.4%	36.2%
	2020	75.6%	3.5%	20.4%	31.3%
	2019	71.9%	5.1%	17.5%	33.6%
自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること	2021	63.8%	6.5%	20.2%	18.0%
	2020	67.1%	5.6%	21.6%	17.1%
	2019	65.8%	4.9%	19.1%	16.7%

(2019、2020、2021 年度年度県民ニーズ調査)

(2) 地域別

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

重要性に関する意識

(人、%) 満足度

(人、%)

【生活重要度】文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること

【生活満足度】文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること

居住地域別	全 体	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要ではない	まったく重要ではない	分からない	無回答	
									上段：実数
居住地域別	全 体	1,503	233	517	478	200	24	26	25
		100.0	15.5	34.4	31.8	13.3	1.6	1.7	1.7
	横 浜	590	97	206	170	87	12	11	7
		100.0	16.4	34.9	28.8	14.7	2.0	1.9	1.2
	川 崎	204	43	67	66	22	1	4	1
		100.0	21.1	32.8	32.4	10.8	0.5	2.0	0.5
	相模原	108	13	42	36	11	2	-	4
		100.0	12.0	38.9	33.3	10.2	1.9	-	3.7
	横須賀三浦	127	19	46	36	21	1	3	1
		100.0	15.0	36.2	28.3	16.5	0.8	2.4	0.8
	県 央	143	17	44	59	17	3	2	1
		100.0	11.9	30.8	41.3	11.9	2.1	1.4	0.7
	湘 南	217	31	72	75	26	4	2	7
	100.0	14.3	33.2	34.6	12.0	1.8	0.9	3.2	
県 西	53	9	19	16	9	-	-	-	
	100.0	17.0	35.8	30.2	17.0	-	-	-	
無回答	61	4	21	20	7	1	4	4	
	100.0	6.6	34.4	32.8	11.5	1.6	6.6	6.6	
性別	全 体	1,503	233	517	478	200	24	26	25
		100.0	15.5	34.4	31.8	13.3	1.6	1.7	1.7
	男 性	721	95	226	269	95	16	9	11
		100.0	13.2	31.3	37.3	13.2	2.2	1.2	1.5
女 性	717	135	265	190	98	6	13	10	
	100.0	18.8	37.0	26.5	13.7	0.8	1.8	1.4	
無回答	65	3	26	19	7	2	4	4	
	100.0	4.6	40.0	29.2	10.8	3.1	6.2	6.2	
年代別	全 体	1,503	233	517	478	200	24	26	25
		100.0	15.5	34.4	31.8	13.3	1.6	1.7	1.7
	18～19歳	3	1	-	1	1	-	-	-
		100.0	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-
	20歳代	82	27	21	21	11	-	2	-
		100.0	32.9	25.6	25.6	13.4	-	2.4	-
	20歳代以下	85	28	21	22	12	-	2	-
		100.0	32.9	24.7	25.9	14.1	-	2.4	-
	30歳代	185	43	57	45	33	5	1	1
		100.0	23.2	30.8	24.3	17.8	2.7	0.5	0.5
	40歳代	299	51	88	110	36	7	5	2
		100.0	17.1	29.4	36.8	12.0	2.3	1.7	0.7
	50歳代	338	50	114	110	52	7	2	3
		100.0	14.8	33.7	32.5	15.4	2.1	0.6	0.9
	60歳代	281	37	112	85	32	4	4	7
		100.0	13.2	39.9	30.2	11.4	1.4	1.4	2.5
	70～74歳	146	8	61	50	19	-	5	3
	100.0	5.5	41.8	34.2	13.0	-	3.4	2.1	
75歳以上	112	13	44	39	8	-	3	5	
	100.0	11.6	39.3	34.8	7.1	-	2.7	4.5	
無回答	57	3	20	17	8	1	4	4	
	100.0	5.3	35.1	29.8	14.0	1.8	7.0	7.0	

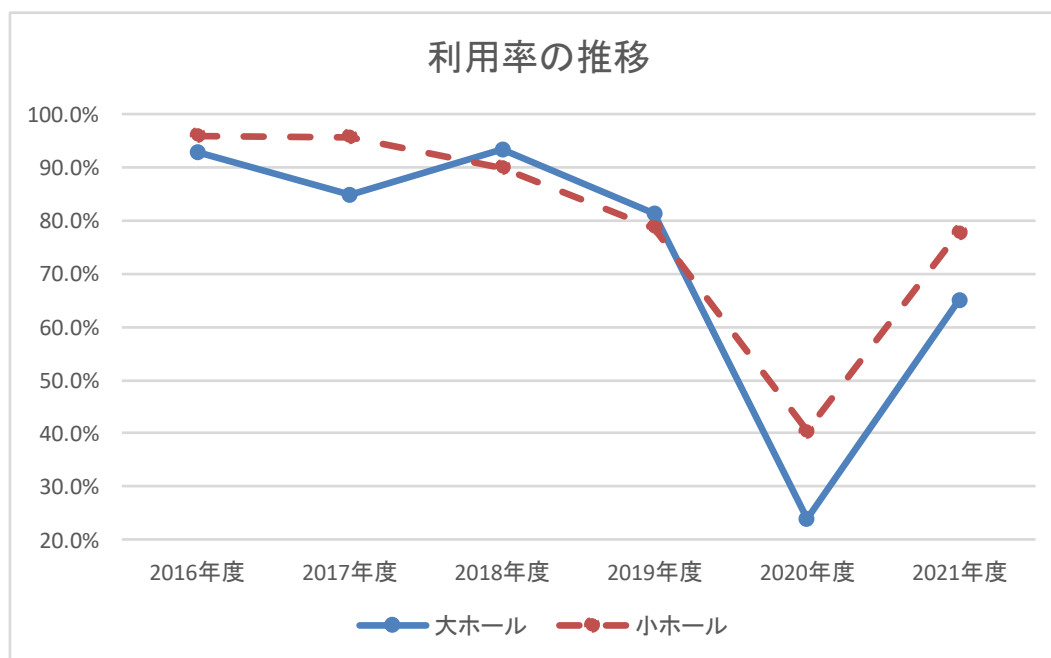
居住地域別	全 体	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答	
									上段：実数
居住地域別	全 体	1,503	38	266	670	254	106	136	33
		100.0	2.5	17.7	44.6	16.9	7.1	9.0	2.2
	横 浜	590	21	123	241	95	41	59	10
		100.0	3.6	20.8	40.8	16.1	6.9	10.0	1.7
	川 崎	204	9	40	97	30	11	16	1
		100.0	4.4	19.6	47.5	14.7	5.4	7.8	0.5
	相模原	108	2	18	47	20	10	6	5
		100.0	1.9	16.7	43.5	18.5	9.3	5.6	4.6
	横須賀三浦	127	2	25	60	16	9	13	2
		100.0	1.6	19.7	47.2	12.6	7.1	10.2	1.6
	県 央	143	2	18	73	28	10	11	1
		100.0	1.4	12.6	51.0	19.6	7.0	7.7	0.7
	湘 南	217	2	33	97	40	15	21	9
	100.0	0.9	15.2	44.7	18.4	6.9	9.7	4.1	
県 西	53	-	2	31	10	6	4	-	
	100.0	-	3.8	58.5	18.9	11.3	7.5	-	
無回答	61	-	7	24	15	4	6	5	
	100.0	-	11.5	39.3	24.6	6.6	9.8	8.2	
性別	全 体	1,503	38	266	670	254	106	136	33
		100.0	2.5	17.7	44.6	16.9	7.1	9.0	2.2
	男 性	721	24	109	369	98	51	55	15
		100.0	3.3	15.1	51.2	13.6	7.1	7.6	2.1
女 性	717	14	148	276	140	51	75	13	
	100.0	2.0	20.6	38.5	19.5	7.1	10.5	1.8	
無回答	65	-	9	25	16	4	6	5	
	100.0	-	13.8	38.5	24.6	6.2	9.2	7.7	
年代別	全 体	1,503	38	266	670	254	106	136	33
		100.0	2.5	17.7	44.6	16.9	7.1	9.0	2.2
	18～19歳	3	-	1	2	-	-	-	-
		100.0	-	33.3	66.7	-	-	-	-
	20歳代	82	3	15	33	10	11	9	1
		100.0	3.7	18.3	40.2	12.2	13.4	11.0	1.2
	20歳代以下	85	3	16	35	10	11	9	1
		100.0	3.5	18.8	41.2	11.8	12.9	10.6	1.2
	30歳代	185	12	37	69	29	15	22	1
		100.0	6.5	20.0	37.3	15.7	8.1	11.9	0.5
	40歳代	299	9	51	141	50	14	30	4
		100.0	3.0	17.1	47.2	16.7	4.7	10.0	1.3
	50歳代	338	6	60	165	56	22	25	4
		100.0	1.8	17.8	48.8	16.6	6.5	7.4	1.2
	60歳代	281	6	44	131	47	22	22	9
		100.0	2.1	15.7	46.6	16.7	7.8	7.8	3.2
	70～74歳	146	-	30	59	28	11	13	5
	100.0	-	20.5	40.4	19.2	7.5	8.9	3.4	
75歳以上	112	2	22	49	20	7	8	4	
	100.0	1.8	19.6	43.8	17.9	6.3	7.1	3.6	
無回答	57	-	6	21	14	4	7	5	
	100.0	-	10.5	36.8	24.6	7.0	12.3	8.8	

VI 進行管理のための参考指標等

4 県立文化施設の利用率（ホール・劇場等）

（1）県民ホール本館

年度	大ホール			小ホール		
	利用可能日数（日）	利用日数（日）	利用率	利用可能日数（日）	利用日数（日）	利用率
2016年度	333	309	92.8%	340	326	95.9%
2017年度	92	78	84.8%	93	89	95.7%
2018年度	282	263	93.3%	339	305	90.0%
2019年度	337	274	81.3%	341	268	78.6%
2020年度	297	71	23.9%	304	123	40.5%
2021年度	334	217	65.0%	338	263	77.8%

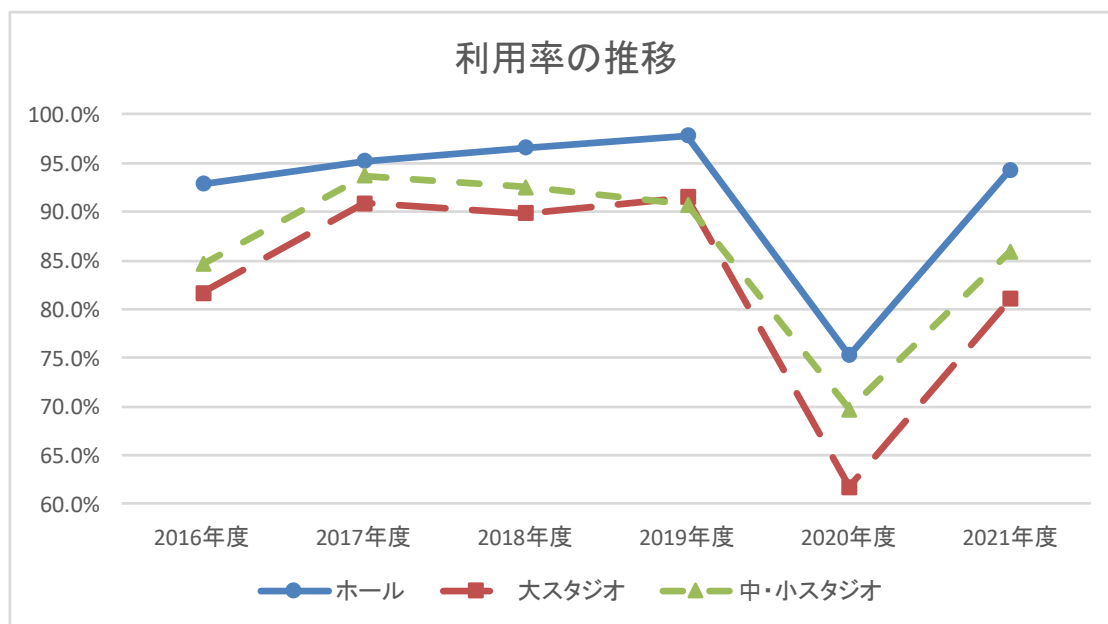


※ 2017年7月3日から2018年5月31日までの期間については、改修工事のため休館

VI 進行管理のための参考指標等

(2) KAAT 神奈川芸術劇場

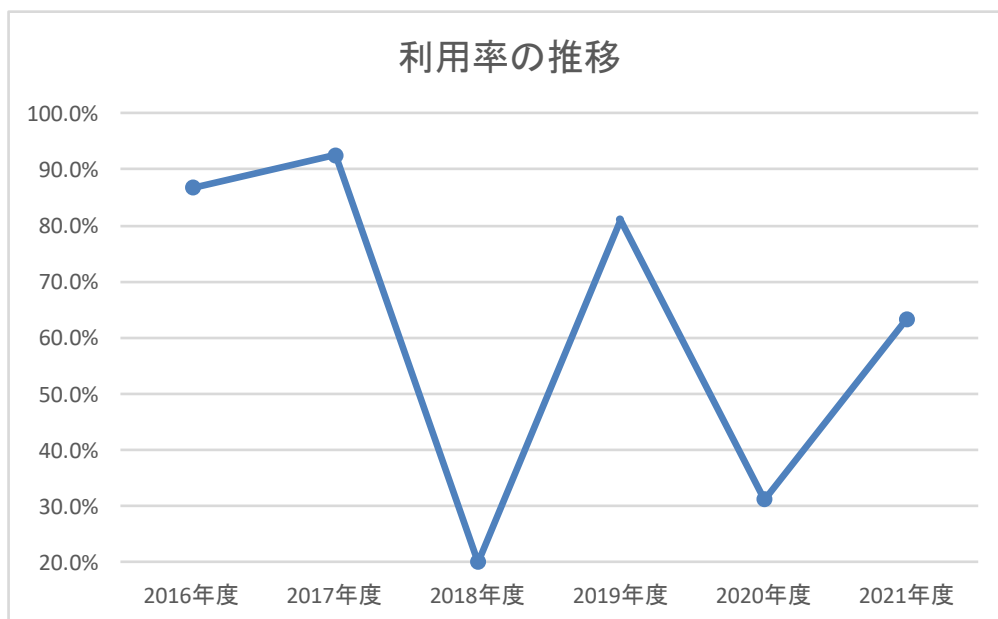
年度	ホール			大スタジオ			中・小スタジオ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	323	300	92.9%	333	272	81.7%	351	297	84.6%
2017年度	315	300	95.2%	330	300	90.9%	349	327	93.7%
2018年度	319	308	96.6%	336	302	89.9%	349	323	92.6%
2019年度	317	310	97.8%	340	311	91.5%	345	313	90.7%
2020年度	291	219	75.3%	306	189	61.8%	320	223	69.7%
2021年度	281	265	94.3%	338	274	81.1%	349	300	86.0%



VI 進行管理のための参考指標等

(3) 音楽堂

利用状況 年度	ホール		
	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率
2016年度	295	256	86.8%
2017年度	297	275	92.6%
2018年度	-	-	20.0%
2019年度	246	199	80.9%
2020年度	273	85	31.1%
2021年度	295	187	63.4%

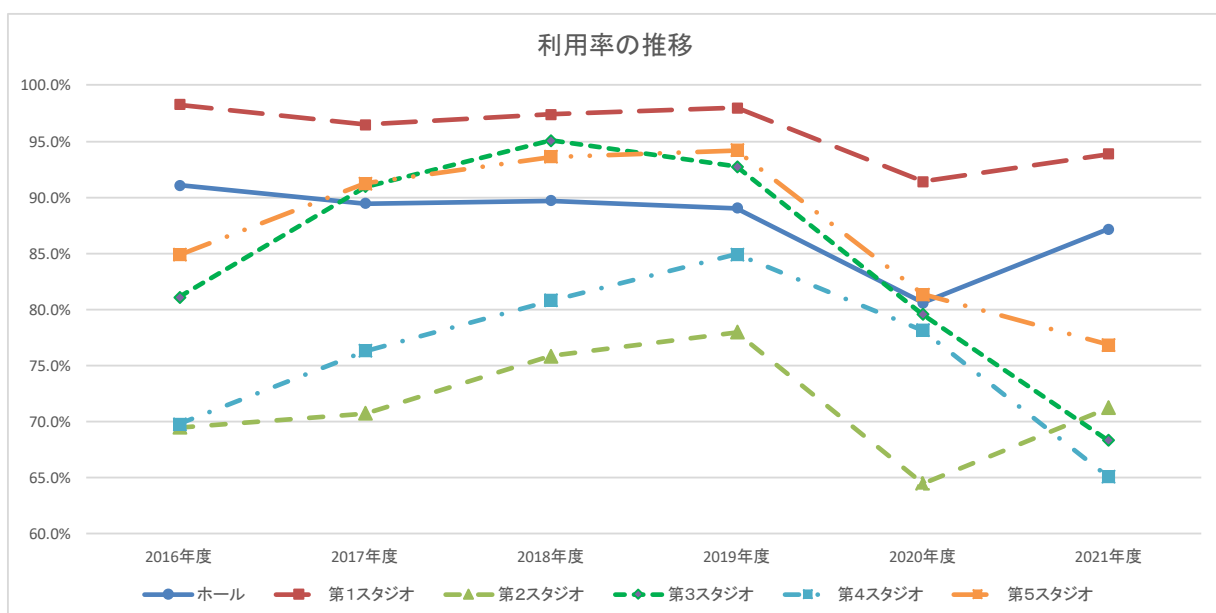


※ 2018年4月1日から2019年5月31日までの期間については、改修工事のため休館

VI 進行管理のための参考指標等

(4) かながわアートホール

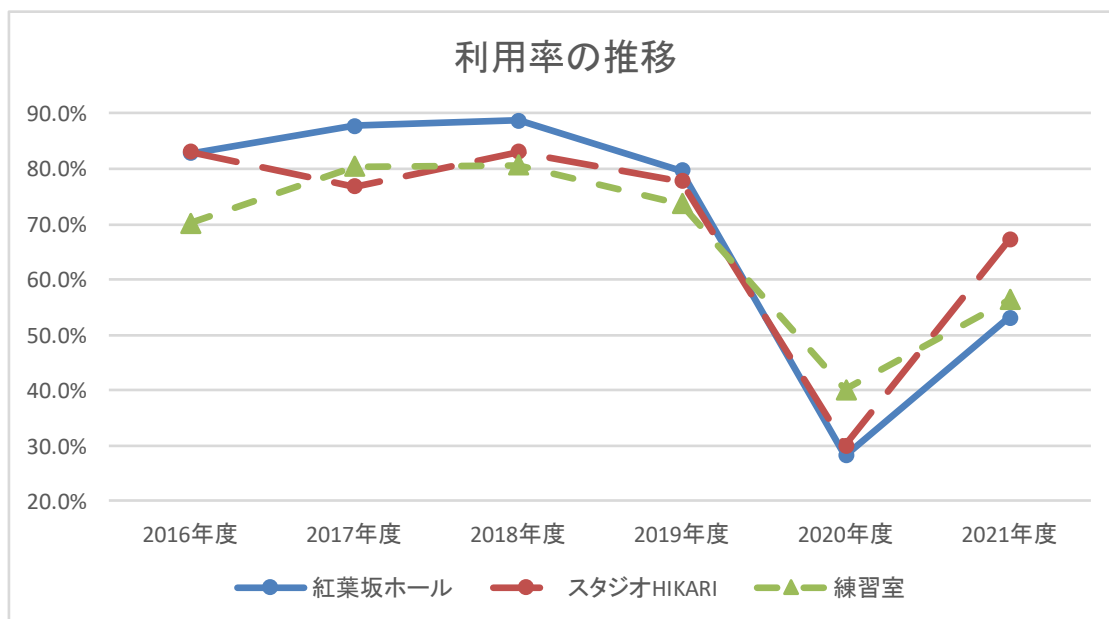
利用状況 年度	ホール			第1スタジオ			第2スタジオ			第3スタジオ			第4スタジオ			第5スタジオ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	336	306	91.1%	344	338	98.3%	344	239	69.5%	344	279	81.1%	344	240	69.8%	344	292	84.9%
2017年度	332	297	89.5%	342	330	96.5%	342	242	70.8%	342	311	90.9%	342	261	76.3%	342	312	91.2%
2018年度	320	287	89.7%	344	335	97.4%	344	261	75.9%	344	327	95.1%	344	278	80.8%	344	322	93.6%
2019年度	338	301	89.1%	345	338	98.0%	345	269	78.0%	345	320	92.8%	345	293	84.9%	345	325	94.2%
2020年度	278	224	80.6%	279	255	91.4%	279	180	64.5%	279	222	79.6%	279	218	78.1%	279	227	81.4%
2021年度	335	292	87.2%	341	320	93.8%	341	243	71.3%	341	233	68.3%	341	222	65.1%	341	262	76.8%



VI 進行管理のための参考指標等

(5) 青少年センター

利用状況 年度	紅葉坂ホール			スタジオHIKARI			練習室		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	297	246	82.8%	325	270	83.1%	335	235	70.1%
2017年度	301	264	87.7%	323	248	76.8%	321	258	80.4%
2018年度	302	268	88.7%	306	254	83.0%	294	237	80.6%
2019年度	295	235	79.7%	328	255	77.7%	247	182	73.7%
2020年度	291	82	28.2%	326	98	30.1%	279	112	40.1%
2021年度	292	155	53.1%	326	219	67.2%	259	146	56.4%

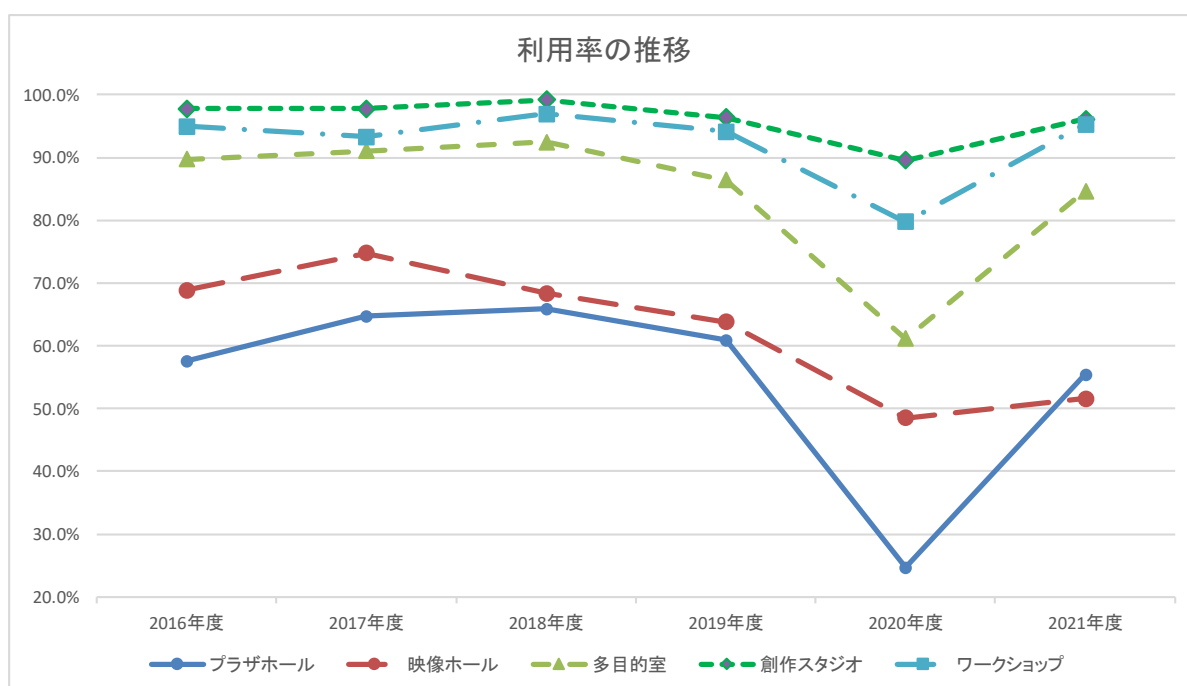


※ 「多目的プラザ」を、2019年3月から、「スタジオ HIKARI」としてリニューアルオープン

VI 進行管理のための参考指標等

(6) 地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）

利用状況 年度	プラザホール			映像ホール			多目的室			創作スタジオ			ワークショップ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	342	197	57.6%	344	237	68.9%	359	322	89.7%	359	351	97.8%	359	341	95.0%
2017年度	340	220	64.7%	345	258	74.8%	359	327	91.1%	359	351	97.8%	359	335	93.3%
2018年度	340	224	65.9%	345	236	68.4%	359	332	92.5%	359	356	99.2%	359	348	96.9%
2019年度	340	207	60.9%	345	220	63.8%	360	311	86.4%	360	347	96.4%	360	339	94.2%
2020年度	292	72	24.7%	295	143	48.5%	306	187	61.1%	306	274	89.5%	306	244	79.7%
2021年度	350	194	55.4%	351	181	51.6%	359	304	84.7%	359	345	96.1%	359	342	95.3%



VI 進行管理のための参考指標等

5 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合

都道府県	標本数	10歳以上 推定人口 (千人)	総数	スポーツ 観 覧 (テレビ・ スマートフォン・パソコン などは除く)	美術鑑賞 (テレビ・ スマートフォン・パソコン などは除く)	演芸・演劇・ 舞踊鑑賞 (テレビ・ スマートフォン・パソコン などは除く)	映画館での 映画鑑賞	映画館以外 での映画鑑賞 (テレビ・ DVD・ パソコンな ど)	音 楽 会 などによる クラシック 音楽鑑賞	音 楽 会 などによる ポピュラー 音 楽・ 歌謡曲鑑賞	CD・ スマートフォ ンなどによる 音楽鑑賞	楽器の演奏
全国	179,297	113,300	87.0	21.5	19.4	14.5	39.6	52.1	10.1	13.7	49.0	10.9
北海道	4,860	4,756	85.2	24.6	14.6	10.8	31.0	49.7	8.7	12.6	47.5	9.1
青森県	3,472	1,152	80.7	16.1	12.8	9.2	27.0	47.3	6.6	9.3	41.3	7.4
岩手県	3,555	1,135	84.0	20.5	11.9	12.7	24.3	43.9	7.4	11.1	42.2	8.4
宮城県	3,586	2,091	86.7	26.4	18.3	13.2	38.2	52.5	9.4	14.0	50.0	10.6
秋田県	3,743	906	80.3	21.4	13.0	11.8	26.1	43.4	7.4	10.7	38.6	8.1
山形県	4,040	992	84.0	19.1	15.9	12.1	36.6	44.8	8.3	12.5	40.7	8.8
福島県	3,743	1,708	83.4	17.9	16.4	10.7	29.7	46.4	7.9	12.3	41.6	7.6
茨城県	3,678	2,604	87.5	18.8	16.8	11.5	40.2	51.1	8.8	13.3	47.9	9.3
栃木県	3,516	1,759	84.2	17.6	14.5	10.5	37.6	49.0	8.3	11.3	44.2	10.5
群馬県	3,449	1,754	86.3	18.2	16.2	12.8	36.2	49.1	8.6	12.3	45.2	10.1
埼玉県	5,965	6,555	89.3	20.8	18.9	15.6	44.7	55.6	11.3	15.6	53.0	11.7
千葉県	5,046	5,614	90.6	23.0	21.4	15.9	45.1	57.9	10.9	14.9	53.3	11.8
東京都	4,836	12,346	90.1	23.8	30.2	22.2	49.7	61.7	14.6	18.0	59.0	14.3
神奈川県	5,351	8,216	90.1	25.3	23.2	16.8	47.4	58.4	13.8	16.7	56.4	13.8
新潟県	3,774	2,044	83.3	16.8	18.0	9.9	33.9	46.0	7.7	11.7	42.5	8.5
富山県	3,871	949	87.0	20.0	24.2	14.3	40.3	49.5	9.9	13.5	45.0	10.5
石川県	3,472	1,016	88.0	20.0	23.2	14.4	39.4	50.3	10.2	12.1	45.7	9.3
福井県	3,978	693	85.4	15.9	17.7	10.6	37.2	47.0	9.5	12.7	42.9	8.9
山梨県	3,297	744	84.9	20.2	17.3	11.8	34.9	49.2	9.8	11.7	43.3	8.3
長野県	3,791	1,861	85.6	18.9	19.0	12.9	32.5	49.4	12.6	13.6	44.1	10.4
岐阜県	3,854	1,807	85.4	17.0	14.2	12.1	38.9	47.6	8.2	11.3	43.4	10.2
静岡県	3,827	3,294	86.6	17.5	16.8	11.4	35.0	48.8	8.5	13.1	44.2	10.0
愛知県	6,208	6,687	88.8	22.9	18.9	15.2	42.0	54.3	9.5	13.0	49.9	12.0
三重県	3,538	1,614	86.6	18.3	14.9	12.2	37.5	49.4	7.9	12.8	46.5	9.9
滋賀県	3,566	1,253	88.5	20.4	18.1	15.1	40.2	52.2	9.8	13.7	50.2	12.7
京都府	3,115	2,338	88.3	19.7	23.9	17.0	41.2	52.4	10.6	15.2	51.1	12.4
大阪府	5,197	7,923	86.6	20.8	18.7	16.7	43.0	52.8	9.6	13.6	50.1	10.0
兵庫県	4,940	4,935	87.2	22.5	18.7	16.0	38.9	50.2	11.1	15.0	47.8	12.0
奈良県	3,458	1,217	86.9	19.6	21.4	15.8	40.7	52.7	10.4	14.4	47.8	10.0
和歌山県	3,280	852	83.4	16.9	13.0	10.7	36.9	46.9	7.2	11.8	41.6	8.9
鳥取県	3,452	501	83.1	16.1	16.8	11.4	26.2	43.1	8.5	10.4	41.5	9.3
島根県	3,710	607	84.0	20.3	17.0	11.0	26.6	43.3	7.6	9.9	40.3	9.6
岡山県	3,323	1,694	87.0	18.8	17.2	12.4	36.9	48.9	7.9	11.8	44.7	10.3
広島県	3,472	2,507	87.1	32.9	20.3	12.4	33.9	48.7	8.7	12.4	47.5	10.6
山口県	3,257	1,231	84.3	19.7	17.7	10.4	34.1	45.6	8.2	11.2	43.2	9.5
徳島県	3,212	664	82.1	18.7	14.1	10.6	31.0	44.9	7.7	10.0	41.3	9.5
香川県	3,445	861	85.2	17.1	16.6	11.4	33.6	48.0	7.8	11.7	42.7	9.5
愛媛県	2,981	1,220	83.6	19.0	15.7	9.7	32.5	46.5	7.6	10.3	42.6	8.3
高知県	3,064	637	80.5	14.0	14.2	8.4	29.0	47.1	6.5	9.7	40.4	7.5
福岡県	4,388	4,481	86.3	26.1	18.0	13.0	39.7	48.5	9.3	12.5	48.1	9.7
佐賀県	3,719	721	83.1	22.7	15.5	11.2	32.0	44.0	6.9	11.2	43.0	8.9
長崎県	3,490	1,191	83.0	18.1	14.8	10.4	29.2	45.0	7.5	10.3	43.4	7.3
熊本県	3,176	1,548	82.3	17.3	13.4	10.8	30.6	43.9	7.8	9.7	40.8	9.8
大分県	3,272	1,016	84.5	19.9	17.4	11.0	33.6	46.6	8.0	11.6	41.3	9.6
宮崎県	3,098	955	81.0	17.9	13.9	10.2	25.5	44.4	8.0	10.1	39.7	9.0
鹿児島県	3,167	1,424	83.5	17.6	12.5	10.4	30.4	45.0	7.9	10.2	42.0	9.0
沖縄県	3,065	1,231	83.9	20.3	13.4	12.5	36.2	49.8	7.3	8.9	48.4	10.7

VI 進行管理のための参考指標等

都道府県	邦楽 (民謡、 日本古来の 音楽を含む)	コーラス・ 声楽	カラオケ	邦舞・ おどり	洋舞・ 社交ダンス	書道	華道	茶道	和裁・洋裁	編み物・ 手芸	趣味 としての 料理・ 菓子作り	園芸・ 庭いじり ・ガーデ ニング
全国	2.9	2.8	30.7	1.6	1.4	4.1	1.8	1.6	6.4	10.6	17.8	25.7
北海道	2.8	2.2	31.1	1.2	1.1	2.6	1.2	1.5	6.4	12.0	17.8	26.5
青森県	2.5	1.4	22.9	1.6	1.1	2.6	1.3	1.0	5.6	10.0	14.3	24.4
岩手県	2.5	2.4	24.4	2.4	1.0	3.0	1.4	1.1	6.4	11.5	15.3	27.9
宮城県	4.0	2.7	29.9	1.6	1.3	2.9	1.5	1.2	6.6	11.4	17.8	27.7
秋田県	3.1	2.0	21.6	2.1	1.1	3.1	1.5	1.4	6.1	10.0	16.1	27.4
山形県	2.5	2.3	27.6	1.8	1.1	3.8	2.2	1.3	5.9	10.8	16.8	28.9
福島県	2.5	2.6	25.4	1.1	1.0	3.4	1.1	0.6	5.3	9.9	15.1	29.1
茨城県	2.3	1.8	29.2	0.9	1.5	4.2	1.6	1.3	5.4	9.8	15.9	32.3
栃木県	2.5	2.5	27.4	1.3	1.2	3.7	1.5	1.3	5.9	9.5	17.4	30.5
群馬県	2.8	2.5	28.9	1.5	1.3	4.5	1.9	1.4	6.7	10.3	16.3	32.1
埼玉県	2.9	3.1	32.6	1.2	1.4	5.4	1.6	1.2	6.6	10.9	18.2	27.1
千葉県	2.4	3.1	33.4	1.6	1.6	4.2	1.4	1.4	6.6	11.1	18.0	28.8
東京都	3.2	3.9	35.2	1.6	1.9	3.8	1.7	1.7	7.2	10.9	19.9	20.7
神奈川県	3.4	4.4	35.3	1.9	2.0	4.3	1.8	1.3	7.8	11.4	21.1	25.0
新潟県	2.4	1.7	26.0	1.7	0.9	3.6	1.8	1.7	5.8	9.7	15.7	26.4
富山県	2.9	2.6	27.2	1.9	1.1	3.8	2.5	2.9	5.5	10.4	16.3	28.2
石川県	3.2	1.4	28.4	2.0	1.2	3.9	2.6	3.1	5.9	10.0	17.5	26.9
福井県	2.7	1.7	27.5	2.0	0.8	4.3	2.8	2.1	5.5	9.7	18.1	26.0
山梨県	2.7	2.3	30.9	2.0	1.2	5.3	1.8	1.5	6.1	9.6	16.5	28.4
長野県	3.0	3.4	28.4	1.9	1.4	4.1	2.5	1.3	5.6	10.6	18.6	30.2
岐阜県	2.7	2.1	26.6	1.6	1.3	4.2	2.1	1.9	5.9	10.2	17.8	27.3
静岡県	2.8	2.4	27.2	1.7	1.5	3.8	1.9	1.7	6.2	10.1	15.8	27.1
愛知県	3.5	2.5	31.6	1.7	1.2	4.4	1.7	1.8	6.3	9.8	17.4	25.1
三重県	3.2	2.3	28.2	1.2	1.0	4.8	2.1	2.1	6.0	11.0	17.8	27.4
滋賀県	2.5	2.7	32.2	0.9	1.2	4.5	2.3	1.4	6.7	11.2	20.5	28.7
京都府	3.4	3.8	28.7	1.4	1.4	4.7	2.8	2.5	6.7	12.4	17.1	25.2
大阪府	2.8	2.9	32.7	1.6	1.7	3.8	1.6	1.8	6.3	10.1	16.8	18.7
兵庫県	2.9	3.8	30.5	1.2	1.8	4.9	2.0	1.6	7.1	11.8	18.5	23.7
奈良県	2.8	3.1	30.9	1.1	1.3	4.6	2.7	2.4	6.9	11.8	19.4	29.6
和歌山県	1.8	2.5	28.7	1.6	1.0	4.3	1.7	1.0	5.9	9.2	15.4	26.2
鳥取県	2.6	2.2	24.5	1.4	0.7	2.9	2.4	2.4	6.4	10.2	15.9	25.3
島根県	2.4	2.6	23.9	1.5	1.0	3.8	2.3	2.0	5.5	10.0	16.2	28.2
岡山県	2.4	2.4	28.1	1.6	1.0	5.5	2.3	2.0	6.0	11.3	18.2	29.6
広島県	2.8	2.2	28.4	1.8	1.0	3.7	1.7	1.9	5.4	11.0	18.4	25.1
山口県	2.4	2.1	27.6	1.4	1.4	4.0	2.7	1.6	6.3	11.0	16.0	29.2
徳島県	1.8	2.1	26.6	2.8	0.8	4.5	1.8	1.5	5.4	8.9	17.8	28.3
香川県	1.9	2.3	25.5	1.7	1.3	4.1	2.1	1.9	5.4	9.5	15.9	29.3
愛媛県	2.1	1.9	27.2	1.5	1.1	4.2	2.1	1.7	5.9	9.5	15.5	29.1
高知県	2.2	1.6	24.3	1.7	1.0	2.5	1.0	0.7	4.6	8.2	12.8	24.6
福岡県	2.9	2.6	32.4	1.8	1.6	4.1	2.3	1.4	5.6	10.3	17.8	24.4
佐賀県	3.0	1.8	26.5	1.9	1.1	5.7	2.1	1.4	5.3	9.4	17.1	26.6
長崎県	2.5	2.5	26.1	2.2	0.9	4.6	1.5	1.2	5.9	9.7	17.2	26.2
熊本県	2.1	1.9	27.0	1.5	1.3	3.9	1.8	1.4	6.0	9.5	16.6	26.1
大分県	2.7	2.0	27.7	1.5	0.8	4.3	1.4	1.1	5.7	9.6	17.6	26.9
宮崎県	2.1	1.9	27.3	1.8	1.1	3.9	1.1	1.0	6.0	9.0	16.2	27.9
鹿児島県	2.3	2.6	28.4	2.2	1.2	3.6	1.4	0.8	6.7	10.2	17.1	29.1
沖縄県	4.8	1.9	39.5	2.2	1.8	3.4	1.3	0.5	4.9	7.0	15.6	21.9

VI 進行管理のための参考指標等

都道府県	日曜大工	絵画・彫刻 の制作	陶芸・工芸	写真の 撮影・ プリント	詩・和歌・ 俳句・小説 などの創作	趣味 としての 読書	囲碁	将棋	パチンコ	テレビゲーム ・パソコン ゲーム(家庭 で行うもの、 携帯用を 含む)	遊園地、 動物園、 水族館 などの見物	キャンプ	その他
全国	10.9	3.5	2.2	24.9	2.5	38.7	1.2	3.2	8.5	35.8	33.8	6.4	3.5
北海道	11.9	3.7	1.9	24.5	2.2	37.8	1.3	2.7	10.6	37.0	27.8	11.0	3.8
青森県	9.9	1.8	1.1	16.7	2.0	29.7	1.1	3.6	9.7	30.9	21.6	4.8	3.4
岩手県	11.9	3.0	1.7	18.1	2.5	33.9	0.9	2.5	10.4	29.9	23.0	4.3	3.3
宮城県	11.4	3.1	2.6	23.8	2.1	39.4	1.4	3.4	9.6	34.2	35.7	5.2	3.1
秋田県	11.8	2.0	1.1	18.0	1.6	31.5	0.8	2.5	8.6	29.0	26.7	3.8	2.9
山形県	10.4	2.7	2.0	19.0	2.4	32.1	0.7	3.4	9.4	31.3	29.9	5.3	3.1
福島県	11.5	1.9	1.7	20.7	2.3	33.9	0.9	2.3	9.7	31.3	26.4	5.2	2.5
茨城県	13.5	2.9	1.9	23.5	2.1	35.7	1.1	2.5	8.6	35.4	35.7	5.5	3.0
栃木県	11.9	3.4	2.0	23.4	2.5	35.2	1.0	3.1	9.1	34.7	34.0	4.7	2.9
群馬県	11.7	3.2	2.2	23.5	2.5	35.1	0.9	3.1	8.1	33.5	33.5	5.1	2.8
埼玉県	10.4	3.7	2.4	28.2	2.7	41.7	1.0	3.8	7.5	37.4	39.0	6.7	3.5
千葉県	12.1	4.0	2.4	28.2	2.5	42.4	1.6	3.6	7.7	38.6	38.1	6.0	3.8
東京都	9.3	4.7	2.9	30.5	3.4	49.6	1.7	3.7	4.9	40.6	40.5	6.6	4.3
神奈川県	11.2	4.6	2.7	30.8	3.5	43.9	1.4	3.4	6.8	40.0	39.5	7.8	4.5
新潟県	10.3	2.4	1.8	19.2	1.4	33.1	0.9	2.5	8.1	30.7	28.3	4.8	2.9
富山県	11.9	2.9	2.1	23.3	1.9	37.0	1.6	2.9	9.1	34.1	33.1	4.5	3.3
石川県	11.3	2.9	1.7	22.2	2.7	35.4	1.0	3.7	11.2	35.2	32.8	5.3	3.8
福井県	11.9	2.3	1.6	19.8	2.0	33.1	1.2	3.3	11.9	33.0	30.3	5.0	2.8
山梨県	11.1	3.5	2.2	21.4	3.0	34.3	1.2	2.5	8.8	32.0	29.9	5.4	3.0
長野県	12.8	3.5	2.3	21.9	2.5	36.4	1.1	2.9	8.9	32.8	27.3	6.1	3.3
岐阜県	10.5	3.0	2.3	21.6	1.8	32.4	1.2	2.3	10.3	34.3	30.7	5.9	3.7
静岡県	10.7	3.3	2.0	21.5	2.2	36.5	1.1	2.4	9.3	34.6	33.5	5.5	3.4
愛知県	10.5	3.4	2.6	26.5	2.0	38.7	0.9	3.4	9.9	39.4	39.2	8.8	3.4
三重県	12.1	2.7	1.8	23.3	2.5	33.8	1.2	2.7	10.5	36.6	33.6	5.8	3.5
滋賀県	13.2	3.4	1.8	25.0	2.1	37.0	0.8	3.9	9.1	37.5	36.1	6.0	3.4
京都府	9.9	3.9	2.9	25.2	3.1	40.6	1.3	3.3	7.6	34.8	38.8	5.8	3.6
大阪府	9.3	3.6	2.3	24.5	2.3	40.1	1.4	3.5	8.3	37.3	34.7	7.4	3.6
兵庫県	10.5	4.2	2.1	26.4	2.4	38.0	1.0	3.0	8.5	35.2	34.5	8.2	4.2
奈良県	11.1	4.7	2.9	27.1	2.8	40.4	1.5	3.5	6.7	34.1	35.9	6.6	3.5
和歌山県	11.6	3.2	1.8	20.0	2.1	29.5	0.5	2.9	9.2	32.0	30.5	5.0	3.0
鳥取県	10.4	2.7	2.1	18.9	1.9	33.9	1.5	3.5	10.1	30.3	25.7	4.1	2.5
島根県	11.1	2.2	2.2	18.7	2.2	33.3	1.4	2.6	8.1	28.8	24.5	3.7	2.4
岡山県	10.4	3.3	2.0	23.3	2.9	37.8	2.0	3.6	8.1	33.5	28.0	4.9	3.0
広島県	10.6	2.6	2.4	24.0	2.1	35.9	1.3	3.1	8.8	35.3	30.7	5.4	3.1
山口県	10.9	2.4	1.6	22.3	2.0	34.5	1.4	2.6	10.2	33.1	31.5	4.2	2.4
徳島県	11.6	3.6	1.8	20.8	3.1	33.5	1.1	3.3	9.1	32.1	26.8	5.1	2.6
香川県	11.3	2.4	1.3	21.2	2.0	33.9	1.5	3.3	9.4	32.8	28.1	4.8	2.9
愛媛県	11.3	2.7	1.6	20.2	2.7	32.9	0.8	3.5	9.9	33.0	24.0	4.3	2.4
高知県	10.2	1.9	1.7	17.0	1.6	30.8	0.7	2.2	11.0	29.0	24.0	4.8	2.7
福岡県	10.8	3.8	1.8	23.2	2.8	36.0	1.2	3.2	9.5	34.4	29.1	6.0	2.8
佐賀県	9.4	2.5	1.7	21.3	1.4	31.3	0.9	2.5	10.4	30.7	26.1	4.0	2.5
長崎県	11.6	3.1	1.3	19.3	1.7	31.5	1.0	2.3	10.5	29.9	24.6	4.0	2.9
熊本県	10.9	3.0	1.3	21.5	2.2	31.7	1.2	3.6	12.9	30.7	24.3	5.0	3.1
大分県	11.7	2.9	1.9	21.8	2.3	32.4	1.1	3.7	10.7	31.6	27.9	5.2	3.2
宮崎県	12.1	2.9	2.2	20.3	1.5	30.7	1.2	2.1	12.2	30.8	26.3	5.4	2.5
鹿児島県	13.4	2.8	1.6	20.9	1.9	30.5	0.8	2.5	12.4	30.2	27.4	5.9	2.0
沖縄県	13.7	3.3	1.7	19.5	1.7	33.0	1.6	2.7	3.9	28.5	24.8	7.2	2.8

平成 28 年「社会生活基本調査」都道府県、趣味・娯楽の種類別行動者率

平成 28 年 社会生活基本調査 調査対象 全国約 8 万 8 千世帯のふだん住んでいる 10 歳以上の世帯員（第 1 次抽出単位を国勢調査区とし、第 2 次抽出単位を世帯とする層化段抽出法）
 調査期日 平成 28 年 10 月 20 日（5 年ごと）
 調査方法 調査員による調査票の配布及び収集

Ⅶ 年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）